

大学番号：私013

[平成31年度設置]

計画の区分：学部の設置

届出

尚絅学院大学 心理・教育学群
心理学類 子ども学類 学校教育学類

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人尚絅学院
令和3年5月1日現在

作成担当者

経営管理部企画課

職名・氏名 カイン 伊丹 シンスケ
課員 伊丹 信祐

電話番号 022-381-3333

(夜間) 022-381-3434

F A X 022-381-3335

e-mail kikakuka@shokei.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

心理・教育学群

<心理学類>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	2
2. 授業科目の概要	6
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	24
7. その他全般的事項	25
<子ども学類>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	30
2. 授業科目の概要	34
3. 施設・設備の整備状況、経費	42
4. 既設大学等の状況	43
5. 教員組織の状況	44
6. 附帯事項等に対する履行状況等	56
7. その他全般的事項	57
<学校教育学類>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	62
2. 授業科目の概要	66
3. 施設・設備の整備状況、経費	74
4. 既設大学等の状況	75
5. 教員組織の状況	76
6. 附帯事項等に対する履行状況等	88
7. その他全般的事項	89

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人尚綱学院

(2) 大学名

尚綱学院大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒981-1295

宮城県名取市ゆりが丘四丁目10番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ササキコウメイ) 佐々木 公明 (平成27年9月)		
学長	(ゴウダタカフミ) 合田 隆史 (平成26年4月)		
学群長	(マツモト(タニ) マミ) 松本(谷)真奈美 (平成31年4月)		
心理学類長	(タジマヒロユキ) 田島 裕之 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和2年度に報告する内容 → (2)

令和3年度に報告する内容 → (3)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
 ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
心理・教育学群 心理学類 学士(心理学)	文学関係	4年	60人	3年次 年次 2人	244人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和元年		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	60 (-) [0]	—	60 (-) [0]	—	60 (-) [0]	—	() []	() []	1.25 倍	— 倍	留学生の入学定員はいつれの年も「若干名」
志願者数	269 (-) [0]	() []	303 (-) [0]	() []	399 (-) [0]	() []	() []	() []			
受験者数	267 (-) [0]	() []	300 (-) [0]	() []	388 (-) [0]	() []	() []	() []			
合格者数	183 (-) [0]	() []	203 (-) [0]	() []	105 (-) [0]	() []	() []	() []			
B 入学者数	68 (-) [0]	() []	90 (-) [0]	() []	67 (-) [0]	() []	() []	() []			
入学定員超過率 B/A	1.13		1.50		1.12						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年		令和2年度		令和3年度		令和4年度				備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	68 [0] (0)	— [] ()	90 [0] (0)	 [] ()	68 [0] (1)	 [] ()	 [] ()	 [] ()	 [] ()	 [] ()	
2年次	/		69 [0] (0)	 [] ()	87 [0] (0)	 [] ()	 [] ()	 [] ()	 [] ()	 [] ()	
3年次			/		/		69 [0] (0)	 [] ()	 [] ()	 [] ()	 [] ()
4年次	/						/		 [] ()	 [] ()	 [] ()
計			68 [0] (0)		159 [0] (0)				224 [0] (1)		 [] ()

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	68 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	159 人	2 人	令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	2 人	0 人	他の教育機関への転学(2)
令和3年度	224 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
令和4年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
合計		2 人		2 人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{68} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{159} = \boxed{1.25} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{224} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<心理・教育学群 心理学類>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

Table with 11 columns: 科目区分, 授業科目の名称, 配当年度, 単位数 (必修, 選択, 自由), 専任教員等の配置 (教, 准教授, 講師, 助教, 助手), 兼任・兼担. Rows include subjects like キリスト教概論, 心理学概論, and 英語コミュニケーション.

【令和3年度】

Table with 11 columns: 科目区分, 授業科目の名称, 配当年度, 単位数 (必修, 選択, 自由), 専任教員等の配置 (教, 准教授, 講師, 助教, 助手), 兼任・兼担. Rows include subjects like キリスト教概論, 心理学概論, and 英語コミュニケーション for the 2021 fiscal year.

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手	
専門発展科目	基礎心理学	2後	2			1					1	
	知覚・認知心理学	2前	2			1						
	学習・言語心理学Ⅰ（学習の基礎）	3前	2			1						
	学習・言語心理学Ⅱ（言語と行動）	2後	2			1						
	感情・人格心理学	2前	2									
専門教育科目	社会・集団・家族心理学Ⅰ（社会心理学）	1前	2			1					1	
	社会・集団・家族心理学Ⅱ（グループダイナミクス）	3後	2			1						
	社会・集団・家族心理学Ⅲ（家族心理学）	4後	2									
	発達心理学Ⅰ（発達の基礎領域）	2前	2			1						
	発達心理学Ⅱ（社会の中の発達）	3前	2			1						
	障害者・障害児心理学	2後	2								1	
	心理的アセスメント	2後	2			1						
	心理学的支援法Ⅰ（心理学支援基礎）	2前	2			1						
	心理学的支援法Ⅱ（心理学支援応用）	2後	2								1	
	小計（14科目）	—	0	28	0	5	5	0	0	0	4	
	実践心理学	健康・医療心理学	2後	2			1					1
		福祉心理学	2後	2								
		応用社会心理学	1後	2			1					
教育・学校心理学		2前	2			1						
司法・犯罪心理学		3前	2			1						
産業・組織心理学		4前	2								1	
認知心理学実験演習		3前	2			1						
小計（7科目）	—	0	14	0	2	2	0	0	0	2		
心理学関連	人体の構造と機能及び疾病	3前	2								1	
	精神疾患とその治療	3後	2			1						
	関係行政論	3後	2			3	1				1	
小計（3科目）	—	0	6	0	3	2	0	0	0	2		
実習演習科目	心理演習	3後	2			2	2					
	心理学専門演習	3後	2			4	4					
	心理実習	4通	2			2	2				1	
	フィールドワーク演習	3前	2			1						
	卒業研究	4通	6			4	4					
小計（5科目）	—	8	6	0	4	4	0	0	0	1		
合計（106科目）		—	40	170	0	4	4	0	0	0	60	
卒業要件及び履修方法												
教養教育科目33単位以上、専門教育科目60単位以上、合計124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：45単位（年間））												

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手	
専門発展科目	心理学実験	2前	4			3	1					
	小計（7科目）	—	12	4	0	4	2	2	0	0	1	
	基礎心理学	知覚・認知心理学	1後	2			1					
		学習・言語心理学Ⅰ（学習の基礎）	2前	2			1					
		学習・言語心理学Ⅱ（言語と行動）	3前	2			1					
		感情・人格心理学	2後	2				1				
		神経・生理心理学	2前	2								1
		社会・集団・家族心理学Ⅰ（社会心理学）	1前	2			1					
		社会・集団・家族心理学Ⅱ（グループダイナミクス）	3後	2			1					
		社会・集団・家族心理学Ⅲ（家族心理学）	4後	2								1
		発達心理学Ⅰ（発達の基礎領域）	2前	2			1					
		発達心理学Ⅱ（社会の中の発達）	3前	2			1					
		障害者・障害児心理学	2後	2								1
		心理的アセスメント	2後	2			2	1	1			
		心理学的支援法Ⅰ（心理学支援基礎）	2前	2								1
心理学的支援法Ⅱ（心理学支援応用）		2後	2								1	
小計（14科目）	—	0	28	0	8	3	1	0	0	4		
専門教育科目	実践心理学	健康・医療心理学	2後	2			1					
		福祉心理学	2後	2			1					
		応用社会心理学	1後	2			1					
		教育・学校心理学	2前	2					1			
		司法・犯罪心理学	3前	2			1					
		産業・組織心理学	4前	2							1	
		認知心理学実験演習	3前	2			1					
	小計（7科目）	—	0	14	0	2	2	1	0	0	2	
	心理学関連	人体の構造と機能及び疾病	3前	2								1
		精神疾患とその治療	3後	2			1					
		関係行政論	3後	2			3	1				1
	小計（3科目）	—	0	6	0	3	1	1	0	0	1	
	実習演習科目	心理演習	3後	2			2	1				
		心理学専門演習	3後	2			4	4				
		心理実習	4通	2			2	2				1
フィールドワーク演習		3前	2			1						
卒業研究		4通	6			4	4					
小計（5科目）	—	8	6	0	4	4	3	1	0	0		
合計（108科目）		—	42	171	0	6	3	1	0	0	61	
卒業要件及び履修方法												
教養教育科目33単位以上、専門教育科目60単位以上、合計124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：45単位（年間））												

【令和2年度】

Table for 令和2年度 showing subject distribution with columns for subject name, credit, and staff configuration.

【令和元年度】

Table for 令和元年度 showing subject distribution with columns for subject name, credit, and staff configuration.

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	社会・集団・家族心理学II (グループダイナミクス)	3後		2		1						1	
	社会・集団・家族心理学III (家族心理学)	4後		2									
	発達心理学I (発達の基礎領域)	2前		2		1							
	発達心理学II (社会の中の発達)	3前		2		1							
	障害者・障害児心理学	2後		2								1	
	心理的アセスメント	2後		2				1					
	心理学的支援法I (心理学支援基礎)	2前		2			1						
	心理学的支援法II (心理学支援応用)	2後		2								1	
	小計 (14科目)	—	0	28	0	6	3	1	0	0	0	4	
	実践心理学	健康・医療心理学	2後		2			1					
	福祉心理学	福祉心理学	2後		2		1						
	応用社会心理学	応用社会心理学	1後		2		1						
	教育・学校心理学	教育・学校心理学	2前		2			1					
	司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	3前		2		1						
産業・組織心理学	産業・組織心理学	4前		2							1		
認知心理学実験演習	認知心理学実験演習	3前		2			1						
小計 (7科目)	—	0	14	0	2	2	1	0	0	0	2		
心理学関連科目	人体の構造と機能及び疾病	3前		2								1	
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	3後		2			1						
関係行政論	関係行政論	3後		2		3	1				1		
小計 (3科目)	—	0	6	0	3	2	0	0	0	0	2		
実習演習科目	心理演習	3後		2		2	2	1					
心理学専門演習	心理学専門演習	3後	2			5	3						
心理実習	心理実習	4通		2		3	2	1					
フィールドワーク演習	フィールドワーク演習	3前		2		1							
卒業研究	卒業研究	4通	6			6	3	1					
小計 (5科目)	—	8	6	0	6	3	1	0	0	0	0		
合計 (108科目)	—	42	171	0	6	3	1	0	0	0	61		
卒業要件及び履修方法													
教養教育科目33単位以上、専門教育科目60単位以上、合計124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：45単位 (年間))													

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	発達心理学I (発達の基礎領域)	2前		2		1							
	発達心理学II (社会の中の発達)	3前		2		1							
	障害者・障害児心理学	2後		2								1	
	心理的アセスメント	2後		2					1				
	心理学的支援法I (心理学支援基礎)	2前		2			1						
	心理学的支援法II (心理学支援応用)	2後		2								1	
	小計 (14科目)	—	0	28	0	6	3	1	0	0	0	4	
	実践心理学	健康・医療心理学	2後		2			1					
	福祉心理学	福祉心理学	2後		2		1						
	応用社会心理学	応用社会心理学	1後		2		1						
	教育・学校心理学	教育・学校心理学	2前		2			1					
	司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	3前		2		1						
	産業・組織心理学	産業・組織心理学	4前		2							1	
	認知心理学実験演習	認知心理学実験演習	3前		2			1					
小計 (7科目)	—	0	14	0	2	2	1	0	0	0	2		
心理学関連科目	人体の構造と機能及び疾病	3前		2								1	
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	3後		2			1						
関係行政論	関係行政論	3後		2		3	1				1		
小計 (3科目)	—	0	6	0	3	2	0	0	0	0	2		
実習演習科目	心理演習	3後		2		2	2	1					
心理学専門演習	心理学専門演習	3後	2			5	3						
心理実習	心理実習	4通		2		3	2	1					
フィールドワーク演習	フィールドワーク演習	3前		2		1							
卒業研究	卒業研究	4通	6			6	3	1					
小計 (5科目)	—	8	6	0	6	3	1	0	0	0	0		
合計 (107科目)	—	40	171	0	6	3	1	0	0	0	60		
卒業要件及び履修方法													
教養教育科目33単位以上、専門教育科目60単位以上、合計124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：45単位 (年間))													

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

<p>教養教育科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目の内容により、「現代の倫理」の配当年次を「1後」から「2後」に変更。 ・教育課程充実のため新規科目追加 科目名 「メディアリテラシー」 「1前」1単位 ・「健康スポーツⅡ（講義・実技）」についてCAP制等の理由で1年次の履修が厳しいため配当年次変更。 「1後」→「2後」 <p>専門教育科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目の特性を考慮し配当年次を変更 科目名 「臨床心理学概論」 「2後」→「1後」 「知覚・認知心理学」 「2後」→「1後」 ・教育課程充実のため専任教員の追加及び職位変更に伴い専任教員の配置修正。 科目名 心理教育学総論 心理学研究法 心理学実験 発達心理学Ⅰ（発達の基礎領域） 発達心理学Ⅱ（社会の中の発達） 心理的アセスメント 福祉心理学 教育・学校心理学 心理演習 心理学専門演習 心理実習 卒業研究
--

【令和2年度】

<p>教養教育科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教養課程充実のため新規科目開設 科目名 「AI社会とデータサイエンス」
--

【令和3年度】

特になし

【令和4年度】

--

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
19 科目	87 科目	0 科目	106 科目	20 科目 [1]	88 科目 [1]	0 科目 []	108 科目 [2]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	国際交流演習	2	1	一般	選択	コロナ感染症拡大による影響の為
2	海外インターンシップ	2	2	一般	選択	コロナ感染症拡大による影響の為
3	現代の倫理	2	2	一般	選択	担当教員が研究専念制度取得の為
4	世界の宗教と文化	2	2	一般	選択	担当教員が研究専念制度取得の為

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

コロナ感染症拡大による影響の為、本年度は非開講という判断を行い、学生には、オリエンテーション及び履修登録時点で周知した。
 担当教員が研究専念制度を取得の為、教養教育科目2科目が今年度非開講となった。学生には、オリエンテーション及び履修登録時点で周知をした。次年度は開講予定である。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{4}{108} = \boxed{3.7}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 部室棟の解体により「校舎敷地面積」が減少、「その他」面積が増加「(2)」		
	校舎敷地	96,173㎡ 96,422㎡	㎡	㎡	96,173㎡ 96,422㎡			
	運動場用地	42,453㎡	㎡	㎡	42,453㎡			
	小 計	138,626㎡ 138,875㎡	㎡	㎡	138,626㎡ 138,875㎡			
	そ の 他	154,761㎡ 154,512㎡	㎡	㎡	154,761㎡ 154,512㎡			
	合 計	293,387㎡	㎡	㎡	293,387㎡			
(2) 校 舎	専 用	25,312㎡ 27,717㎡	-㎡	㎡	25,312㎡ 27,717㎡	大学全体 体育館面積を除外したため(修正) 「(2)」		
	(25,312 ㎡)	(- ㎡)	(㎡)	(25,312 ㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	24室 22室	演 習 室	15室 17室	実験実習室	45室 46室	使用目的変更による 「(2)」	
				情報処理学習施設	4室 (補助職員 3人)	語学学習施設		2室 (補助職員 人)
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	心理・教育学群心理学類			10 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	
		[うち外国書]	[うち外国書]					[うち外国書]
		冊	種	点	点	点		
		心理・教育学群心理学類	20,056 [2,924] 21,224 [2,953] (20,032 [2,842]) 20,033 [2,842]	75 [26] 74 [26] 75 [26] 74 [26]	616 [616] 625 [625] 616 [616] 625 [625]	380 382 380 382	0 (0)	0 (0)
計	20,056 [2,924] 21,224 [2,953] (20,032 [2,842]) 20,033 [2,842]	75 [26] 74 [26] 75 [26] 74 [26]	616 [616] 625 [625] 616 [616] 625 [625]	380 382 380 382	0 (0)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積	2,338㎡ 2,331㎡	閱 覧 座 席 数	231	収 納 可 能 冊 数	200,000	大学全体 数値誤記入「(2)」	
	面 積	2,966㎡ 2,339㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体		
(7) 体 育 館	テニスコート(4面)			複合グラウンド、トレーニング棟			第二体育館増設	
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	350千円	350千円	図書購入費	100千円	100千円	100千円
		共同研究費等	3,600千円	3,600千円	設備購入費	1,200千円	1,600千円	1,610千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,260千円	1,020千円	1,005千円	1,005千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		補助金収入、寄付金収入、手数料収入						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	尚綱学院大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
総合人間科学部										
表現文化学科	4	—	3年次 10	—	学士 (表現文化)	—	—	平成19		
人間心理学科	4	—	3年次 10	—	学士 (心理学)	—	—	平成15		
子ども学科	4	—	3年次 10	—	学士 (教育学)	—	—	平成22		
現代社会学科	4	—	3年次 10	—	学士 (社会学)	—	—	平成19		
環境構想学科	4	—	3年次 10	—	学士 (環境構想)	—	—	平成27		
健康栄養学科	4	—	—	—	学士 (栄養学)	—	—	平成15		平成31年度学生 募集停止 編入学は令和3年 度より募集停止
人文社会学群										
人文社会学類	4	200	3年次 4	808	学士 (人文社会学)	1.13	—	平成31年		
心理・教育学群										
心理学類	4	60	3年次 2	244	学士 (心理学)	1.25	—	平成31年	宮城県名取市 ゆりが丘四丁目 10番1号	
子ども学類	4	80	3年次 2	324	学士 (教育学)	0.98	—	平成31年		
学校教育学類	4	40	3年次 2	164	学士 (教育学)	1.20	—	平成31年		
健康栄養学群										
健康栄養学類	4	80	—	320	学士 (栄養学)	1.11	—	平成31年		
総合人間科学研究科										
心理学専攻	2	6	—	12	修士 (心理学)	1.33	—	平成19年		
人間学専攻	2	6	—	12	修士 (学術)	0.08	—	平成29年		
健康栄養科学専攻	2	6	—	12	修士 (栄養学)	0	—	平成19年		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	池田 和浩 (39) <平成31年4月> 博士(文学) 基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(54行)を含む 心理・教育学概論 ※ 心理学研究法 心理学実験 知覚・認知心理学 認知心理学実験演習 心理学専門演習 卒業研究
専	准教授	内田 知宏 (36) <平成31年4月> 博士(教育学) 基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(54行)を含む 心理・教育学概論 ※ 心理学的支援法Ⅰ(心理学支援基礎) 精神疾患とその治療 心理演習 心理学専門演習 心理実習 卒業研究
専	講師	一条 玲香 (38) <平成31年4月> 基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(54行)を含む 臨床心理学概論 心理的アセスメント 教育・学校心理学 心理演習 心理学専門演習 心理実習 卒業研究
兼任	教授	合田 隆史 (64) <平成31年4月> 行政学修士 尚綱学
兼任	教授	布木 和夫 (68) <平成31年4月> 医学博士 人体の構造と機能及び疾病
兼任	教授	小池 敏英 (65) <平成31年4月> 教育学博士 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	目黒 恒夫 (64) <平成31年4月> 教育学修士 教育人間学
兼任	教授	東 義也 (57) <平成31年4月> 教育学修士 多世代交流論 ※
兼任	教授	松本(谷) 真奈美 (54) <平成31年4月> 博士(文学) 日本の言語文化 日本語表現法 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	杉山 弘子 (62) <平成31年4月> 教育学修士 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	安藤 正樹 (60) <平成31年4月> 教育学士 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	佐藤 淳一 (59) <平成31年4月> 芸術学修士 音楽と表現 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	箭内 任 (55) <平成31年4月> 博士(情報科学) 哲学
兼任	教授	上村 静 (53) <平成31年4月> Doctor of Philosophy(イスラエル) 現代の倫理 世界の宗教思想
兼任	教授	森田 明彦 (60) <平成31年4月> 博士(学術) 国際社会論 人権論

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	池田 和浩 (39) <平成31年4月> 博士(文学) 基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(54行)を含む 心理・教育学概論 ※ 心理学研究法 心理学実験 知覚・認知心理学 認知心理学実験演習 心理学専門演習 卒業研究
専	准教授	内田 知宏 (36) <平成31年4月> 博士(教育学) 基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(54行)を含む 心理・教育学概論 ※ 心理学的支援法Ⅰ(心理学支援基礎) 精神疾患とその治療 心理演習 心理学専門演習 心理実習 卒業研究
専	講師	一条 玲香 (38) <平成31年4月> 基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(54行)を含む 臨床心理学概論 心理的アセスメント 教育・学校心理学 心理演習 心理学専門演習 心理実習 卒業研究
兼任	教授	合田 隆史 (64) <平成31年4月> 行政学修士 尚綱学
兼任	教授	布木 和夫 (68) <平成31年4月> 医学博士 人体の構造と機能及び疾病
兼任	教授	小池 敏英 (65) <平成31年4月> 教育学博士 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	目黒 恒夫 (64) <平成31年4月> 教育学修士 教育人間学
兼任	教授	東 義也 (57) <平成31年4月> 教育学修士 多世代交流論 ※
兼任	教授	松本(谷) 真奈美 (54) <平成31年4月> 博士(文学) 日本の言語文化 日本語表現法 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	杉山 弘子 (62) <平成31年4月> 教育学修士 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	安藤 正樹 (60) <平成31年4月> 教育学士 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	佐藤 淳一 (59) <平成31年4月> 芸術学修士 音楽と表現 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	箭内 任 (55) <平成31年4月> 博士(情報科学) 哲学
兼任	教授	上村 静 (53) <平成31年4月> Doctor of Philosophy(イスラエル) 現代の倫理 世界の宗教思想

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	池田 和浩 (40) <平成31年4月> 博士(文学) 基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(54行)を含む 心理・教育学概論 ※ 心理学研究法 心理学実験 知覚・認知心理学 認知心理学実験演習 心理学専門演習 卒業研究
専	准教授	内田 知宏 (37) <平成31年4月> 博士(教育学) 基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(54行)を含む 心理・教育学概論 ※ 心理学的支援法Ⅰ(心理学支援基礎) 精神疾患とその治療 心理演習 心理学専門演習 心理実習 卒業研究
専	講師	一条 玲香 (39) <平成31年4月> 基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(54行)を含む 臨床心理学概論 心理的アセスメント 教育・学校心理学 心理演習 心理学専門演習 心理実習 卒業研究
兼任	教授	合田 隆史 (65) <平成31年4月> 行政学修士 尚綱学
兼任	教授	布木 和夫 (69) <平成31年4月> 医学博士 人体の構造と機能及び疾病
兼任	教授	小池 敏英 (66) <平成31年4月> 教育学博士 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	目黒 恒夫 (66) <平成31年4月> 教育学修士 教育人間学
兼任	教授	東 義也 (58) <平成31年4月> 教育学修士 多世代交流論 ※
兼任	教授	松本(谷) 真奈美 (55) <平成31年4月> 博士(文学) 日本の言語文化 日本語表現法 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	杉山 弘子 (63) <平成31年4月> 教育学修士 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	安藤 正樹 (61) <平成31年4月> 教育学士 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	佐藤 淳一 (60) <平成31年4月> 芸術学修士 音楽と表現 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	箭内 任 (56) <平成31年4月> 博士(情報科学) 哲学
兼任	教授	上村 静 (54) <平成31年4月> Doctor of Philosophy(イスラエル) 現代の倫理 世界の宗教思想

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	池田 和浩 (41) <平成31年4月> 博士(文学) 基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(54行)を含む 心理・教育学概論 ※ 心理学研究法 心理学実験 知覚・認知心理学 認知心理学実験演習 心理学専門演習 卒業研究
専	准教授	内田 知宏 (38) <平成31年4月> 博士(教育学) 基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(54行)を含む 心理・教育学概論 ※ 心理学的支援法Ⅰ(心理学支援基礎) 精神疾患とその治療 心理演習 心理学専門演習 心理実習 卒業研究
専	講師	一条 玲香 (40) <平成31年4月> 基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(54行)を含む 臨床心理学概論 心理的アセスメント 教育・学校心理学 心理演習 心理学専門演習 心理実習 卒業研究
兼任	教授	合田 隆史 (66) <平成31年4月> 行政学修士 尚綱学
兼任	教授	布木 和夫 (70) <平成31年4月> 医学博士 人体の構造と機能及び疾病
兼任	教授	小池 敏英 (67) <平成31年4月> 教育学博士 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	目黒 恒夫 (67) <平成31年4月> 教育学修士 教育人間学
兼任	教授	東 義也 (59) <平成31年4月> 教育学修士 多世代交流論 ※
兼任	教授	松本(谷) 真奈美 (56) <平成31年4月> 博士(文学) 日本の言語文化 日本語表現法 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	安藤 正樹 (62) <平成31年4月> 教育学士 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	佐藤 淳一 (61) <平成31年4月> 芸術学修士 音楽と表現 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	箭内 任 (57) <平成31年4月> 博士(情報科学) 哲学

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	千葉 正樹 (62) <平成31年4月> 博士(国際文化)
		日本とアジアの歴史 地域文化論
兼任	教授	高橋 真 (62) <平成31年4月> 経済学博士
		経済学
兼任	教授	杉座 秀親 (67) <平成31年4月> 文学修士
		社会学入門
兼任	教授	久慈 るみ子 (62) <平成31年4月> 家政学修士
		生活環境論
兼任	教授	中村 健一 (63) <平成31年4月> 教養学士
		実践英語A(英語で学ぶ文化) 実践英語C(資格試験)
兼任	教授	木村 清 (63) <平成31年4月> 工学修士
		情報処理演習 情報倫理 チャレンジポートフォリオI チャレンジポートフォリオII チャレンジポートフォリオIII
兼任	教授	小田嶋 充 (62) <平成31年4月> 体育学士
		ウェルネス科学論 健康・スポーツII(講義・実技) 心理・教育学総論 ※
兼任	教授	松田 道雄 (58) <平成31年4月> 修士(教育学)
		生涯学習論 多世代交流論 ※
兼任	教授	黄 梅英 (60) <平成31年4月> 博士(教育学)
		キャリアデザインI ※
兼任	教授	渡邊 千恵子 (55) <平成31年4月> 家政学修士
		キャリアデザインI ※ キャリアアップセミナー
兼任	教授	玉田 真紀 (59) <平成31年4月> 家政学修士
		インターンシップ
兼任	教授	栗原(菊池)由紀子 (46) <平成31年4月> 修士(法学)
		法学概論(日本国憲法)
兼任	教授	内田 龍史 (42) <平成31年4月> 博士(文学)
		共生社会論
兼任	准教授	高木 竜輔 (42) <平成31年4月> 修士(文学)
		共生社会論

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	永澤 雄治 (57) <平成31年4月> 修士(国際文化)
		国際社会論 人権論
兼任	教授	千葉 正樹 (62) <平成31年4月> 博士(国際文化)
		日本とアジアの歴史 地域文化論
兼任	教授	高橋 真 (62) <平成31年4月> 経済学博士
		経済学
兼任	教授	田中 重好 (67) <平成31年4月> 法学修士 博士(社会学)
		社会学入門
兼任	教授	久慈 るみ子 (62) <平成31年4月> 家政学修士
		生活環境論
兼任	教授	中村 健一 (63) <平成31年4月> 教養学士
		英語リーディングI 英語コミュニケーションI 英語コミュニケーションII 実践英語A(英語で学ぶ文化) 実践英語C(資格試験)
兼任	教授	木村 清 (63) <平成31年4月> 工学修士
		情報処理演習 情報倫理 チャレンジポートフォリオI チャレンジポートフォリオII チャレンジポートフォリオIII
兼任	教授	小田嶋 充 (62) <平成31年4月> 体育学士
		ウェルネス科学論 健康・スポーツII(講義・実技) 心理・教育学総論 ※
兼任	教授	松田 道雄 (58) <平成31年4月> 修士(教育学)
		生涯学習論 多世代交流論 ※
兼任	教授	黄 梅英 (60) <平成31年4月> 博士(教育学)
		キャリアデザインI ※
兼任	教授	渡邊 千恵子 (55) <平成31年4月> 家政学修士
		キャリアデザインI ※ キャリアアップセミナー
兼任	教授	玉田 真紀 (59) <平成31年4月> 家政学修士
		インターンシップ
兼任	教授	栗原(菊池)由紀子 (46) <平成31年4月> 修士(法学)
		法学概論(日本国憲法)
兼任	准教授	高木 竜輔 (42) <平成31年4月> 修士(文学)
		共生社会論

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	永澤 雄治 (57) <平成31年4月> 修士(国際文化)
		国際社会論 人権論
兼任	教授	千葉 正樹 (63) <平成31年4月> 博士(国際文化)
		日本とアジアの歴史 地域文化論
兼任	教授	高橋 真 (64) <平成31年4月> 経済学博士
		経済学
兼任	教授	田中 重好 (68) <平成31年4月> 法学修士 博士(社会学)
		社会学入門
兼任	教授	久慈 るみ子 (63) <平成31年4月> 家政学修士
		生活環境論
兼任	教授	中村 健一 (64) <平成31年4月> 教養学士
		英語リーディングI 英語コミュニケーションI 英語コミュニケーションII 実践英語A(英語で学ぶ文化) 実践英語C(資格試験)
兼任	教授	木村 清 (64) <平成31年4月> 工学修士
		情報処理演習 情報倫理 チャレンジポートフォリオI チャレンジポートフォリオII チャレンジポートフォリオIII
兼任	教授	小田嶋 充 (63) <平成31年4月> 体育学士
		ウェルネス科学論 健康・スポーツII(講義・実技) 心理・教育学総論 ※
兼任	教授	松田 道雄 (59) <平成31年4月> 修士(教育学)
		生涯学習論 多世代交流論 ※
兼任	教授	黄 梅英 (61) <平成31年4月> 博士(教育学)
		キャリアデザインI ※
兼任	教授	渡邊 千恵子 (56) <平成31年4月> 家政学修士
		キャリアデザインI ※ キャリアアップセミナー
兼任	教授	玉田 真紀 (60) <平成31年4月> 家政学修士
		インターンシップ
兼任	教授	栗原(菊池)由紀子 (47) <平成31年4月> 修士(法学)
		法学概論(日本国憲法)
兼任	准教授	高木 竜輔 (43) <平成31年4月> 修士(文学)
		共生社会論

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	永澤 雄治 (58) <平成31年4月> 修士(国際文化)
		国際社会論 人権論
兼任	教授	千葉 正樹 (64) <平成31年4月> 博士(国際文化)
		日本とアジアの歴史 地域文化論
兼任	教授	高橋 真 (65) <平成31年4月> 経済学博士
		経済学
兼任	教授	久慈 るみ子 (64) <平成31年4月> 家政学修士
		生活環境論
兼任	教授	中村 健一 (65) <平成31年4月> 教養学士
		英語リーディングI 英語コミュニケーションI 英語コミュニケーションII 実践英語A(英語で学ぶ文化) 実践英語C(資格試験)
兼任	教授	小田嶋 充 (64) <平成31年4月> 体育学士
		ウェルネス科学論 健康・スポーツII(講義・実技) 心理・教育学総論 ※
兼任	教授	松田 道雄 (60) <平成31年4月> 修士(教育学)
		生涯学習論 多世代交流論 ※
兼任	教授	黄 梅英 (62) <平成31年4月> 博士(教育学)
		キャリアデザインI ※
兼任	教授	渡邊 千恵子 (57) <平成31年4月> 家政学修士
		キャリアデザインI ※ キャリアアップセミナー
兼任	教授	玉田 真紀 (61) <平成31年4月> 家政学修士
		インターンシップ キャリアアップセミナー

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	相馬 亮 (43) <平成31年4月> 修士(教育学)
		芸術論 心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	今井 誠二 (58) <平成31年4月> 修士(文学)
		日本近代史とキリスト教 海外インターンシップ
兼任	准教授	齊藤 敬 (47) <平成31年4月> 博士(工学)
		生活と化学
兼任	准教授	設楽 レベッカ リン (61) <平成31年4月> Bachelor of Arts(米国)
		英語リスニング 実践英語B(英語プレゼンテーション)
兼任	准教授	福井 真司 (51) <平成31年4月> 博士(医学)
		健康・スポーツI(講義・実技) 心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	前田 有秀 (46) <平成31年4月> 修士(福祉心理学)
		心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	山崎 裕 (62) <平成31年4月> 博士(農学)
		心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	張 涛 (48) <平成31年4月> 博士(経済学)
		キャリアアップセミナー
兼任	准教授	呉 正培 (44) <平成31年4月> 博士(文学)
		異文化理解
兼任	講師	Samuel Murchie (37) <平成31年4月> Master of Divinity(米国)
		キリスト教概論I キリスト教概論II 国際交流演習
兼任	講師	横井 渉央 (48) <平成31年4月> 博士(情報科学)
		福祉社会論

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	相馬 亮 (43) <平成31年4月> 修士(教育学)
		芸術論 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	今井 誠二 (58) <平成31年4月> 修士(文学)
		日本近代史とキリスト教 海外インターンシップ
兼任	教授	齊藤 敬 (47) <平成31年4月> 博士(工学)
		生活と化学
兼任	准教授	設楽 レベッカ リン (61) <平成31年4月> Bachelor of Arts(米国)
		英語リーディングI 英語コミュニケーションI 英語リスニング 実践英語B(英語プレゼンテーション)
兼任	准教授	福井 真司 (51) <平成31年4月> 博士(医学)
		健康・スポーツI(講義・実技) 心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	前田 有秀 (46) <平成31年4月> 修士(福祉心理学)
		心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	山崎 裕 (62) <平成31年4月> 博士(農学)
		心理・教育学概論 ※
兼任	教授	張 涛 (48) <平成31年4月> 博士(経済学)
		キャリアアップセミナー
兼任	准教授	呉 正培 (44) <平成31年4月> 博士(文学)
		異文化理解
兼任	講師	Samuel Murchie (37) <平成31年4月> Master of Divinity(米国)
		キリスト教概論I キリスト教概論II 国際交流演習
兼任	講師	横井 渉央 (48) <平成31年4月> 博士(情報科学)
		福祉社会論

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	相馬 亮 (44) <平成31年4月> 修士(教育学)
		芸術論 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	今井 誠二 (60) <平成31年4月> 修士(文学)
		日本近代史とキリスト教 海外インターンシップ
兼任	教授	齊藤 敬 (48) <平成31年4月> 博士(工学)
		生活と化学
兼任	准教授	設楽 レベッカ リン (62) <平成31年4月> Bachelor of Arts(米国)
		英語リーディングI 英語コミュニケーションI 英語リスニング 実践英語B(英語プレゼンテーション)
兼任	准教授	福井 真司 (52) <平成31年4月> 博士(医学)
		健康・スポーツI(講義・実技) 心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	前田 有秀 (47) <平成31年4月> 修士(福祉心理学)
		心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	山崎 裕 (63) <平成31年4月> 博士(農学)
		心理・教育学概論 ※
兼任	教授	張 涛 (49) <平成31年4月> 博士(経済学)
		キャリアアップセミナー
兼任	准教授	呉 正培 (45) <平成31年4月> 博士(文学)
		異文化理解
兼任	講師	Samuel Murchie (38) <平成31年4月> Master of Divinity(米国)
		キリスト教概論I キリスト教概論II 国際交流演習
兼任	准教授	横井 渉央 (49) <平成31年4月> 博士(情報科学)
		福祉社会論

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	長谷川 公一 (65) <令和2年4月> 博士(社会学)
		共生社会論 社会学入門
兼任	准教授	相馬 亮 (45) <平成31年4月> 修士(教育学)
		芸術論 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	今井 誠二 (61) <平成31年4月> 修士(文学)
		日本近代史とキリスト教 海外インターンシップ
兼任	教授	齊藤 敬 (49) <平成31年4月> 博士(工学)
		生活と化学
兼任	准教授	設楽 レベッカ リン (63) <平成31年4月> Bachelor of Arts(米国)
		英語リーディングI 英語コミュニケーションI 英語リスニング 実践英語B(英語プレゼンテーション)
兼任	准教授	福井 真司 (53) <平成31年4月> 博士(医学)
		健康・スポーツI(講義・実技) 心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	前田 有秀 (48) <平成31年4月> 修士(福祉心理学)
		心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	山崎 裕 (64) <平成31年4月> 博士(農学)
		心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	呉 正培 (46) <平成31年4月> 博士(文学)
		異文化理解
兼任	准教授	野田 奈津実 (37) <平成31年4月> 修士(家政学)
		健康と栄養
兼任	准教授	片山 統裕 (53) <令和3年4月> 博士(情報科学)
		情報処理演習 情報倫理
兼任	講師	Samuel Murchie (39) <平成31年4月> Master of Divinity(米国)
		キリスト教概論I キリスト教概論II 国際交流演習
兼任	准教授	横井 渉央 (49) <平成31年4月> 博士(情報科学)
		福祉社会論
兼任	講師	寒河江 和樹 (30) <平成31年4月> 法学修士
		法学概論(日本国憲法)

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	田所 義郎 (39) <平成31年4月> 修士(神学)	キリスト教概論 I キリスト教概論 II キリスト教学演習
兼任	講師	畑 奈保美 (48) <平成31年4月> 博士(文学)	西洋の歴史
兼任	講師	酒井 宣昭 (39) <平成32年4月> 修士(文学)	地理学
兼任	講師	石澤 理如 (45) <平成31年4月> 修士(国際文化)	市民教育
兼任	講師	荒井 偉作 (51) <平成32年4月>	キリスト教と現代社会
兼任	講師	前田 美香 (57) <平成32年4月> 理学博士	生命の科学
兼任	講師	飯淵 由美 (68) <平成31年4月> 家政学士	健康と栄養
兼任	講師	J. O' Flahert (40) <平成31年4月> 大学	英語リーディング I 英語リーディング II 英語コミュニケーション I
兼任	講師	莉々 紀子 (41) <平成31年4月> 学士(文学)	英語リーディング I 英語リーディング II 英語コミュニケーション II
兼任	講師	FATH-MIYAZAKIFrederike (55) <平成31年4月> ドイツ大学	ドイツ語 I ドイツ語 II
兼任	講師	平手 伸昭 (50) <平成31年4月> 博士(文学)	フランス語 I フランス語 II
兼任	講師	宋 貞薫 (47) <平成31年4月> 文学修士	韓国語 I 韓国語 II
兼任	講師	屈 明昌 (62) <平成31年4月> 工学博士	中国語 I 中国語 II
兼任	講師	初山 高仁 (45) <平成31年4月> 博士(国際文化)	情報処理演習

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	田所 義郎 (39) <平成31年4月> 修士(神学)	キリスト教概論 I キリスト教概論 II キリスト教学演習
兼任	講師	畑 奈保美 (48) <平成31年4月> 博士(文学)	西洋の歴史
兼任	講師	酒井 宣昭 (39) <令和2年4月> 修士(文学)	地理学
兼任	講師	石澤 理如 (45) <平成31年4月> 修士(国際文化)	市民教育
兼任	講師	荒井 偉作 (51) <令和2年4月> 学士(教養) 学士(文学)	キリスト教と現代社会
兼任	講師	前田 美香 (57) <令和2年4月> 理学博士	生命の科学
兼任	講師	飯淵 由美 (68) <平成31年4月> 家政学士	健康と栄養
兼任	講師	J. O' Flahert (40) <平成31年4月> 大学	英語リーディング I 英語リーディング II 英語コミュニケーション I
兼任	講師	FATH-MIYAZAKIFrederike (55) <平成31年4月> ドイツ大学	ドイツ語 I ドイツ語 II
兼任	講師	村山 茂 (63) <平成31年4月> 文学修士	フランス語 I フランス語 II
兼任	講師	宋 貞薫 (47) <平成31年4月> 文学修士	韓国語 I 韓国語 II
兼任	講師	屈 明昌 (62) <平成31年4月> 工学博士	中国語 I 中国語 II
兼任	講師	初山 高仁 (45) <平成31年4月> 博士(国際文化)	情報処理演習

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	田所 義郎 (40) <平成31年4月> 修士(神学)	キリスト教概論 I キリスト教概論 II キリスト教学演習
兼任	講師	森田 優子 (45) <令和2年4月> 博士(文学)	芸術論
兼任	講師	畑 奈保美 (49) <平成31年4月> 博士(文学)	西洋の歴史
兼任	講師	酒井 宣昭 (40) <令和2年4月> 修士(文学)	地理学
兼任	講師	石澤 理如 (47) <平成31年4月> 修士(国際文化)	市民教育
兼任	講師	荒井 偉作 (52) <令和2年4月> 学士(教養) 学士(文学)	キリスト教と現代社会
兼任	講師	前田 美香 (58) <令和2年4月> 理学博士	生命の科学
兼任	講師	飯淵 由美 (69) <平成31年4月> 家政学士	健康と栄養
兼任	講師	羽鳥 康裕 (35) <令和2年4月> 博士(工学)	Ai社会とデータサイエンス
兼任	講師	J. O' Flahert (41) <平成31年4月> 大学	英語リーディング I 英語リーディング II 英語コミュニケーション I
兼任	講師	FATH-MIYAZAKIFrederike (56) <平成31年4月> ドイツ大学	ドイツ語 I ドイツ語 II
兼任	講師	村山 茂 (64) <平成31年4月> 文学修士	フランス語 I フランス語 II
兼任	講師	宋 貞薫 (48) <平成31年4月> 文学修士	韓国語 I 韓国語 II
兼任	講師	屈 明昌 (63) <平成31年4月> 工学博士	中国語 I 中国語 II
兼任	講師	初山 高仁 (46) <平成31年4月> 博士(国際文化)	情報処理演習

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	田所 義郎 (41) <平成31年4月> 修士(神学)	キリスト教概論 I キリスト教概論 II キリスト教学演習
兼任	講師	森田 優子 (46) <令和2年4月> 博士(文学)	芸術論
兼任	講師	畑 奈保美 (50) <平成31年4月> 博士(文学)	西洋の歴史
兼任	講師	酒井 宣昭 (41) <令和2年4月> 修士(文学)	地理学
兼任	講師	石澤 理如 (47) <平成31年4月> 修士(国際文化)	市民教育
兼任	講師	荒井 偉作 (53) <令和2年4月> 学士(教養) 学士(文学)	キリスト教と現代社会
兼任	講師	前田 美香 (59) <令和2年4月> 理学博士	生命の科学
兼任	講師	飯淵 由美 (69) <平成31年4月> 家政学士	健康と栄養
兼任	講師	羽鳥 康裕 (36) <令和2年4月> 博士(工学)	Ai社会とデータサイエンス
兼任	講師	J. O' Flahert (42) <平成31年4月> 大学	英語リーディング I 英語リーディング II 英語コミュニケーション I
兼任	講師	新田 貴之 (42) <平成31年4月> 博士(情報科学)	ドイツ語 I ドイツ語 II
兼任	講師	村山 茂 (65) <平成31年4月> 文学修士	フランス語 I フランス語 II
兼任	講師	宋 貞薫 (49) <平成31年4月> 文学修士	韓国語 I 韓国語 II
兼任	講師	屈 明昌 (64) <平成31年4月> 工学博士	中国語 I 中国語 II
兼任	講師	初山 高仁 (47) <平成31年4月> 博士(国際文化)	情報処理演習

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	堀田 智子 (45) <平成32年4月> 博士(国際文化)
		日本語と日本事情Ⅰ 日本語と日本事情Ⅱ
兼任	講師	古川 靖志 (56) <平成31年4月> 学士(体育学)
		健康・スポーツⅠ(講義・実技) 健康・スポーツⅡ(講義・実技)
兼任	講師	岡井 稔 (57) <平成32年4月> 学士
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	川田 真喜子 (51) <平成32年4月> 学士(文学)
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	瀬尾 千恵美 (54) <平成32年4月> 短期大学
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	浦澤 みよ子 (52) <平成32年4月> 学士(事業計画)
		海外インターンシップ
兼任	講師	神谷 哲司 (47) <平成34年4月> 修士(教育学) 博士(教育学)
		社会・集団・家族心理学Ⅲ(家族心理学)
兼任	講師	大波 幸美 (55) <平成32年4月> 教育学士
		障害者(児)心理学
兼任	講師	岩淵 将士 (28) <平成32年4月> 修士(教育学)
		心理学的支援法Ⅱ(心理学支援応用)
兼任	講師	上野山 達哉 (46) <平成34年4月> 修士(経営学)
		産業・組織心理学

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	堀田 智子 (45) <令和2年4月> 博士(国際文化)
		日本語と日本事情Ⅰ 日本語と日本事情Ⅱ
兼任	講師	古川 靖志 (56) <平成31年4月> 学士(体育学)
		健康・スポーツⅠ(講義・実技) 健康・スポーツⅡ(講義・実技)
兼任	講師	岡井 稔 (57) <令和2年4月> 学士
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	川田 真喜子 (51) <令和2年4月> 学士(文学)
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	瀬尾 千恵美 (54) <令和2年4月> 短期大学
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	浦澤 みよ子 (52) <令和2年4月> 学士(事業計画)
		海外インターンシップ
兼任	講師	寺島 英弥 (62) <平成32年4月> 学士(法学)
		メディアリテラシー
兼任	講師	神谷 哲司 (47) <令和4年4月> 修士(教育学) 博士(教育学)
		社会・集団・家族心理学Ⅲ(家族心理学)
兼任	講師	大波 幸美 (55) <令和2年4月> 教育学士
		障害者(児)心理学
兼任	講師	岩淵 将士 (28) <令和2年4月> 修士(教育学)
		心理学的支援法Ⅱ(心理学支援応用)
兼任	講師	上野山 達哉 (46) <令和4年4月> 修士(経営学)
		産業・組織心理学

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	堀田 智子 (46) <令和2年4月> 博士(国際文化)
		日本語と日本事情Ⅰ 日本語と日本事情Ⅱ
兼任	講師	古川 靖志 (57) <平成31年4月> 学士(体育学)
		健康・スポーツⅠ(講義・実技) 健康・スポーツⅡ(講義・実技)
兼任	講師	岡井 稔 (58) <令和2年4月> 学士
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	川田 真喜子 (52) <令和2年4月> 学士(文学)
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	瀬尾 千恵美 (55) <令和2年4月> 短期大学
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	寺島 英弥 (63) <平成32年4月> 学士(法学)
		メディアリテラシー
兼任	講師	神谷 哲司 (48) <令和4年4月> 修士(教育学) 博士(教育学)
		社会・集団・家族心理学Ⅲ(家族心理学)
兼任	講師	大波 幸美 (56) <令和2年4月> 教育学士
		障害者(児)心理学
兼任	講師	岩淵 将士 (29) <令和2年4月> 修士(教育学)
		心理学的支援法Ⅱ(心理学支援応用)
兼任	講師	上野山 達哉 (47) <令和4年4月> 修士(経営学)
		産業・組織心理学

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	堀田 智子 (47) <令和2年4月> 博士(国際文化)
		日本語と日本事情Ⅰ 日本語と日本事情Ⅱ
兼任	講師	古川 靖志 (58) <平成31年4月> 学士(体育学)
		健康・スポーツⅠ(講義・実技) 健康・スポーツⅡ(講義・実技)
兼任	講師	川田 真喜子 (53) <令和2年4月> 学士(文学)
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	瀬尾 千恵美 (56) <令和2年4月> 短期大学
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	寺島 英弥 (64) <平成32年4月> 学士(法学)
		メディアリテラシー
兼任	講師	神谷 哲司 (49) <令和4年4月> 修士(教育学) 博士(教育学)
		社会・集団・家族心理学Ⅲ(家族心理学)
兼任	講師	岩淵 将士 (30) <令和2年4月> 修士(教育学)
		心理学的支援法Ⅱ(心理学支援応用)
兼任	講師	上野山 達哉 (48) <令和4年4月> 修士(経営学)
		産業・組織心理学

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・ 田山淳准教授就任辞退により渡部（神谷）敦子准教諭に変更 「教員審査省略」
- ・ 兼担で授業を担当する三好敏之教授が心理学類の専任に就任。 「教員審査省略」
- ・ 小泉嘉子准教授が教授に職位変更 「教員審査省略」
- ・ 臨床心理学関係の充実のため一條玲香講師を採用 「教員審査省略」

【令和2年度】

特になし

【令和3年度】

特になし

【令和4年度】

- (注)
- ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
4	4	0	0	8	0	6	3	1	0	10	0
(4)	(4)	(0)	(0)	(8)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
6	3	1	0	10	0	6	3	1	0	10	0
(2)	(Δ1)	(1)	(0)	(2)	(0)	(2)	(Δ1)	(1)	(0)	(2)	(0)

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
教授・准教授 67 講師 64 歳	1 名	1 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{10}{8} = \boxed{125} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{10} = \boxed{10} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	准教授	田山 淳	H30.6	必修	基礎演習Ⅰ（情報リテラシーを含む）	①	H30.9.30就任辞退			
				必修	基礎演習Ⅱ（ライティングを含む）	①				
				選択	公認心理師の職責	①				
				選択	感情・人格心理学	①				
				選択	健康・医療心理学	①				
				選択	関係行政論	①				
				選択	心理演習	①				
				選択	心理学専門演習	①				
				選択	心理実習	①				
				必修	卒業研究	①				
合計（D）					後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
1	人	必修	3	科目	必修	3	科目	必修	0	科目
		選択	7	科目	選択	7	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	10	科目	計	10	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計（F）					後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）					後任補充状況の集計（E）+（G）					
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
1	人	必修	3	科目	必修	3	科目	必修	0	科目
		選択	7	科目	選択	7	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	10	科目	計	10	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{1}{8} = \boxed{12.5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計				後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

特になし

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和元年)	完成年度前に、定年規定に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めると共に、教員組織編制の将来構想について検討すること。	留意事項 完成年次における専任教員は30歳代1人、40歳代3人、50歳代4人、60歳代6人、70歳代2人であり、今後の採用人事については、30歳～40歳代の若手教員を積極的に採用し、組織の活性化を図ると共にバランスのとれた年齢構成になるように計画的に行っていく。	履行中 引き続き、退職者の補充については、研究業績も考慮しながら40歳代以下の教員を中心に公募、補充をしていく。
設置計画履行状況 調 査 時 (令和元年)	入学定員超過の改善に努めること。(心理・教育学群学校教育学類)	指摘事項 (改善) 入学者管理を徹底すると共に学生の受入れ方針を明確化し、入試要項、ホームページ等を通じ、求める学生像を明示した上で改善に努める。	履行済 入学試験制度と入学手続きの動向(データ)等を考慮し、入学手続き者を定員内に収めるように努めていく。
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	入学定員超過の改善に努めること。(心理・教育学群心理学類)	指摘事項 (改善) 各入試区分における合否判定について、ここ最近の入学手続き状況を考慮し、より一層慎重に行う。	履行中 入試区分別募集人員をここ最近の志願状況、入学手続き状況に合ったものに変更する。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。) と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<心理・教育学群 心理学類 >

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
「該当なし」	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学の教員のファカルティ・ディベロプメント（FD）を推進するために、「尚綱学院大学FD・SD委員会規程」により、教学担当副学長を委員長とした委員会を中心にFD研修会を実施している。一方、授業の内容及び方法の改善を向上させるための調査研究、施策の立案と実施を支援し、その充実を図ることを目的とした「教育開発推進委員会」は、研修会のテーマや内容などについても立案、提言を行い、研修会の企画・立案・実施に深く関与している。両委員会の委員長はいずれも教学担当副学長であり、両委員会が連携し中心となってFDの推進を実施する体制となっている。また、「本学の不断の教育改善」と「具体的な社会貢献」を目的に、尚綱学院大学総合人間科学研究機構（機構長：学長）を開設し、共同研究プロジェクトによる研究・調査活動や研究会、市民公開講座、講演会等を行い教育研究の質向上に努めている。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

教育開発推進委員会は、月1回開催し、教学担当副学長を委員長として、教務部長、教務課長、教育研究支援課長、その他委員長が必要と認める教員複数名で構成されている。（教育開発推進委員会規程）

c 委員会の審議事項等

- (1) 大学教育に全般にわたる新しい教育システムの研究開発
- (2) 全学カリキュラム改革、教養教育、高大連携、FD、リメディアル教育、導入教育、授業評価の研究開発ならびにこれらに基づく提言及び推進
- (3) 教育開発・改善に必要とされる運営委員会及びワーキンググループの検討と設置
- (4) 教育課程の編成方針及び調整
- (5) 教育課程その他の教育プログラムの改善
- (6) 本学における教養教育を含む教育課程に関する中期目標・中期計画

② 実施状況

a 実施内容

2020年度は、「教育開発推進委員会」等と「FD・SD委員会」が連携して研修会を開催。

・非対面型授業方法についての研修会（2020年4月8日、9日開催）

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、非対面授業の実施に向け、①非対面型授業方法について、②授業動画作成の工夫、③Campusmate-jを使った授業支援方法についての研修。

・非対面型授業方法についての研修会Part2（2020年4月15日開催）

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、非対面授業の実施に向け、①Campusmate-jを使った授業支援方法、②PowerPointを使った授業動画作成の手順についてについての研修。

・非対面型授業方法についての研修会Part3（2020年4月17日開催）

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、非対面授業の実施に向け、①Zoomの使用方法について、②非対面型（遠隔）授業の具体的なプランについて研修。

・非対面型授業方法についての研修会Part4（2020年4月21日開催）

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、非対面授業の実施に向け、① OneDriveの使用方法についての研修。

・非対面型授業に関するFD研修会（2020年8月24日開催）

前期実施した授業について、①非対面型授業の事例発表（学内教員3件）、②非対面型授業アンケートの結果（学生アンケート、教員アンケート）についての研修

・後期授業実施に向けたFD研修会（2020年9月15日開催）

新型コロナウイルス感染症が終息しない状況を踏まえ、①後期の授業運営についての説明、②新しく導入するCoursePower（LMS）操作研修を実施し、対面授業と非対面授業が混在するハイブリッド授業についての理解と、LMSを活用した学習管理と学生サポートについての研修。

・非対面型授業基礎研修（2020年9月15日開催）

新型コロナウイルス感染症が終息しない状況を踏まえ、非対面授業を展開するうえでのツールとなる①Zoomの使い方、②OneDriveへのデータ保存方法、③PowerPoint活用について理解を深め考えるための研修。

・教学マネジメント指針に関するFD研修会（2020年10月22日開催）

教学マネジメントの在り方、特に学習成果の見える化について理解を深め考えるための研修。

・AI・データサイエンス教育に関するFD研修会（2020年10月22日開催）

AI・データサイエンス教育を担当する教員に向け、講演を通して理解を深め考えるための研修。

・2021年度シラバスおよびCoursePowerに関するFD研修会（2020年11月25日開催）

2021年度のシラバスの準備にあたり、学生が理解しやすくするため、基本的な記載内容、方法を統一するため2021年度シラバス作成、および本格的運用が開始されたCoursePowerの利用法について事例を交えて理解を深め考えるための研修。

・著作権、授業目的公衆送信補償金に関するFD研修会（2021年2月25日開催）

非対面授業における授業資料等の作成で問題となる著作権について、①著作権法及び授業等における著作権利用と授業目的公衆送信補償金制度の概要について理解を深め考えるための研修。

・学生支援体制構築にむけて支援のあり方を考えるFD研修会（2021年2月25日開催）

発達障害のある学生への必要な支援の在り方について理解を深め考えるための研修。

・2021年度授業担当者FD研修会（2021年3月10日開催）

尚綱学院大学の全授業担当者を対象とし、授業に関する共通理解を深め、教育効果を高めるため、①尚綱学院大学の取り組みについて、②授業への取り組みについてのお願ひ、③学生と接する際の留意事項、④2021年度授業運営について、⑤SPレーダーの集計結果と今後についての5つのテーマについて理解を深め考えるための研修。

・LGBDQ+に関する理解および支援の在り方を考えるFD研修会（2021年3月12日開催）

LGBDQ+についての理解を深めるとともに、必要な支援の在り方について考えるための研修。

b 実施方法

・非対面型授業方法についての研修会（2020年4月8日、9日開催）

学内教員が解説、質疑に答える研修を対面で実施した。

・非対面型授業方法についての研修会Part2（2020年4月15日開催）

学内教員が解説、質疑に答える研修を対面で実施した。

・非対面型授業方法についての研修会Part3（2020年4月17日開催）

学内教員が解説、質疑に答える研修を対面及び非対面（Zoom）で実施した。

・非対面型授業方法についての研修会Part4（2020年4月21日開催）

学内教職員が解説、質疑に答える研修を対面及び非対面（Zoom）で実施した。

・非対面型授業に関するFD研修会（2020年8月24日開催）

学内教員3件の事例紹介とアンケート結果等の説明と質疑応答を非対面（Zoom）で実施した。

・後期授業実施に向けたFD研修会（2020年9月15日開催）

学内教職員、並びにCoursePowerの導入元業者による解説と質疑応答を非対面（Zoom）で実施した。

・非対面型授業基礎研修（2020年9月15日開催）

学内教職員による説明と質疑応答を対面型実施した。

・教学マネジメント指針に関するFD研修会（2020年10月22日開催）

講師に大森昭生氏を迎え、「誰のための教学マネジメントか」と題した講演を頂いた後、質疑応答を行った。（Zoomでの実施。一部対面）

・AI・データサイエンス教育に関するFD研修会（2020年10月22日開催）

現代社会の動向、Society5.0に向けた社会、AI及びその影響、データ分析などを扱う教員を主な対象とし、講師に高谷将宏氏を招き、「AIを通して広がる学びとDX」について講演を頂いた後、質疑応答を行った。（対面とZoomでの実施）

・2021年度シラバスおよびCoursePowerに関するFD研修会（2020年11月25日開催）

学内教員による解説と質疑応答を非対面（Zoom）で実施した。

・著作権、授業目的公衆送信補償金に関するFD研修会（2021年2月25日開催）

本学職員による解説と質疑応答を非対面（Zoom）で実施した。

・学生支援体制構築にむけて支援のあり方を考えるFD研修会（2021年2月25日開催）

講師に池田忠義氏を招き「発達障害のある学生への対応」について講演を頂いた後、質疑応答を行った。（Zoomでの実施）

・2021年度授業担当者FD研修会（2021年3月10日開催）

尚綱学院大学の全授業担当者を対象とし、5つのテーマについて学内教職員による説明と質疑を行った。（Zoomでの実施）

・LGDBQ+に関する理解および支援の在り方を考えるFD研修会（2021年3月12日開催）
講師として勝又栄政 氏を招き、「LGDBQ+に関する基礎知識」について講演を頂いた後、質疑応答を行った。（Zoomでの実施）

* 非対面型（Zoom）で実施したFDは、レコーディングして後からでも視聴できるようにした。

C 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・非対面型授業方法についての研修会（2020年4月8日、9日開催）
教員 94名の出席（両日参加ありのため、延べ参加人数）
- ・非対面型授業方法についての研修会Part2（2020年4月15日開催）
教員 61名の出席
- ・非対面型授業方法についての研修会Part3（2020年4月17日開催）
教員 56名の出席
- ・非対面型授業方法についての研修会Part4（2020年4月21日開催）
（出席者の確認なし）
- ・非対面型授業に関するFD研修会（2020年8月24日開催）
教員 64名の出席
- ・後期授業実施に向けたFD研修会（2020年9月15日開催）
教員 56名の出席
- ・非対面型授業基礎研修（2020年9月15日開催）
教員 5名の出席
- ・教学マネジメント指針に関するFD研修会（2020年10月22日開催）
教員 8名の出席（教務部関連教員のみFD）
- ・AI・データサイエンス教育に関するFD研修会（2020年10月22日開催）
教員 18名の出席
- ・2021年度シラバスおよびCoursePowerに関するFD研修会（2020年11月25日開催）
教員 59名の出席
- ・著作権、授業目的公衆送信補償金に関するFD研修会（2021年2月25日開催）
教員 78名の出席
- ・学生支援体制構築にむけて支援のあり方を考えるFD研修会（2021年2月25日開催）
教員 66名の出席
- ・2021年度授業担当者FD研修会（2021年3月10日開催）
教員 84名の出席
- ・LGDBQ+に関する理解および支援の在り方を考えるFD研修会（2021年3月12日開催）
教員 72名の出席

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

「該当なし」

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）
- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
- c 委員会の審議事項等
- d その他

② 審議状況

- a 審議した内容

- b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

- c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自己点検及び自己評価を行い、その結果を公表することを尚綱学院大学学則第2条に規定している。その実施方法や体制等については、「尚綱学院大学自己点検・評価委員会規程」に定められており、学長を委員長とし、大学の自己点検・評価とともに2年毎に実施している。自己点検・評価の項目は、日本高等教育評価機構の定める基準と大学の使命・目的に基づいて独自に設定した基準により評価している。

＜日本高等教育評価機構が定める基準＞

- 基準1 使命・目的等
- 基準2 学修と教授
- 基準3 経営・管理と財務
- 基準4 自己点検・評価

＜大学の使命・目的に基づいて独自に設定した基準＞

- 基準A 研究活動
- 基準B 地域貢献・国際交流

これらの基準に関して、エビデンスにもとづいた自己点検・評価を実現するために、2016年4月からIR委員会（2019年度からIR推進部門専門委員会に名称変更）を設置し、基本データや学生アンケートなど現状把握に必要なデータをFACT BOOKに集約し、各種の改善に努めている。その結果は自己点検・評価報告書にまとめ、大学のウェブサイトに掲載している。

大学機関別認証評価では、2017（平成29）年度に財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受け、2018（平成30）年3月7日付けで、「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしている」と認定された。

この他、自己点検・評価活動の客観性を保ち、教育研究水準の向上を図るため、他大学の教員、産業界、自治体関係者等の有識者による外部評価委員会を設置し、自己点検・評価報告書をもとに評価をもらい、その意見を改善活動に反映させている。

2019年度から管理運営体制が変更となり、「自己点検・評価委員会」から「内部質保証委員会」に変更となりこれまでの基準等の見直しを図りながらあらためて進めて行く予定である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

時期 未定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・未定

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和3年 6月 30日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人尚絅学院

(2) 大学名

尚絅学院大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒981-1295

宮城県名取市ゆりが丘四丁目10番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ササキコウメイ) 佐々木 公明 (平成27年9月)		
学長	(ゴウダタカフミ) 合田 隆史 (平成26年4月)		
学群長	(マツモト(タニ)マナミ) 松本(谷)真奈美 (平成31年4月)		
学類長	(ヒガシヨシヤ) 東 義也 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和2年度に報告する内容 → (2)
令和3年度に報告する内容 → (3)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
 ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
心理・教育学群 子ども学類 学士(教育学)	教育学・保育学関係	4年	80人	3年次 2人	324人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	令和元年		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	80 () [0]	一人	80 () [0]	人	80 (2) [0]	人	() []	人	() []	0.98 倍	一倍 留学生の入学定員は いづれの年も「若干名」
志願者数	193 (-) [0]	() []	169 (-) [0]	() []	193 (-) [0]	() []	() []	() []	() []		
受験者数	192 (-) [0]	() []	166 (-) [0]	() []	189 (-) [0]	() []	() []	() []	() []		
合格者数	165 (-) [0]	() []	148 (-) [0]	() []	146 (-) [0]	() []	() []	() []	() []		
B 入学者数	67 (-) [0]	() []	77 (-) [0]	() []	91 (-) [0]	() []	() []	() []	() []		
入学定員超過率 B/A	0.83		0.96		1.14						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年		令和2年度		令和3年度		令和4年度				備 考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
1年次	67 [0] (-)	— [] ()	77 [0] (-)	[] ()	91 [0] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()		
2年次	/		67 [0] (-)	[] ()	77 [0] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()		
3年次			/		66 [0] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4年次					/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
計			67 [0] (-)	144 [0] (-)			234 [0] (1)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	67 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	144 人	1 人	令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	1 人	0 人	進路変更
令和3年度	234 人	0 人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
合計		1 人		人	人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{67} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{144} = \boxed{0.69} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{234} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
(履修科目の登録の上限：50単位（年間））											

【令和3年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
卒業要件及び履修方法											
教養教育科目33単位以上、学類専門教育科目82単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限：50単位（年間）)											

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合科目	子ども学入門	3前	2			6	2	2			3
	子ども学演習	3後	2			6	2	2			3
	卒業研究	4通	4			6	2	2			3
	小計(3科目)	—	8	0	0	6	2	2	0	0	3
自由科目	オーケストラⅠ	2通			2						1
	オーケストラⅡ	3通			2						1
	オーケストラⅢ	4通			2						1
	小計(3科目)	—	0	0	6	0	0	0	0	0	1
合計(152科目)			61	205	6	6	2	2	0	0	64
卒業要件及び履修方法											
教養教育科目33単位以上、学類専門教育科目82単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限：50単位(年間))											

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
科目	卒業研究	4通	4			6	2	2			3
	小計(3科目)	—	8	0	0	6	2	2	0	0	3
自由科目	オーケストラⅠ	2通			2						1
	オーケストラⅡ	3通			2						1
	オーケストラⅢ	4通			2						1
	小計(3科目)	—	0	0	6	0	0	0	0	0	1
合計(151科目)			59	205	6	6	2	2	0	0	63
卒業要件及び履修方法											
教養教育科目33単位以上、学類専門教育科目82単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限：50単位(年間))											

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

<p>教養教育科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目の内容により、「現代の倫理」の配当年次を「1後」から「2後」に変更。 ・教育課程充実のため新規科目追加 科目名 「メディアリテラシー」 「1前」1単位 ・「健康スポーツⅡ（講義・実技）」についてCAP制等の理由で1年次の履修が厳しいため配当年次変更。 「1後」→「2後」 <p>専門教育科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理・教育学群子ども学類は保育士養成施設の指定を受けており、平成30年の設置認可届出後に「児童福祉法施行規則」の改定により適応する科目が不足していたため、下記2科目の追加を行った。 追加科目名 「子ども家庭支援の心理学」 「乳児保育」 ・心理・教育学群子ども学類は、教員養成を主たる目的とする学類である。教職課程認定申請において、その目的を達成するため教職課程科目の必修科目が不足しているという指摘を受けた。そのため、教員養成課程として卒業に必要な科目を必修とした。 <p>選択科目から必修科目への変更</p> <table border="0"> <tr> <td>「発達心理学（幼）」</td> <td>「子どもと健康」</td> <td>「保育内容指導法 表現Ⅰ（造形）」</td> </tr> <tr> <td>「教育方法論（幼）」</td> <td>「子どもと人間関係」</td> <td>「保育内容指導法 表現Ⅱ（音楽）」</td> </tr> <tr> <td>「教育原理（幼）」</td> <td>「子どもと環境」</td> <td>教育相談の理論と方法</td> </tr> <tr> <td>「教育制度（幼）」</td> <td>「子どもと言葉」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>「基礎実習」</td> <td>「子どもと表現」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>「子どもの理解と保育」</td> <td>「保育内容指導法 健康」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>「教職概論（幼）」</td> <td>「保育内容指導法 人間関係」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>「教育課程論（幼）」</td> <td>「保育内容指導法 環境」</td> <td></td> </tr> </table>			「発達心理学（幼）」	「子どもと健康」	「保育内容指導法 表現Ⅰ（造形）」	「教育方法論（幼）」	「子どもと人間関係」	「保育内容指導法 表現Ⅱ（音楽）」	「教育原理（幼）」	「子どもと環境」	教育相談の理論と方法	「教育制度（幼）」	「子どもと言葉」		「基礎実習」	「子どもと表現」		「子どもの理解と保育」	「保育内容指導法 健康」		「教職概論（幼）」	「保育内容指導法 人間関係」		「教育課程論（幼）」	「保育内容指導法 環境」	
「発達心理学（幼）」	「子どもと健康」	「保育内容指導法 表現Ⅰ（造形）」																								
「教育方法論（幼）」	「子どもと人間関係」	「保育内容指導法 表現Ⅱ（音楽）」																								
「教育原理（幼）」	「子どもと環境」	教育相談の理論と方法																								
「教育制度（幼）」	「子どもと言葉」																									
「基礎実習」	「子どもと表現」																									
「子どもの理解と保育」	「保育内容指導法 健康」																									
「教職概論（幼）」	「保育内容指導法 人間関係」																									
「教育課程論（幼）」	「保育内容指導法 環境」																									

【令和2年度】

<p>教養教育科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教養課程充実のため新規科目開設 科目名 「AI社会とデータサイエンス」 		
--	--	--

【令和3年度】

<p>特になし</p>		
-------------	--	--

【令和4年度】

<p> </p>		
----------	--	--

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
13 科目	133 科目	3 科目	148 科目	34 科目 []	115 科目 []	3 科目 []	152 科目 [4]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	国際交流演習	2	1	一般	選択	コロナ感染症拡大対策の為
2	海外インターンシップ	2	2	一般	選択	コロナ感染症拡大対策の為
3	現代の倫理	2	2	一般	選択	担当教員が研究専念制度取得の為
4	世界の宗教と文化	2	2	一般	選択	担当教員が研究専念制度取得の為

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

コロナ感染症拡大対策の為、本年度は非開講という判断を行い、学生には、オリエンテーション及び履修登録時点で周知した。
担当教員が研究専念制度を取得の為、教養教育科目2科目が今年度非開講となった。学生には、オリエンテーション及び履修登録時点で周知をした。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{4}{152} = \boxed{2.63}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 部室棟の解体により 「校舎敷地面積」が減 少、「その他」面積が 増加「(2)」		
	校舎敷地	96,173㎡ 96,422㎡	㎡	㎡	96,173㎡ 96,422㎡			
	運動場用地	42,453㎡	㎡	㎡	42,453㎡			
	小 計	138,626㎡ 138,875㎡	㎡	㎡	138,626㎡ 138,875㎡			
	そ の 他	154,761㎡ 154,512㎡	㎡	㎡	154,761㎡ 154,512㎡			
	合 計	293,387㎡	㎡	㎡	293,387㎡			
(2) 校 舎	専 用	25,312㎡ 27,717㎡ (25,312 ㎡)	-㎡	㎡	25,312㎡ 27,717㎡ (25,312 ㎡)	大学全体 体育館面積を除外した ため(修正) 「(2)」		
	共 用	(- ㎡)	(- ㎡)	(㎡)	(㎡)			
(3) 教 室 等	講 義 室	24室 22室	演 習 室	15室 17室	実験実習室	45室 46室	使用目的変更による 「(2)」	
					情報処理学習施設	4室 (補助職員 3人)		語学学習施設
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	心理・教育学群子ども学類			10 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	
		[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	点	点	点	
		冊	種	[うち外国書]				
心理・教育学群 子ども学類	16,780 [1,767]	57 [10]	802 [802]	1,316	0	0		
	18,215 [1,772]	55 [10]	812 [812]	1,491				
	18,215 [1,772]	(57 [10])	802 [802]	1,316	(0)	(0)		
	16,404 [2,400]	(55 [10])	812 [812]	1,491				
計	16,780 [1,767]	57 [10]	802 [802]	1,316	0	0		
	18,215 [1,772]	55 [10]	812 [812]	1,491				
	18,215 [1,772]	(57 [10])	802 [802]	1,316	(0)	(0)		
	16,404 [2,400]	(55 [10])	812 [812]	1,491				
(6) 図 書 館	面 積	2,338㎡ 2,331㎡	閱 覧 座 席 数	231	収 納 可 能 冊 数	200,000	大学全体 数値誤記入「(2)」	
(7) 体 育 館	面 積	2,966㎡ 2,339㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体		
			テニスコート(4面)	複合グラウンド、トレーニング棟		第二体育館増設		
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	350千円	350千円	図書購入費	100千円	100千円	100千円
		共 同 研 究 費 等	3,600千円	3,600千円	設備購入費	1,200千円	1,600千円	1,610千円
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,260千円	1,020千円	1,005千円	1,005千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		補助金収入、寄付金収入、手数料収入						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	尚綱学院大学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
総合人間科学部										平成31年度学生 募集停止 編入学は令和3年 度より募集停止
表現文化学科	4	—	3年次 10	—	学士 (表現文化)	—	—	平成19		
人間心理学科	4	—	3年次 10	—	学士 (心理学)	—	—	平成15		
子ども学科	4	—	3年次 10	—	学士 (教育学)	—	—	平成22		
現代社会学科	4	—	3年次 10	—	学士 (社会学)	—	—	平成19		
環境構想学科	4	—	3年次 10	—	学士 (環境構想)	—	—	平成27		
健康栄養学科	4	—	—	—	学士 (栄養学)	—	—	平成15		
<u>人文社会学群</u>										
人文社会学類	4	200	3年次 4	808	学士 (人文社会学)	1.13	—	平成31年		
<u>心理・教育学群</u>									宮城県名取市 ゆりが丘四丁目 10番1号	
心理学類	4	60	3年次 2	244	学士 (心理学)	1.25	—	平成31年		
子ども学類	4	80	3年次 2	324	学士 (教育学)	0.98	—	平成31年		
学校教育学類	4	40	3年次 2	164	学士 (教育学)	1.20	—	平成31年		
<u>健康栄養学群</u>										
健康栄養学類	4	80	—	320	学士 (栄養学)	1.11	—	平成31年		
総合人間科学研究科										
心理学専攻	2	6	—	12	修士 (心理学)	1.33	—	平成19年		
人間学専攻	2	6	—	12	修士 (学術)	0.08	—	平成29年		
健康栄養科学専攻	2	6	—	12	修士 (栄養学)	0	—	平成19年		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	山崎 裕 (62) ＜平成31年4月＞ 理学博士(農学)
		基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(ライティングを含む) 心理・教育学概論 ※ 基礎実習 子どもの自然環境教育 子どもと環境 保育内容指導法 環境 教職実践演習(幼) 子ども学入門 子ども学演習 卒業研究
専	准教授	前田 有秀 (46) ＜平成31年4月＞ 修士(福祉心理学)
		基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(ライティングを含む) 心理・教育学概論 ※ 保育内容総合演習 基礎実習 家庭支援論 子どもと人間関係 保育内容指導法 人間関係 保育実習指導Ⅰ(保育所・施設) 保育実習Ⅰ(保育所・施設) 保育実習指導Ⅱ(保育所) 保育実習Ⅱ(保育所) 保育実習指導Ⅲ(施設) 保育実習Ⅲ(施設) 子ども学入門 子ども学演習 卒業研究
専	講師	兎澤 聖 (42) ＜平成31年4月＞ 修士(社会福祉学)
		基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(ライティングを含む) 社会的養護 社会福祉 基礎実習 児童家庭福祉 相談援助 保育相談支援 保育実習指導Ⅰ(保育所・施設) 保育実習Ⅰ(保育所・施設) 保育実習指導Ⅱ(保育所) 保育実習Ⅱ(保育所) 保育実習指導Ⅲ(施設) 保育実習Ⅲ(施設) 子ども学入門 子ども学演習 卒業研究
専	講師	峰 友紗 (41) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(ライティングを含む) 基礎実習 子どもの保健Ⅰ 子どもの保健Ⅱ 子どもの保健Ⅲ 衛生学及び公衆衛生学 母子保健 教育実習指導(幼) 教育実習(幼) 教職実践演習(幼) 子ども学入門 子ども学演習 卒業研究
兼任	教授	箭内 任 (55) ＜平成31年4月＞ 博士(情報科学)
		哲学
兼任	教授	上村 静 (53) ＜平成31年4月＞ Doctor of Philosophy(イスラエル)
		現代の倫理 世界の宗教と文化
兼任	教授	森田 明彦 (60) ＜平成31年4月＞ 博士(学術)
		国際社会論 人権論
兼任	教授	永澤 雄治 (56) ＜平成31年4月＞ 修士(国際文化)
		国際社会論 人権論
兼任	教授	千葉 正樹 (62) ＜平成31年4月＞ 博士(国際文化)
		日本とアジアの歴史 地域文化論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	山崎 裕 (62) ＜平成31年4月＞ 理学博士(農学)
		基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(ライティングを含む) 心理・教育学概論 ※ 基礎実習 子どもの自然環境教育 子どもと環境 保育内容指導法 環境 教職実践演習(幼) 子ども学入門 子ども学演習 卒業研究
専	准教授	前田 有秀 (46) ＜平成31年4月＞ 修士(福祉心理学)
		基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(ライティングを含む) 心理・教育学概論 ※ 保育内容総合演習 基礎実習 家庭支援論 子どもと人間関係 保育内容指導法 人間関係 保育実習指導Ⅰ(保育所・施設) 保育実習Ⅰ(保育所・施設) 保育実習指導Ⅱ(保育所) 保育実習Ⅱ(保育所) 保育実習指導Ⅲ(施設) 保育実習Ⅲ(施設) 子ども学入門 子ども学演習 卒業研究
専	講師	兎澤 聖 (42) ＜平成31年4月＞ 修士(社会福祉学)
		基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(ライティングを含む) 社会的養護 社会福祉 基礎実習 児童家庭福祉 相談援助 保育相談支援 保育実習指導Ⅰ(保育所・施設) 保育実習Ⅰ(保育所・施設) 保育実習指導Ⅱ(保育所) 保育実習Ⅱ(保育所) 保育実習指導Ⅲ(施設) 保育実習Ⅲ(施設) 子ども学入門 子ども学演習 卒業研究
専	講師	峰 友紗 (41) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(ライティングを含む) 基礎実習 子どもの保健Ⅰ 子どもの保健Ⅱ 子どもの保健Ⅲ 衛生学及び公衆衛生学 母子保健 教育実習指導(幼) 教育実習(幼) 教職実践演習(幼) 子ども学入門 子ども学演習 卒業研究
兼任	教授	箭内 任 (55) ＜平成31年4月＞ 博士(情報科学)
		哲学
兼任	教授	上村 静 (53) ＜平成31年4月＞ Doctor of Philosophy(イスラエル)
		現代の倫理 世界の宗教と文化
兼任	教授	永澤 雄治 (56) ＜平成31年4月＞ 修士(国際文化)
		国際社会論 人権論
兼任	教授	千葉 正樹 (62) ＜平成31年4月＞ 博士(国際文化)
		日本とアジアの歴史 地域文化論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	山崎 裕 (63) ＜平成31年4月＞ 理学博士(農学)
		基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(ライティングを含む) 心理・教育学概論 ※ 基礎実習 子どもの自然環境教育 子どもと環境 保育内容指導法 環境 教職実践演習(幼) 子ども学入門 子ども学演習 卒業研究
専	准教授	前田 有秀 (47) ＜平成31年4月＞ 修士(福祉心理学)
		基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(ライティングを含む) 心理・教育学概論 ※ 保育内容総合演習 基礎実習 家庭支援論 子どもと人間関係 保育内容指導法 人間関係 保育実習指導Ⅰ(保育所・施設) 保育実習Ⅰ(保育所・施設) 保育実習指導Ⅱ(保育所) 保育実習Ⅱ(保育所) 保育実習指導Ⅲ(施設) 保育実習Ⅲ(施設) 子ども学入門 子ども学演習 卒業研究
専	講師	兎澤 聖 (43) ＜平成31年4月＞ 修士(社会福祉学)
		基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(ライティングを含む) 社会的養護 社会福祉 基礎実習 児童家庭福祉 相談援助 保育相談支援 保育実習指導Ⅰ(保育所・施設) 保育実習Ⅰ(保育所・施設) 保育実習指導Ⅱ(保育所) 保育実習Ⅱ(保育所) 保育実習指導Ⅲ(施設) 保育実習Ⅲ(施設) 子ども学入門 子ども学演習 卒業研究
専	講師	峰 友紗 (43) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(ライティングを含む) 基礎実習 子どもの保健Ⅰ 子どもの保健Ⅱ 子どもの保健Ⅲ 衛生学及び公衆衛生学 母子保健 教育実習指導(幼) 教育実習(幼) 教職実践演習(幼) 子ども学入門 子ども学演習 卒業研究
兼任	教授	箭内 任 (56) ＜平成31年4月＞ 博士(情報科学)
		哲学
兼任	教授	上村 静 (54) ＜平成31年4月＞ Doctor of Philosophy(イスラエル)
		現代の倫理 世界の宗教と文化
兼任	教授	永澤 雄治 (57) ＜平成31年4月＞ 修士(国際文化)
		国際社会論 人権論
兼任	教授	千葉 正樹 (63) ＜平成31年4月＞ 博士(国際文化)
		日本とアジアの歴史 地域文化論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	山崎 裕 (64) ＜平成31年4月＞ 理学博士(農学)
		基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(ライティングを含む) 心理・教育学概論 ※ 基礎実習 子どもの自然環境教育 子どもと環境 保育内容指導法 環境 教職実践演習(幼) 子ども学入門 子ども学演習 卒業研究
専	准教授	前田 有秀 (48) ＜平成31年4月＞ 修士(福祉心理学)
		基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(ライティングを含む) 心理・教育学概論 ※ 保育内容総合演習 基礎実習 家庭支援論 子どもと人間関係 保育内容指導法 人間関係 保育実習指導Ⅰ(保育所・施設) 保育実習Ⅰ(保育所・施設) 保育実習指導Ⅱ(保育所) 保育実習Ⅱ(保育所) 保育実習指導Ⅲ(施設) 保育実習Ⅲ(施設) 子ども学入門 子ども学演習 卒業研究
専	准教授	兎澤 聖 (44) ＜平成31年4月＞ 修士(社会福祉学)
		基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(ライティングを含む) 社会的養護 社会福祉 基礎実習 児童家庭福祉 相談援助 保育相談支援 保育実習指導Ⅰ(保育所・施設) 保育実習Ⅰ(保育所・施設) 保育実習指導Ⅱ(保育所) 保育実習Ⅱ(保育所) 保育実習指導Ⅲ(施設) 保育実習Ⅲ(施設) 子ども学入門 子ども学演習 卒業研究
専	准教授	峰 友紗 (43) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		基盤演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基盤演習Ⅱ(ライティングを含む) 基礎実習 子どもの保健Ⅰ 子どもの保健Ⅱ 子どもの保健Ⅲ 衛生学及び公衆衛生学 母子保健 教育実習指導(幼) 教育実習(幼) 教職実践演習(幼) 子ども学入門 子ども学演習 卒業研究
兼任	教授	箭内 任 (57) ＜平成31年4月＞ 博士(情報科学)
		哲学
兼任	教授	永澤 雄治 (58) ＜平成31年4月＞ 修士(国際文化)
		国際社会論 人権論
兼任	教授	千葉 正樹 (64) ＜平成31年4月＞ 博士(国際文化)
		日本とアジアの歴史 地域文化論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	内田 龍史 (42) ＜平成31年4月＞ 博士(文学)
		共生社会論
兼任	教授	栗原(菊池) 由紀子 (46) ＜平成31年4月＞ 修士(法学)
		法学概論(日本国憲法)
兼任	教授	高橋 真 (62) ＜平成31年4月＞ 経済学博士
		経済学
兼任	教授	杉座 秀親 (67) ＜平成31年4月＞ 文学修士
		社会学入門
兼任	教授	行場 治朗 (65) ＜平成31年4月＞ 文学(博士)
		心の科学
兼任	教授	久慈 るみ子 (62) ＜平成31年4月＞ 家政学修士
		生活環境論
兼任	教授	中村 健一 (63) ＜平成31年4月＞ 教養学士
		英語リーディングⅠ 英語コミュニケーションⅠ 英語リスニング 英語ライティング 実践英語A(英語で学ぶ文化) 実践英語C(資格試験)
兼任	教授	木村 清 (63) ＜平成31年4月＞ 工学修士
		情報処理演習 情報倫理 チャレンジポートフォリオⅠ チャレンジポートフォリオⅡ チャレンジポートフォリオⅢ
兼任	教授	田村 嘉勝 (67) ＜平成31年4月＞ 修士(文学)
		日本語表現法 児童文学論
兼任	教授	小田嶋 充 (62) ＜平成31年4月＞ 体育学士
		ウェルネス科学論 健康・スポーツⅡ(講義・実技) 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	松田 道雄 (58) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		生涯学習論 多世代交流論 ※
兼任	教授	黄 梅英 (60) ＜平成31年4月＞ 博士(教育学)
		キャリアデザインⅠ ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	高木 竜輔 (42) ＜平成31年4月＞ 修士(文学)
		共生社会論
兼任	教授	栗原(菊池) 由紀子 (46) ＜平成31年4月＞ 修士(法学)
		法学概論(日本国憲法)
兼任	教授	高橋 真 (63) ＜平成31年4月＞ 経済学博士
		経済学
兼任	教授	田中 重好 (67) ＜平成31年4月＞ 法学修士 博士(社会学)
		社会学入門
兼任	教授	行場 治朗 (65) ＜平成31年4月＞ 文学(博士)
		心の科学
兼任	教授	久慈 るみ子 (62) ＜平成31年4月＞ 家政学修士
		生活環境論
兼任	教授	中村 健一 (63) ＜平成31年4月＞ 教養学士
		英語リーディングⅠ 英語コミュニケーションⅠ 英語リスニング 英語ライティング 実践英語A(英語で学ぶ文化) 実践英語C(資格試験)
兼任	教授	木村 清 (63) ＜平成31年4月＞ 工学修士
		情報処理演習 情報倫理 チャレンジポートフォリオⅠ チャレンジポートフォリオⅡ チャレンジポートフォリオⅢ
兼任	教授	田村 嘉勝 (67) ＜平成31年4月＞ 修士(文学)
		日本語表現法 児童文学論
兼任	教授	小田嶋 充 (62) ＜平成31年4月＞ 体育学士
		ウェルネス科学論 健康・スポーツⅡ(講義・実技) 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	松田 道雄 (58) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		生涯学習論 多世代交流論 ※
兼任	教授	黄 梅英 (60) ＜平成31年4月＞ 博士(教育学)
		キャリアデザインⅠ ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	高木 竜輔 (43) ＜平成31年4月＞ 修士(文学)
		共生社会論
兼任	教授	栗原(菊池) 由紀子 (47) ＜平成31年4月＞ 修士(法学)
		法学概論(日本国憲法)
兼任	教授	高橋 真 (64) ＜平成31年4月＞ 経済学博士
		経済学
兼任	教授	田中 重好 (68) ＜平成31年4月＞ 法学修士 博士(社会学)
		社会学入門
兼任	教授	行場 治朗 (66) ＜平成31年4月＞ 文学(博士)
		心の科学 AI社会とデータサイエンス
兼任	教授	久慈 るみ子 (63) ＜平成31年4月＞ 家政学修士
		生活環境論
兼任	教授	中村 健一 (64) ＜平成31年4月＞ 教養学士
		英語リーディングⅠ 英語コミュニケーションⅠ 英語リスニング 英語ライティング 実践英語A(英語で学ぶ文化) 実践英語C(資格試験)
兼任	教授	木村 清 (64) ＜平成31年4月＞ 工学修士
		情報処理演習 情報倫理 チャレンジポートフォリオⅠ チャレンジポートフォリオⅡ チャレンジポートフォリオⅢ
兼任	教授	田村 嘉勝 (68) ＜平成31年4月＞ 修士(文学)
		日本語表現法 児童文学論
兼任	教授	小田嶋 充 (63) ＜平成31年4月＞ 体育学士
		ウェルネス科学論 健康・スポーツⅡ(講義・実技) 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	松田 道雄 (59) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		生涯学習論 多世代交流論 ※
兼任	教授	黄 梅英 (61) ＜平成31年4月＞ 博士(教育学)
		キャリアデザインⅠ ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	長谷川 公一 (66) ＜令和2年4月＞ 博士(社会学)
		共生社会論 社会学入門
兼任	教授	高橋 真 (65) ＜平成31年4月＞ 経済学博士
		経済学
兼任	教授	行場 治朗 (67) ＜平成31年4月＞ 文学(博士)
		心の科学 AI社会とデータサイエンス
兼任	教授	久慈 るみ子 (64) ＜平成31年4月＞ 家政学修士
		生活環境論
兼任	教授	中村 健一 (65) ＜平成31年4月＞ 教養学士
		英語リーディングⅠ 英語コミュニケーションⅠ 英語リスニング 英語ライティング 実践英語A(英語で学ぶ文化) 実践英語C(資格試験)
兼任	教授	田村 嘉勝 (69) ＜平成31年4月＞ 修士(文学)
		日本語表現法 児童文学論
兼任	教授	小田嶋 充 (64) ＜平成31年4月＞ 体育学士
		ウェルネス科学論 健康・スポーツⅡ(講義・実技) 心理・教育学概論 ※
兼任	教授	松田 道雄 (60) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)
		生涯学習論 多世代交流論 ※
兼任	教授	黄 梅英 (62) ＜平成31年4月＞ 博士(教育学)
		キャリアデザインⅠ ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	渡邊 千恵子 (55) <平成31年4月> 家政学修士
		キャリアデザインⅠ ※ キャリアアップセミナー
兼任	教授	玉田 真紀 (59) <平成31年4月> 家政学修士
		インターンシップ
兼任	教授	川端 杜康 (51) <平成31年4月> 修士(教育学)
		心理・教育学概論 ※
兼任	教授	三好 敏之 (59) <平成31年4月> 教育学修士
		心理・教育学概論 ※
兼任	教授	松本 真奈美 (54) <平成31年4月> 博士(文学)
		心理・教育学概論 ※
兼任	教授	小池 敏英 (65) <平成31年4月> 教育学博士
		心理・教育学概論 ※
兼任	教授	水田 恵三 (61) <平成31年4月> 文学修士
		多世代交流論 ※ 学校安全学(防犯と防災の心理学)
兼任	准教授	目黒 恒夫 (64) <平成31年4月> 教育学修士
		教育人間論
兼任	准教授	今井 誠二 (58) <平成31年4月> 修士(文学)
		日本近代史とキリスト教 海外インターンシップ
兼任	准教授	張 濤 (48) <平成31年4月> 博士(経済学)
		キャリアアップセミナー
兼任	准教授	齊藤 敬 (47) <平成31年4月> 博士(工学)
		生活と化学
兼任	准教授	呉 正培 (44) <平成31年4月> 博士(文学)
		異文化理解
兼任	准教授	福井 真司 (51) <平成31年4月> 博士(医学)
		健康・スポーツⅡ(講義・実技) 心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	設楽 レベッカ リン (61) <平成31年4月> Bachelor of Arts(米国)
		英語リーディングⅠ 英語コミュニケーションⅠ 実践英語Ⅱ(英語プレゼンテーション)
兼任	准教授	内田 知宏 (36) <平成31年4月> 博士(教育学)
		心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	池田 和浩 (39) <平成31年4月> 博士(教育学)
		心理・教育学概論 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	渡邊 千恵子 (55) <平成31年4月> 家政学修士
		キャリアデザインⅠ ※ キャリアアップセミナー
兼任	教授	玉田 真紀 (59) <平成31年4月> 家政学修士
		インターンシップ
兼任	教授	川端 杜康 (51) <平成31年4月> 修士(教育学)
		心理・教育学概論 ※
兼任	教授	三好 敏之 (60) <平成31年4月> 教育学修士
		心理・教育学概論 ※
兼任	教授	松本 真奈美 (54) <平成31年4月> 博士(文学)
		心理・教育学概論 ※
兼任	教授	小池 敏英 (65) <平成31年4月> 教育学博士
		心理・教育学概論 ※
兼任	教授	水田 恵三 (61) <平成31年4月> 文学修士
		多世代交流論 ※ 学校安全学(防犯と防災の心理学)
兼任	教授	目黒 恒夫 (64) <平成31年4月> 教育学修士
		教育人間論
兼任	教授	今井 誠二 (59) <平成31年4月> 修士(文学)
		日本近代史とキリスト教 海外インターンシップ
兼任	教授	張 濤 (48) <平成31年4月> 博士(経済学)
		キャリアアップセミナー
兼任	教授	齊藤 敬 (47) <平成31年4月> 博士(工学)
		生活と化学
兼任	准教授	呉 正培 (44) <平成31年4月> 博士(文学)
		異文化理解
兼任	准教授	福井 真司 (51) <平成31年4月> 博士(医学)
		健康・スポーツⅡ(講義・実技) 心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	設楽 レベッカ リン (61) <平成31年4月> Bachelor of Arts(米国)
		英語リーディングⅠ 英語コミュニケーションⅠ 実践英語Ⅱ(英語プレゼンテーション)
兼任	准教授	内田 知宏 (36) <平成31年4月> 博士(教育学)
		心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	池田 和浩 (39) <平成31年4月> 博士(教育学)
		心理・教育学概論 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	渡邊 千恵子 (56) <平成31年4月> 家政学修士
		キャリアデザインⅠ ※ キャリアアップセミナー
兼任	教授	玉田 真紀 (60) <平成31年4月> 家政学修士
		インターンシップ
兼任	教授	川端 杜康 (52) <平成31年4月> 修士(教育学)
		心理・教育学概論 ※
兼任	教授	三好 敏之 (61) <平成31年4月> 教育学修士
		心理・教育学概論 ※
兼任	教授	松本 真奈美 (55) <平成31年4月> 博士(文学)
		心理・教育学概論 ※
兼任	教授	小池 敏英 (66) <平成31年4月> 教育学博士
		心理・教育学概論 ※
兼任	教授	水田 恵三 (62) <平成31年4月> 文学修士
		多世代交流論 ※ 学校安全学(防犯と防災の心理学)
兼任	教授	目黒 恒夫 (65) <平成31年4月> 教育学修士
		教育人間論
兼任	教授	今井 誠二 (60) <平成31年4月> 修士(文学)
		日本近代史とキリスト教 海外インターンシップ
兼任	教授	張 濤 (49) <平成31年4月> 博士(経済学)
		キャリアアップセミナー
兼任	教授	齊藤 敬 (48) <平成31年4月> 博士(工学)
		生活と化学
兼任	准教授	呉 正培 (45) <平成31年4月> 博士(文学)
		異文化理解
兼任	准教授	福井 真司 (52) <平成31年4月> 博士(医学)
		健康・スポーツⅡ(講義・実技) 心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	設楽 レベッカ リン (62) <平成31年4月> Bachelor of Arts(米国)
		英語リーディングⅠ 英語コミュニケーションⅠ 実践英語Ⅱ(英語プレゼンテーション)
兼任	准教授	内田 知宏 (37) <平成31年4月> 博士(教育学)
		心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	池田 和浩 (40) <平成31年4月> 博士(教育学)
		心理・教育学概論 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	渡邊 千恵子 (57) <平成31年4月> 家政学修士
		キャリアデザインⅠ ※ キャリアアップセミナー
兼任	教授	玉田 真紀 (61) <平成31年4月> 家政学修士
		インターンシップ キャリアアップセミナー
兼任	教授	川端 杜康 (53) <平成31年4月> 修士(教育学)
		心理・教育学概論 ※
兼任	教授	三好 敏之 (62) <平成31年4月> 教育学修士
		心理・教育学概論 ※
兼任	教授	松本 真奈美 (56) <平成31年4月> 博士(文学)
		心理・教育学概論 ※
兼任	教授	小池 敏英 (67) <平成31年4月> 教育学博士
		心理・教育学概論 ※
兼任	教授	水田 恵三 (63) <平成31年4月> 文学修士
		多世代交流論 ※ 学校安全学(防犯と防災の心理学)
兼任	教授	目黒 恒夫 (67) <平成31年4月> 教育学修士
		教育人間論
兼任	教授	今井 誠二 (61) <平成31年4月> 修士(文学)
		日本近代史とキリスト教 海外インターンシップ
兼任	教授	齊藤 敬 (49) <平成31年4月> 博士(工学)
		生活と化学
兼任	准教授	呉 正培 (46) <平成31年4月> 博士(文学)
		異文化理解
兼任	准教授	福井 真司 (53) <平成31年4月> 博士(医学)
		健康・スポーツⅡ(講義・実技) 心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	設楽 レベッカ リン (63) <平成31年4月> Bachelor of Arts(米国)
		英語リーディングⅠ 英語コミュニケーションⅠ 実践英語Ⅱ(英語プレゼンテーション)
兼任	准教授	内田 知宏 (38) <平成31年4月> 博士(教育学)
		心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	池田 和浩 (41) <平成31年4月> 博士(教育学)
		心理・教育学概論 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	小泉 嘉子 (45) ＜平成31年4月＞ 博士(教育学)	心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	相馬 亮 (43) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)	心理・教育学概論 ※ 子どもの造形表現 子どもと表現 ※ 保育内容指導法 表現Ⅰ(造形) 図画工作
兼任	講師	土田 定克 (43) ＜平成31年4月＞ コンサートピアニスト修士(ロシア)	音楽Ⅱ(器楽基礎) 音楽Ⅱ(器楽応用) 音楽Ⅱ(器楽発展) ピアノ伴奏法 子ども学演習 卒業研究
兼任	講師	Samuel Murchie (37) ＜平成31年4月＞ Master of Divinity(米国)	キリスト教概論Ⅰ キリスト教概論Ⅱ 国際交流演習 子どもの外国語表現
兼任	講師	横井 渉央 (47) ＜平成31年4月＞ 博士(情報科学)	福祉社会論
兼任	准教授	金井 徹 (38) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)	教育原理(幼) 教育制度(幼) 教職概論(幼) 教育課程論(幼) 教育実習指導(幼) 教育実習(幼) 子ども学演習 卒業研究
兼任	講師	田所 義郎 (39) ＜平成31年4月＞ 修士(神学)	キリスト教概論Ⅰ キリスト教概論Ⅱ キリスト教演習
兼任	講師	畑 奈保美 (48) ＜平成31年4月＞ 博士(文学)	西洋の歴史
兼任	講師	酒井 宣昭 (39) ＜平成32年4月＞ 修士(文学)	地理学
兼任	講師	石澤 理如 (45) ＜平成31年4月＞ 修士(国際文化)	市民教育

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	小泉 嘉子 (45) ＜平成31年4月＞ 博士(教育学)	心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	相馬 亮 (43) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)	心理・教育学概論 ※ 子どもの造形表現 子どもと表現 ※ 保育内容指導法 表現Ⅰ(造形) 図画工作
兼任	准教授	土田 定克 (43) ＜平成31年4月＞ コンサートピアニスト修士(ロシア)	音楽Ⅱ(器楽基礎) 音楽Ⅱ(器楽応用) 音楽Ⅱ(器楽発展) ピアノ伴奏法 子ども学演習 卒業研究
兼任	講師	Samuel Murchie (37) ＜平成31年4月＞ Master of Divinity(米国)	キリスト教概論Ⅰ キリスト教概論Ⅱ 国際交流演習 子どもの外国語表現
兼任	講師	横井 渉央 (47) ＜平成31年4月＞ 博士(情報科学)	福祉社会論
兼任	准教授	金井 徹 (38) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)	教育原理(幼) 教育制度(幼) 教職概論(幼) 教育課程論(幼) 教育実習指導(幼) 教育実習(幼) 子ども学演習 卒業研究
兼任	講師	田所 義郎 (39) ＜平成31年4月＞ 修士(神学)	キリスト教概論Ⅰ キリスト教概論Ⅱ キリスト教演習
兼任	講師	畑 奈保美 (48) ＜平成31年4月＞ 博士(文学)	西洋の歴史
兼任	講師	酒井 宣昭 (39) ＜令和2年4月＞ 修士(文学)	地理学
兼任	講師	石澤 理如 (45) ＜平成31年4月＞ 修士(国際文化)	市民教育

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	小泉 嘉子 (46) ＜平成31年4月＞ 博士(教育学)	心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	相馬 亮 (44) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)	心理・教育学概論 ※ 子どもの造形表現 子どもと表現 ※ 保育内容指導法 表現Ⅰ(造形) 図画工作
兼任	准教授	土田 定克 (44) ＜平成31年4月＞ コンサートピアニスト修士(ロシア)	音楽Ⅱ(器楽基礎) 音楽Ⅱ(器楽応用) 音楽Ⅱ(器楽発展) ピアノ伴奏法 子ども学演習 卒業研究
兼任	講師	Samuel Murchie (38) ＜平成31年4月＞ Master of Divinity(米国)	キリスト教概論Ⅰ キリスト教概論Ⅱ 国際交流演習 子どもの外国語表現
兼任	講師	横井 渉央 (48) ＜平成31年4月＞ 博士(情報科学)	福祉社会論
兼任	准教授	金井 徹 (39) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)	教育原理(幼) 教育制度(幼) 教職概論(幼) 教育課程論(幼) 教育実習指導(幼) 教育実習(幼) 子ども学演習 卒業研究
兼任	講師	田所 義郎 (40) ＜平成31年4月＞ 修士(神学)	キリスト教概論Ⅰ キリスト教概論Ⅱ キリスト教演習
兼任	講師	森田 優子 (45) ＜令和2年4月＞ 博士(文学)	芸術論
兼任	講師	畑 奈保美 (49) ＜平成31年4月＞ 博士(文学)	西洋の歴史
兼任	講師	酒井 宣昭 (40) ＜令和2年4月＞ 修士(文学)	地理学
兼任	講師	石澤 理如 (46) ＜平成31年4月＞ 修士(国際文化)	市民教育

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	小泉 嘉子 (48) ＜平成31年4月＞ 博士(教育学)	心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	相馬 亮 (45) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)	心理・教育学概論 ※ 子どもの造形表現 子どもと表現 ※ 保育内容指導法 表現Ⅰ(造形) 図画工作
兼任	教授	土田 定克 (45) ＜平成31年4月＞ コンサートピアニスト修士(ロシア)	音楽Ⅱ(器楽基礎) 音楽Ⅱ(器楽応用) 音楽Ⅱ(器楽発展) ピアノ伴奏法 子ども学演習 卒業研究
兼任	准教授	野田 奈津実 (37) ＜平成31年4月＞ 修士(家政学)	健康と栄養
兼任	准教授	片山 統裕 (53) ＜令和3年4月＞ 博士(情報科学)	情報処理演習 情報倫理
兼任	講師	Samuel Murchie (39) ＜平成31年4月＞ Master of Divinity(米国)	キリスト教概論Ⅰ キリスト教概論Ⅱ 国際交流演習 子どもの外国語表現
兼任	准教授	横井 渉央 (49) ＜平成31年4月＞ 博士(情報科学)	福祉社会論
兼任	准教授	金井 徹 (40) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)	教育原理(幼) 教育制度(幼) 教職概論(幼) 教育課程論(幼) 教育実習指導(幼) 教育実習(幼) 子ども学演習 卒業研究
兼任	講師	寒河江 和樹 (31) ＜平成31年4月＞ 法学修士	法学概論(日本国憲法)
兼任	講師	田所 義郎 (41) ＜平成31年4月＞ 修士(神学)	キリスト教概論Ⅰ キリスト教概論Ⅱ キリスト教演習
兼任	講師	森田 優子 (46) ＜令和2年4月＞ 博士(文学)	芸術論
兼任	講師	畑 奈保美 (50) ＜平成31年4月＞ 博士(文学)	西洋の歴史
兼任	講師	酒井 宣昭 (41) ＜令和2年4月＞ 修士(文学)	地理学
兼任	講師	石澤 理如 (47) ＜平成31年4月＞ 修士(国際文化)	市民教育

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	荒井 偉作 (50) <平成32年4月> 学士(教養)学士(文学)
		キリスト教と現代社会
兼任	講師	前田 美香 (57) <平成32年4月> 理学博士
		生命の科学
兼任	講師	飯淵 由美 (65) <平成31年4月> 家政学士
		健康と栄養
兼任	講師	オーフラロティ 智美 (40) <平成31年4月> 短期大学
		英語リーディングⅠ 英語リーディングⅡ 英語コミュニケーションⅠ
兼任	講師	尾形 まゆみ (53) <平成32年4月> 修士(国際文化)
		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任	講師	FATH-MIYAZAKI Frederike (55) <平成31年4月> ドイツ大学
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	講師	平手 伸昭 (50) <平成31年4月> 博士(文学)
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	講師	村山 茂 (63) <平成31年4月> 文学修士
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	講師	宋 貞熹 (47) <平成31年4月> 文学修士
		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ
兼任	講師	屈 明昌 (62) <平成31年4月> 工学博士
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	堀田 智子 (45) <平成32年4月> 博士(国際文化)
		日本語と日本事情Ⅰ 日本語と日本事情Ⅱ
兼任	講師	初山 高仁 (45) <平成31年4月> 博士(国際文化)
		情報処理演習
兼任	講師	古川 靖志 (56) <平成31年4月> 学士(体育学)
		健康・スポーツⅠ(講義・実技) 健康・スポーツⅡ(講義・実技)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	荒井 偉作 (50) <令和2年4月> 学士(教養)学士(文学)
		キリスト教と現代社会
兼任	講師	前田 美香 (57) <令和2年4月> 理学博士
		生命の科学
兼任	講師	飯淵 由美 (65) <平成31年4月> 家政学士
		健康と栄養
兼任	講師	オーフラロティ 智美 (40) <平成31年4月> 短期大学
		英語リーディングⅠ 英語リーディングⅡ 英語コミュニケーションⅠ
兼任	講師	尾形 まゆみ (53) <平成31年4月> 修士(国際文化)
		英語リーディングⅠ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任	講師	FATH-MIYAZAKI Frederike (55) <平成31年4月> ドイツ大学
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	講師	村山 茂 (63) <平成31年4月> 文学修士
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	講師	宋 貞熹 (47) <平成31年4月> 文学修士
		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ
兼任	講師	屈 明昌 (62) <平成31年4月> 工学博士
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	堀田 智子 (45) <令和2年4月> 博士(国際文化)
		日本語と日本事情Ⅰ 日本語と日本事情Ⅱ
兼任	講師	初山 高仁 (45) <平成31年4月> 博士(国際文化)
		情報処理演習
兼任	講師	古川 靖志 (56) <平成31年4月> 学士(体育学)
		健康・スポーツⅠ(講義・実技) 健康・スポーツⅡ(講義・実技)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	荒井 偉作 (51) <令和2年4月> 学士(教養)学士(文学)
		キリスト教と現代社会
兼任	講師	前田 美香 (58) <令和2年4月> 理学博士
		生命の科学
兼任	講師	飯淵 由美 (66) <平成31年4月> 家政学士
		健康と栄養
兼任	講師	オーフラロティ 智美 (41) <平成31年4月> 短期大学
		英語リーディングⅠ 英語リーディングⅡ 英語コミュニケーションⅠ
兼任	講師	尾形 まゆみ (54) <平成31年4月> 修士(国際文化)
		英語リーディングⅠ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任	講師	FATH-MIYAZAKI Frederike (56) <平成31年4月> ドイツ大学
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	講師	村山 茂 (64) <平成31年4月> 文学修士
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	講師	宋 貞熹 (48) <平成31年4月> 文学修士
		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ
兼任	講師	屈 明昌 (63) <平成31年4月> 工学博士
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	堀田 智子 (46) <令和2年4月> 博士(国際文化)
		日本語と日本事情Ⅰ 日本語と日本事情Ⅱ
兼任	講師	初山 高仁 (46) <平成31年4月> 博士(国際文化)
		情報処理演習
兼任	講師	古川 靖志 (57) <平成31年4月> 学士(体育学)
		健康・スポーツⅠ(講義・実技) 健康・スポーツⅡ(講義・実技)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	荒井 偉作 (52) <令和2年4月> 学士(教養)学士(文学)
		キリスト教と現代社会
兼任	講師	前田 美香 (59) <令和2年4月> 理学博士
		生命の科学
兼任	講師	オーフラロティ 智美 (42) <平成31年4月> 短期大学
		英語リーディングⅠ 英語リーディングⅡ 英語コミュニケーションⅠ
兼任	講師	尾形 まゆみ (55) <平成31年4月> 修士(国際文化)
		英語リーディングⅠ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任	講師	新田 貴之 (42) <平成31年4月> 博士(情報科学)
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	講師	村山 茂 (65) <平成31年4月> 文学修士
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	講師	宋 貞熹 (49) <平成31年4月> 文学修士
		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ
兼任	講師	屈 明昌 (64) <平成31年4月> 工学博士
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	堀田 智子 (47) <令和2年4月> 博士(国際文化)
		日本語と日本事情Ⅰ 日本語と日本事情Ⅱ
兼任	講師	初山 高仁 (47) <平成31年4月> 博士(国際文化)
		情報処理演習
兼任	講師	古川 靖志 (58) <平成31年4月> 学士(体育学)
		健康・スポーツⅠ(講義・実技) 健康・スポーツⅡ(講義・実技)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	岡井 稔 (57) ＜平成32年4月＞ 学士(産業社会学)
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	川田 真喜子 (51) ＜平成32年4月＞ 学士(文学)
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	瀬尾 千恵美 (54) ＜平成32年4月＞ 短期大学
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	浦澤 みよ子 (52) ＜平成32年4月＞ 学士(事業計画)
		海外インターンシップ
兼任	講師	藤本 由紀子 (69) ＜平成32年4月＞ 家政学士
		小児栄養
兼任	講師	丹野 広子 (64) ＜平成32年4月＞ 保育専門学院
		乳児保育の理論と実践 ※
兼任	講師	荒尾 貞一 (64) ＜平成34年4月＞ 教育学修士
		放課後の児童の保護と教育
兼任	講師	勝田 亮 (52) ＜平成32年4月＞ 法学士
		子どもの人権と教育
兼任	講師	小泉 紀子 (48) ＜平成34年4月＞ 修士(文学)
		世界の子ども
兼任	講師	本宮 かおり (49) ＜平成32年4月＞ 短期大学
		保育内容指導法 表現Ⅱ(音楽)
兼任	講師	西川 慶 (38) ＜平成31年4月＞ 音楽学士
		オーケストラ(総合音楽) オーケストラⅠ オーケストラⅡ オーケストラⅢ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	岡井 稔 (57) ＜令和2年4月＞ 学士(産業社会学)
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	川田 真喜子 (51) ＜令和2年4月＞ 学士(文学)
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	瀬尾 千恵美 (54) ＜令和2年4月＞ 短期大学
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	浦澤 みよ子 (52) ＜令和2年4月＞ 学士(事業計画)
		海外インターンシップ
兼任	講師	寺島 英弥 (62) ＜平成31年4月＞ 学士(法学)
		メディアリテラシー
兼任	講師	藤本 由紀子 (69) ＜令和2年4月＞ 家政学士
兼任	講師	仁藤 喜久子 (47) ＜平成31年4月＞ 博士(教育学)
		子どもと健康 保育内容指導法 健康
兼任	講師	丹野 広子 (64) ＜令和2年4月＞ 保育専門学院
		乳児保育の理論と実践 ※
兼任	講師	荒尾 貞一 (64) ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		放課後の児童の保護と教育
兼任	講師	勝田 亮 (52) ＜令和2年4月＞ 法学士
		子どもの人権と教育
兼任	講師	小泉 紀子 (48) ＜令和4年4月＞ 修士(文学)
		世界の子ども
兼任	講師	本宮 かおり (49) ＜令和2年4月＞ 短期大学
		保育内容指導法 表現Ⅱ(音楽)
兼任	講師	西川 慶 (38) ＜平成31年4月＞ 音楽学士
		オーケストラ(総合音楽) オーケストラⅠ オーケストラⅡ オーケストラⅢ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	岡井 稔 (58) ＜令和2年4月＞ 学士(産業社会学)
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	川田 真喜子 (52) ＜令和2年4月＞ 学士(文学)
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	瀬尾 千恵美 (55) ＜令和2年4月＞ 短期大学
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	寺島 英弥 (63) ＜令和2年4月＞ 学士(法学)
		メディアリテラシー
兼任	講師	神田 あづさ (51) ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		小児栄養
兼任	講師	仁藤 喜久子 (48) ＜平成31年4月＞ 博士(教育学)
		子どもと健康 保育内容指導法 健康
兼任	講師	丹野 広子 (65) ＜令和2年4月＞ 保育専門学院
		乳児保育の理論と実践 ※
兼任	講師	荒尾 貞一 (65) ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		放課後の児童の保護と教育
兼任	講師	勝田 亮 (53) ＜令和2年4月＞ 法学士
		子どもの人権と教育
兼任	講師	小泉 紀子 (49) ＜令和4年4月＞ 修士(文学)
		世界の子ども
兼任	講師	本宮 かおり (50) ＜令和2年4月＞ 短期大学
		保育内容指導法 表現Ⅱ(音楽)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	川田 真喜子 (53) ＜令和2年4月＞ 学士(文学)
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	瀬尾 千恵美 (56) ＜令和2年4月＞ 短期大学
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	寺島 英弥 (64) ＜令和2年4月＞ 学士(法学)
		メディアリテラシー
兼任	講師	神田 あづさ (52) ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		小児栄養
兼任	講師	仁藤 喜久子 (49) ＜平成31年4月＞ 博士(教育学)
		子どもと健康 保育内容指導法 健康
兼任	講師	丹野 広子 (66) ＜令和2年4月＞ 保育専門学院
		乳児保育の理論と実践 ※
兼任	講師	荒尾 貞一 (66) ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		放課後の児童の保護と教育
兼任	講師	勝田 亮 (54) ＜令和2年4月＞ 法学士
		子どもの人権と教育
兼任	講師	小泉 紀子 (50) ＜令和4年4月＞ 修士(文学)
		世界の子ども
兼任	講師	本宮 かおり (51) ＜令和2年4月＞ 短期大学
		保育内容指導法 表現Ⅱ(音楽)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
		持田 眞 (61) <令和2年4月> 芸術学士
兼任	講師	オーケストラ(総合音楽) オーケストラⅠ オーケストラⅡ オーケストラⅢ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
		持田 眞 (62) <令和2年4月> 芸術学士
兼任	講師	オーケストラ(総合音楽) オーケストラⅠ オーケストラⅡ オーケストラⅢ

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(1) -②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

「該当なし」

【令和2年度】

「該当なし」

【令和3年度】

- ・ 兎澤聖講師が准教授に職位変更「教員審査省略」
- ・ 峰友紗講師が准教授に職位変更「教員審査省略」

【令和4年度】

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
6 名	3 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
6	2	2	0	10	0	6	4	0	0	10	0
(6)	(2)	(2)	(0)	(10)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
6	5	0	0	11	0	6	5	0	0	11	0
(0)	(3)	(Δ2)	(0)	(1)	(0)	(0)	(3)	(Δ2)	(0)	(1)	(0)

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
教授・准教授 67 講師 64 歳	2 名	2 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{11}{10} = \boxed{110} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{10} = \boxed{20} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		該当なし					
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし					
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計(D) + (F)			後任補充状況の集計(E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{11} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
合計					後任補充状況の集計				
辞任した教員数		担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

特になし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和元年)	完成年度前に、定年規定に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めると共に、教員組織編制の将来構想について検討すること。	留意事項 完成年次における専任教員は30歳代1人、40歳代3人、50歳代4人、60歳代6人、70歳代2人であり、今後の採用人事については、30歳～40歳代の若手教員を積極的に採用し、組織の活性化を図ると共にバランスのとれた年齢構成になるように計画的に行っていく。	履行中 引き続き、退職者の補充については、研究業績も考慮しながら40歳代以下の教員を中心に公募、補充をしていく。
設置計画履行状況 調 査 時 (令和元年)	入学定員超過の改善に努めること。(心理・教育学群学校教育学類)	指摘事項 (改善) 入学者管理を徹底すると共に学生の受入れ方針を明確化し、入試要項、ホームページ等を通じ、求める学生像を明示した上で改善に努める。	履行済 入学試験制度と入学手続きの動向(データ)等を考慮し、入学手続き者を定員内に収めるように努めていく。
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	入学定員超過の改善に努めること。(心理・教育学群心理学類)	指摘事項 (改善) 各入試区分における合否判定について、ここ最近の入学手続き状況を考慮し、より一層慎重に行う。	履行中 入試区分別募集人員をここ最近の志願状況、入学手続き状況に合ったものに変更する。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<心理・教育学群 子ども学類 >

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
「該当なし」	
<p>(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。</p> <p>(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）</p>	
<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>本学の教員のファカルティ・ディベロプメント（FD）を推進するために、「尚綱学院大学FD・SD委員会規程」により、教学担当副学長を委員長とした委員会を中心にFD研修会を実施している。一方、授業の内容及び方法の改善を向上させるための調査研究、施策の立案と実施を支援し、その充実を図ることを目的とした「教育開発推進委員会」は、研修会のテーマや内容などについても立案、提言を行い、研修会の企画・立案・実施に深く関与している。両委員会の委員長はいずれも教学担当副学長であり、両委員会が連携し中心となってFDの推進を実施する体制となっている。また、「本学の不断の教育改善」と「具体的な社会貢献」を目的に、尚綱学院大学総合人間科学研究機構（機構長：学長）を開設し、共同研究プロジェクトによる研究・調査活動や研究会、市民公開講座、講演会等を行い教育研究の質向上に努めている。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>教育開発推進委員会は、月1回実施し、教学担当副学長を委員長として、教務部長、教務課長、教育研究支援課長、その他委員長が必要と認める教員複数名で構成されている。（教育開発推進委員会規程）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>(1) 大学教育に全般にわたる新しい教育システムの研究開発 (2) 全学カリキュラム改革、教養教育、高大連携、FD、リメディアル教育、導入教育、授業評価の研究開発ならびにこれらに基づく提言及び推進 (3) 教育開発・改善に必要とされる運営委員会及びワーキンググループの検討と設置 (4) 教育課程の編成方針及び調整 (5) 教育課程その他の教育プログラムの改善 (6) 本学における教養教育を含む教育課程に関する中期目標・中期計画</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>2020年度は、「教育開発推進委員会」等と「FD・SD委員会」が連携して研修会を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 非対面型授業方法についての研修会（2020年4月8日、9日開催） <p>新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、非対面授業の実施に向け、①非対面型授業方法について、②授業動画作成の工夫、③Campusmate-jを使った授業支援方法についての研修。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 非対面型授業方法についての研修会Part2（2020年4月15日開催） <p>新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、非対面授業の実施に向け、①Campusmate-jを使った授業支援方法、②PowerPointを使った授業動画作成の手順についてについての研修。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 非対面型授業方法についての研修会Part3（2020年4月17日開催） <p>新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、非対面授業の実施に向け、①Zoomの使用方法について、②非対面型（遠隔）授業の具体的なプランについて研修。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 非対面型授業方法についての研修会Part4（2020年4月21日開催） <p>新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、非対面授業の実施に向け、① OneDriveの使用方法についての研修。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 非対面型授業に関するFD研修会（2020年8月24日開催） 	

前期実施した授業について、①非対面型授業の事例発表（学内教員3件）、②非対面型授業アンケートの結果（学生アンケート、教員アンケート）についての研修

・後期授業実施に向けたFD研修会（2020年9月15日開催）

新型コロナウイルス感染症が終息しない状況を踏まえ、①後期の授業運営についての説明、②新しく導入するCoursePower（LMS）操作研修を実施し、対面授業と非対面授業が混在するハイブリッド授業についての理解と、LMSを活用した学習管理と学生サポートについての研修。

・非対面型授業基礎研修（2020年9月15日開催）

新型コロナウイルス感染症が終息しない状況を踏まえ、非対面授業を展開するうえでのツールとなる①Zoomの使い方、②OneDriveへのデータ保存方法、③PowerPoint活用について理解を深め考えるための研修。

・教学マネジメント指針に関するFD研修会（2020年10月22日開催）

教学マネジメントの在り方、特に学習成果の見える化について理解を深め考えるための研修。

・AI・データサイエンス教育に関するFD研修会（2020年10月22日開催）

AI・データサイエンス教育を担当する教員に向け、講演を通して理解を深め考えるための研修。

・2021年度シラバスおよびCoursePowerに関するFD研修会（2020年11月25日開催）

2021年度のシラバスの準備にあたり、学生が理解しやすくするため、基本的な記載内容、方法を統一するため2021年度シラバス作成、および本格的運用が開始されたCoursePowerの利用法について実例を交えて理解を深め考えるための研修。

・著作権、授業目的公衆送信補償金に関するFD研修会（2021年2月25日開催）

非対面授業における授業資料等の作成で問題となる著作権について、①著作権法及び授業等における著作権利用と授業目的公衆送信補償金制度の概要について理解を深め考えるための研修。

・学生支援体制構築にむけて支援のあり方を考えるFD研修会（2021年2月25日開催）

発達障害のある学生への必要な支援の在り方について理解を深め考えるための研修。

・2021年度授業担当者FD研修会（2021年3月10日開催）

尚綱学院大学の全授業担当者を対象とし、授業に関する共通理解を深め、教育効果を高めるため、①尚綱学院大学の取り組みについて、②授業への取り組みについて、③学生と接する際の留意事項、④2021年度授業運営について、⑤SPレーダーの集計結果と今後についての5つのテーマについて理解を深め考えるための研修。

・LGDBQ+に関する理解および支援の在り方を考えるFD研修会（2021年3月12日開催）

LGDBQ+についての理解を深めるとともに、必要な支援の在り方について考えるための研修。

b 実施方法

・非対面型授業方法についての研修会（2020年4月8日、9日開催）

学内教員が解説、質疑に答える研修を対面で実施した。

・非対面型授業方法についての研修会Part2（2020年4月15日開催）

学内教員が解説、質疑に答える研修を対面で実施した。

・非対面型授業方法についての研修会Part3（2020年4月17日開催）

学内教員が解説、質疑に答える研修を対面及び非対面（Zoom）で実施した。

・非対面型授業方法についての研修会Part4（2020年4月21日開催）

学内教職員が解説、質疑に答える研修を対面及び非対面（Zoom）で実施した。

・非対面型授業に関するFD研修会（2020年8月24日開催）

学内教員3件の事例紹介とアンケート結果等の説明と質疑応答を非対面（Zoom）で実施した。

・後期授業実施に向けたFD研修会（2020年9月15日開催）

学内教職員、並びにCoursePowerの導入元業者による解説と質疑応答を非対面（Zoom）で実施した。

・非対面型授業基礎研修（2020年9月15日開催）

学内教職員による説明と質疑応答を対面型実施した。

・教学マネジメント指針に関するFD研修会（2020年10月22日開催）

講師に大森昭生氏を迎え、「誰のための教学マネジメントか」と題した講演を頂いた後、質疑応答を行った。（Zoomでの実施。一部対面）

・AI・データサイエンス教育に関するFD研修会（2020年10月22日開催）

現代社会の動向、Society5.0に向けた社会、AI及びその影響、データ分析などを扱う教員を主な対象とし、講師に高谷将宏氏を招き、「AIを通して広がる学びとDX」について講演を頂いた後、質疑応答を行った。（対面とZoomでの実施）

・2021年度シラバスおよびCoursePowerに関するFD研修会（2020年11月25日開催）

学内教員による解説と質疑応答を非対面（Zoom）で実施した。

・著作権、授業目的公衆送信補償金に関するFD研修会（2021年2月25日開催）

本学職員による解説と質疑応答を非対面（Zoom）で実施した。

・学生支援体制構築にむけて支援のあり方を考えるFD研修会（2021年2月25日開催）

講師に池田忠義氏を招き「発達障害のある学生への対応」について講演を頂いた後、質疑応答を行った。（Zoomでの実施）

・2021年度授業担当者FD研修会（2021年3月10日開催）

尚綱学院大学の全授業担当者を対象とし、5つのテーマについて学内教職員による説明と質疑を行った。（Zoomでの実施）

・LGDBQ+に関する理解および支援の在り方を考えるFD研修会（2021年3月12日開催）
講師として勝又栄政 氏を招き、「LGDBQ+に関する基礎知識」について講演を頂いた後、質疑応答を行った。（Zoomでの実施）

* 非対面型（Zoom）で実施したFDは、レコーディングして後からでも視聴できるようにした。

C 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・非対面型授業方法についての研修会（2020年4月8日、9日開催）
教員 94名の出席（両日参加ありのため、延べ参加人数）
- ・非対面型授業方法についての研修会Part2（2020年4月15日開催）
教員 61名の出席
- ・非対面型授業方法についての研修会Part3（2020年4月17日開催）
教員 56名の出席
- ・非対面型授業方法についての研修会Part4（2020年4月21日開催）
（出席者の確認なし）
- ・非対面型授業に関するFD研修会（2020年8月24日開催）
教員 64名の出席
- ・後期授業実施に向けたFD研修会（2020年9月15日開催）
教員 56名の出席
- ・非対面型授業基礎研修（2020年9月15日開催）
教員 5名の出席
- ・教学マネジメント指針に関するFD研修会（2020年10月22日開催）
教員 8名の出席（教務部関連教員のみFD）
- ・AI・データサイエンス教育に関するFD研修会（2020年10月22日開催）
教員 18名の出席
- ・2021年度シラバスおよびCoursePowerに関するFD研修会（2020年11月25日開催）
教員 59名の出席
- ・著作権、授業目的公衆送信補償金に関するFD研修会（2021年2月25日開催）
教員 78名の出席
- ・学生支援体制構築にむけて支援のあり方を考えるFD研修会（2021年2月25日開催）
教員 66名の出席
- ・2021年度授業担当者FD研修会（2021年3月10日開催）
教員 84名の出席
- ・LGDBQ+に関する理解および支援の在り方を考えるFD研修会（2021年3月12日開催）
教員 72名の出席

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

「該当なし」

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）
- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
- c 委員会の審議事項等
- d その他

② 審議状況

- a 審議した内容

- b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

- c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自己点検及び自己評価を行い、その結果を公表することを尚綱学院大学学則第2条に規定している。その実施方法や体制等については、「尚綱学院大学自己点検・評価委員会規程」に定められており、学長を委員長とし、大学の自己点検・評価とともに2年毎に実施している。自己点検・評価の項目は、日本高等教育評価機構の定める基準と大学の使命・目的に基づいて独自に設定した基準により評価している。

＜日本高等教育評価機構が定める基準＞

- 基準1 使命・目的等
- 基準2 学修と教授
- 基準3 経営・管理と財務
- 基準4 自己点検・評価

＜大学の使命・目的に基づいて独自に設定した基準＞

- 基準A 研究活動
- 基準B 地域貢献・国際交流

これらの基準に関して、エビデンスにもとづいた自己点検・評価を実現するために、2016年4月からIR委員会（2019年度からIR推進部門専門委員会に名称変更）を設置し、基本データや学生アンケートなど現状把握に必要なデータをFACT BOOKに集約し、各種の改善に努めている。その結果は自己点検・評価報告書にまとめ、大学のウェブサイトに掲載している。

大学機関別認証評価では、2017（平成29）年度に財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受け、2018（平成30）年3月7日付けで、「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしている」と認定された。

この他、自己点検・評価活動の客観性を保ち、教育研究水準の向上を図るため、他大学の教員、産業界、自治体関係者等の有識者による外部評価委員会を設置し、自己点検・評価報告書をもとに評価をもらい、その意見を改善活動に反映させている。

2019年度から管理運営体制が変更となり、「自己点検・評価委員会」から「内部質保証委員会」に変更となりこれまでの基準等の見直しを図りながらあらためて進めて行く予定である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

時期 未定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・未定

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和3年 6月 30日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人尚絅学院

(2) 大学名

尚絅学院大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒981-1295

宮城県名取市ゆりが丘四丁目10番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ササキコウメイ) 佐々木 公明 (平成27年9月)		
学長	(ゴウダタカフミ) 合田 隆史 (平成26年4月)		
学群長	(マツモト(タニ)マナミ) 松本(谷)真奈美 (平成31年4月)		
学類長	(マツモト(タニ)マナミ) 松本(谷)真奈美 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
 (例) 令和2年度に報告する内容 → (2)
 令和3年度に報告する内容 → (3)
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
心理・教育学群 学校教育学類 学士(教育学)	教育学・保育学関係	4年	40人	3年次 年次 人	2人	164人

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和元年		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	40 (-) [0]	— () []	40 (-) [0]	— () []	40 (2) [0]	— () []	— () []	— () []	1.2倍	— 倍	留学生の入学定員はいつれの年も「若干名」
志願者数	173 (-) [0]	— () []	205 (-) [0]	— () []	206 (-) [0]	— () []	— () []	— () []			
受験者数	173 (-) [0]	— () []	201 (-) [0]	— () []	202 (-) [0]	— () []	— () []	— () []			
合格者数	155 (-) [0]	— () []	172 (-) [0]	— () []	102 (-) [0]	— () []	— () []	— () []			
B 入学者数	52 (-) [0]	— () []	46 (-) [0]	— () []	46 (-) [0]	— () []	— () []	— () []			
入学定員超過率 B/A	1.30		1.15		1.15						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年		令和2年度		令和3年度		令和4年度				備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	52 [0] (-)	— [] ()	46 [0] (-)	[] ()	46 [0] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		52 [0] (-)	[] ()	46 [0] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次			/		/		49 [0] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
4年次	/						/		/		[] ()
計			52 [0] (-)	98 [0] (-)	141 [0] (-)	[] ()					[] ()

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	52 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	98 人	2 人	令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	2 人	0 人	
令和3年度	141 人	0 人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
合計		2 人		人	人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{52} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{98} = \boxed{2.04} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{141} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

＜心理・教育学群 学校教育学類＞

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

Table for the approved or notified curriculum. It lists subjects, units, and faculty across various disciplines like Christianity, Japanese Culture, International Studies, etc.

【令和3年度】

Table for the 2021 (Reiwa 3) curriculum. It lists subjects, units, and faculty for that specific year, showing adjustments compared to the approved version.

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 発展 科目	子どもの自然環境教育	1前		2							1	
	児童文学論	1前		2		1						
	児童英語	4前		2		1						
	オーケストラ（総合音楽）	1通		2							1	
	放課後の児童の保護と教育	4前		2							1	
	子どもの人権と教育	2前		2							1	
	世界の子ども	4前		2							1	
	臨床心理学	4前		2							1	
	児童家庭福祉	1後		1							1	
	社会的養護	2前		2							1	
小計(10科目)	—	0	19	0	3	0	0	0	0	7		
総合 科目	学校教育学入門	3前	2			6	3	1			3	
	学校教育学演習	3後	2			6	3	1			3	
	卒業研究	4通	4			6	3	1			3	
	小計(3科目)	—	8	0	0	6	3	1	0	0	3	
合計（189科目）			—	29	328	0	10	4	1	1	0	84
卒業要件及び履修方法												
教養教育科目33単位以上、専門教育科目84単位以上、合計124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:50単位(年間))												

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	学校インターンシップ（小）	4通		2		1	1					
	教職実践演習（小・中）	4後		2		2	1					
小計(12科目)			—	3	19	0	4	1	1	0	0	
専門 発展 科目	子どもの自然環境教育	1前		2							1	
	児童文学論	1前		2		1						
	児童英語	4前		2		1						
	オーケストラ（総合音楽）	1通		2							1	
	放課後の児童の保護と教育	4前		2							1	
	子どもの人権と教育	2前		2							1	
	世界の子ども	4前		2							1	
	臨床心理学	4前		2							1	
	児童家庭福祉	1後		1							1	
	社会的養護	2前		2							1	
小計(10科目)	—	0	19	0	3	0	0	0	0	7		
総合 科目	学校教育学入門	3前	2			6	3	1			3	
	学校教育学演習	3後	2			6	3	1			3	
	卒業研究	4通	4			6	3	1			3	
	小計(3科目)	—	8	0	0	6	3	1	0	0	3	
合計（198科目）			—	33	340	0	10	4	1	1	0	85
卒業要件及び履修方法												
教養教育科目33単位以上、専門教育科目85単位以上、合計124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:50単位(年間))												

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	オーケストラ (総合音楽)	1通		2							1	
	放課後の児童の保護と教育	4前		2							1	
	子どもの人権と教育	2前		2							1	
	世界の子ども	4前		2							1	
	臨床心理学	4前		2							1	
	児童家庭福祉	1後		1							1	
	社会的養護	2前		2							1	
	小計(10科目)	—	0	19	0	3	0	0	0	0	7	
	総合科目	学校教育学入門	3前	2			6	3	1			3
		学校教育学演習	3後	2			6	3	1			3
卒業研究		4通	4			6	3	1			3	
小計(3科目)		—	8	0	0	6	3	1	0	0	3	
合計 (197目)		—	30	340	0	10	4	1	1	0	85	
卒業要件及び履修方法												
教養教育科目33単位以上、専門教育科目85単位以上、合計124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:50単位(年間))												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	子どもの人権と教育	2前		2							1	
	世界の子ども	4前		2							1	
	臨床心理学	4前		2							1	
	児童家庭福祉	1後		1							1	
	社会的養護	2前		2							1	
	小計(10科目)	—	0	19	0	3	0	0	0	0	7	
	総合科目	学校教育学入門	3前	2			6	3	1			3
		学校教育学演習	3後	2			6	3	1			3
		卒業研究	4通	4			6	3	1			3
		小計(3科目)	—	8	0	0	6	3	1	0	0	3
合計 (196科目)		—	29	340	0	10	4	1	1	0	84	
卒業要件及び履修方法												
教養教育科目33単位以上、専門教育科目85単位以上、合計124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:50単位(年間))												

(1) ①授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

<p>教養教育科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目の内容により、「現代の倫理」の配当年次を「1後」から「2後」に変更。 ・教育課程充実のため新規科目追加 科目名 「メディアリテラシー」 「1前」1単位 ・「健康スポーツⅡ（講義・実技）」についてCAP制等の理由で1年次の履修が厳しいため配当年次変更。 「1後」→「2後」 <p>専門教育科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理・教育学群学校教育学類は、小学校の教員免許を基本に中学校（国語）、中学校（保健体育）、特別支援学校の教員免許を取得するための学類として設置した。しかし、教職課程認定申請において、国語と保健体育の設置している科目数が不足しているとの指摘を受け、下記の科目を追加した。 ・国文学特論 (専任 教授担当) ・漢文学Ⅲ（歴史） (専任 教授担当) ・書道Ⅰ (兼任 講師担当) ・書道Ⅱ (兼任 講師担当) ・スポーツ方法学Ⅰ (専任 教授、准教授担当) ・スポーツ方法学Ⅱ (専任 教授、准教授担当) ・地域スポーツ論 (専任 准教授担当) ・コンディショニング方法演習 (兼任 講師担当) ・人体の構造と機能及び疾病 (兼任 教授担当)

【令和2年度】

<p>教養教育科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教養課程充実のため新規科目開設 科目名 「AI社会とデータサイエンス」 ・コロナ感染症拡大対策の為に「国際交流演習」、「インターンシップ」、「海外インターンシップ」を非開講。 <p>専門教育科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「体づくり運動」「スポーツ方法C（バドミントン・卓球）」「スポーツ方法B（サッカー・ソフトテニス）」「スポーツ方法E（器械運動・ダンス）」「コミュニティスポーツ演習」については実技系の科目の為、今年度は非開講とした。

【令和3年度】

<p>教育実践科目</p> <p>教師のICT活用指導力改善及び充実のため「ICT活用教育実践」の科目を新設した。</p>

【令和4年度】

Empty box for R4 content

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
16 科目	173 科目	科目	189 科目	18 科目 [2]	180 科目 [7]	科目 []	198 科目 [9]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	国際交流演習	2	1	一般	選択	コロナ感染症拡大による影響の為
2	海外インターンシップ	2	2	一般	選択	コロナ感染症拡大による影響の為
3	現代の倫理	2	2	一般	選択	担当教員が研究専念制度取得の為
4	世界の宗教と文化	2	2	一般	選択	担当教員が研究専念制度取得の為

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

コロナ感染症拡大による影響の為、本年度は非開講という判断を行い、学生には、オリエンテーション及び履修登録時点で周知した。
担当教員が研究専念制度を取得の為、教養教育科目2科目が今年度非開講となった。学生には、オリエンテーション及び履修登録時点で周知をした。次年度は開講予定である。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{4}{198} = \boxed{2.02} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 部室棟の解体により 「校舎敷地面積」が減 少、「その他」面積が 増加「(2)」		
	校舎敷地	96,173㎡ 96,422㎡	㎡	㎡	96,173㎡ 96,422㎡			
	運動場用地	42,453㎡	㎡	㎡	42,453㎡			
	小 計	138,626㎡ 138,875㎡	㎡	㎡	138,626㎡ 138,875㎡			
	そ の 他	154,761㎡ 154,512㎡	㎡	㎡	154,761㎡ 154,512㎡			
	合 計	293,387㎡	㎡	㎡	293,387㎡			
(2) 校舎	専 用	25,312㎡ 27,717㎡ (25,312 ㎡)	-㎡	㎡	25,312㎡ 27,717㎡ (25,312 ㎡)	大学全体 体育館面積を除外した ため(修正) 「(2)」		
	共 用	(- ㎡)	(- ㎡)	(㎡)	(㎡)			
(3) 教室等	講義室	24室 22室	演習室	15室 17室	実験実習室	45室 46室	使用目的変更による 「(2)」	
	情報処理学習施設	4室 (補助職員 3人)	語学学習施設	2室 (補助職員 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	心理・教育学群学校教育学類			12 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル				
		冊	種	[うち外国書]				
		冊	種	点				
心理・教育学群 学校教育学類	20,533 [728]	152 [19]	429 [429]	228	0	0		
	22,477 [718]	150 [19]	1 [1]	220	(0)	(0)		
	20,529 [718]	152 [19]	429 [429]	(208)				
	(20,594 [706])	150 [19]	1 [1]	(187)				
計	20,533 [728]	152 [19]	429 [429]	228	0	0		
	22,477 [718]	150 [19]	1 [1]	220	(0)	(0)		
	20,529 [718]	152 [19]	429 [429]	(208)				
	(20,594 [706])	150 [19]	1 [1]	(187)				
(6) 図書館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 数値誤記入「(2)」	
	2,338㎡ 2,331㎡		231		200,000			
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体 第二体育館増設	
	2,966㎡ 2,339㎡		テニスコート(4面)		複合グラウンド、トレーニング棟			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	350千円	350千円	図書購入費	100千円	100千円	100千円
		共同研究費等	3,600千円	3,600千円	設備購入費	1,200千円	1,600千円	1,610千円
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,260千円	1,020千円	1,005千円	1,005千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		補助金収入、寄付金収入、手数料収入						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	尚綱学院大学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の学 科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
総合人間科学部										
表現文化学科	4	—	3年次 10	—	学士 (表現文化)	—	—	平成19		
人間心理学科	4	—	3年次 10	—	学士 (心理学)	—	—	平成15		
子ども学科	4	—	3年次 10	—	学士 (教育学)	—	—	平成22		
現代社会学科	4	—	3年次 10	—	学士 (社会学)	—	—	平成19		
環境構想学科	4	—	3年次 10	—	学士 (環境構想)	—	—	平成27		
健康栄養学科	4	—	—	—	学士 (栄養学)	—	—	平成15		
<u>人文社会学群</u>										
人文社会学類	4	200	3年次 4	808	学士 (人文社会学)	1.13	—	平成31年		
<u>心理・教育学群</u>										
心理学類	4	60	3年次 2	244	学士 (心理学)	1.25	—	平成31年	宮城県名取市 ゆりが丘四丁目 10番1号	
子ども学類	4	80	3年次 2	324	学士 (教育学)	0.98	—	平成31年		
学校教育学類	4	40	3年次 2	164	学士 (教育学)	1.20	—	平成31年		
<u>健康栄養学群</u>										
健康栄養学類	4	80	—	320	学士 (栄養学)	1.11	—	平成31年		
総合人間科学研究科										
心理学専攻	2	6	—	12	修士 (心理学)	1.33	—	平成19年		
人間学専攻	2	6	—	12	修士 (学術)	0.08	—	平成29年		
健康栄養科学専攻	2	6	—	12	修士 (栄養学)	0	—	平成19年		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<心理・教育学群 学校教育学類>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	田中 和夫 (72) <平成31年4月> 博士(文学)
		漢文学概論 漢文学Ⅰ(文学) 漢文学Ⅱ(思想) 漢文学Ⅲ(歴史) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	教授	見上 一幸 (72) <平成31年4月> 博士(文学)
		理科 生活 生活科教育法
専	教授	天間 環 (69) <平成31年4月> 教育学修士
		教育課程論(小・中) ※ 道徳教育の理論と方法(小・中) 算数 算数科教育法 教育実習指導(小) 教育実習(小) A 教育実習(小) B 教育実習指導(中) 教育実習(中) A 教育実習(中) B 教育実習(中) B 学校インターンシップ(小) 教職実践演習(小・中) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	教授	板垣 信哉 (67) <平成31年4月> Ph.D 心理言語学(カナダ)
		英語リーディングⅠ 英語リーディングⅡ 英語コミュニケーションⅠ 外国語 外国語の指導法 児童英語
専	教授	小池 敏英 (65) <平成31年4月> 教育学博士
		心理・教育学概論 ※ 知的障害者の心理・生理・病理 肢体不自由者の心理・生理・病理 病弱者の心理・生理・病理 肢体不自由教育論Ⅰ 基礎実習(小中支援学校・実践研修) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	教授	田村 嘉勝 (67) <平成31年4月> 修士(文学)
		日本語表現法 国語 国語科教育法 国文学概論 国文学講義Ⅱ(近現代) 国文学演習Ⅱ(近現代) 国文学史Ⅱ(近現代) 近現代詩演習 国文学研究法 国語科教育法Ⅰ 国語科教育法Ⅱ 国語科教育法Ⅲ 国語科教育法Ⅳ 児童文学論 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	教授	小田嶋 充 (62) <平成31年4月> 体育学士
		基礎演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基礎演習Ⅱ(ライティングを含む) ウェルネス科学論 健康・スポーツⅠ(講義・実技) 健康・スポーツⅡ(講義・実技) 健康・スポーツⅢ(講義・実技) 心理・教育学概論 ※ スポーツ方法A(陸上競技・ソフトボール) スポーツ方法G(水泳) スポーツ方法H(スキー) スポーツ方法I(スキー) スポーツ方法学Ⅰ ※ スポーツ方法学Ⅱ ※ 生涯スポーツ論 スポーツ方法演習 ※ コミュニティスポーツ演習 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	教授	佐藤 佳彦 (60) <平成31年4月> 教育学士
		社会 社会科教育法

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	田中 和夫 (72) <平成31年4月> 博士(文学)
		漢文学概論 漢文学Ⅰ(文学) 漢文学Ⅱ(思想) 漢文学Ⅲ(歴史) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	教授	見上 一幸 (72) <平成31年4月> 博士(文学)
		理科 生活 生活科教育法
専	教授	天間 環 (69) <平成31年4月> 教育学修士
		教育課程論(小・中) ※ 道徳教育の理論と方法(小・中) 算数 算数科教育法 教育実習指導(小) 教育実習(小) A 教育実習(小) B 教育実習指導(中) 教育実習(中) A 教育実習(中) B 教育実習(中) B 学校インターンシップ(小) 教職実践演習(小・中) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	教授	板垣 信哉 (67) <平成31年4月> Ph.D 心理言語学(カナダ)
		英語リーディングⅠ 英語リーディングⅡ 英語コミュニケーションⅠ 外国語 外国語の指導法 児童英語
専	教授	小池 敏英 (65) <平成31年4月> 教育学博士
		心理・教育学概論 ※ 知的障害者の心理・生理・病理 肢体不自由者の心理・生理・病理 病弱者の心理・生理・病理 肢体不自由教育論Ⅰ 基礎実習(小中支援学校・実践研修) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	教授	田村 嘉勝 (67) <平成31年4月> 修士(文学)
		日本語表現法 国語 国語科教育法 国文学概論 国文学講義Ⅱ(近現代) 国文学演習Ⅱ(近現代) 国文学史Ⅱ(近現代) 近現代詩演習 国文学研究法 国語科教育法Ⅰ 国語科教育法Ⅱ 国語科教育法Ⅲ 国語科教育法Ⅳ 児童文学論 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	教授	小田嶋 充 (62) <平成31年4月> 体育学士
		基礎演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基礎演習Ⅱ(ライティングを含む) ウェルネス科学論 健康・スポーツⅠ(講義・実技) 健康・スポーツⅡ(講義・実技) 健康・スポーツⅢ(講義・実技) 心理・教育学概論 ※ スポーツ方法A(陸上競技・ソフトボール) スポーツ方法G(水泳) スポーツ方法H(スキー) スポーツ方法I(スキー) スポーツ方法学Ⅰ ※ スポーツ方法学Ⅱ ※ 生涯スポーツ論 スポーツ方法演習 ※ コミュニティスポーツ演習 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	教授	佐藤 佳彦 (60) <平成31年4月> 教育学士
		社会 社会科教育法

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	田中 和夫 (73) <平成31年4月> 博士(文学)
		漢文学概論 漢文学Ⅰ(文学) 漢文学Ⅱ(思想) 漢文学Ⅲ(歴史) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	教授	見上 一幸 (73) <平成31年4月> 博士(文学)
		理科 生活 生活科教育法
専	教授	天間 環 (70) <平成31年4月> 教育学修士
		教育課程論(小・中) ※ 道徳教育の理論と方法(小・中) 算数 算数科教育法 教育実習指導(小) 教育実習(小) A 教育実習(小) B 教育実習指導(中) 教育実習(中) A 教育実習(中) B 教育実習(中) B 学校インターンシップ(小) 教職実践演習(小・中) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	教授	板垣 信哉 (68) <平成31年4月> Ph.D 心理言語学(カナダ)
		英語リーディングⅠ 英語リーディングⅡ 英語コミュニケーションⅠ 外国語 外国語の指導法 児童英語
専	教授	小池 敏英 (66) <平成31年4月> 教育学博士
		心理・教育学概論 ※ 知的障害者の心理・生理・病理 肢体不自由者の心理・生理・病理 病弱者の心理・生理・病理 肢体不自由教育論Ⅰ 基礎実習(小中支援学校・実践研修) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	教授	田村 嘉勝 (68) <平成31年4月> 修士(文学)
		日本語表現法 国語 国語科教育法 国文学概論 国文学講義Ⅱ(近現代) 国文学演習Ⅱ(近現代) 国文学史Ⅱ(近現代) 近現代詩演習 国文学研究法 国語科教育法Ⅰ 国語科教育法Ⅱ 国語科教育法Ⅲ 国語科教育法Ⅳ 児童文学論 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	教授	小田嶋 充 (63) <平成31年4月> 体育学士
		基礎演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基礎演習Ⅱ(ライティングを含む) ウェルネス科学論 健康・スポーツⅠ(講義・実技) 健康・スポーツⅡ(講義・実技) 健康・スポーツⅢ(講義・実技) 心理・教育学概論 ※ スポーツ方法A(陸上競技・ソフトボール) スポーツ方法G(水泳) スポーツ方法H(スキー) スポーツ方法I(スキー) スポーツ方法学Ⅰ ※ スポーツ方法学Ⅱ ※ 生涯スポーツ論 スポーツ方法演習 ※ コミュニティスポーツ演習 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	教授	佐藤 佳彦 (61) <平成31年4月> 教育学士
		社会 社会科教育法

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	田中 和夫 (74) <平成31年4月> 博士(文学)
		漢文学概論 漢文学Ⅰ(文学) 漢文学Ⅱ(思想) 漢文学Ⅲ(歴史) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	教授	見上 一幸 (74) <平成31年4月> 博士(文学)
		理科 生活 生活科教育法
専	教授	天間 環 (71) <平成31年4月> 教育学修士
		教育課程論(小・中) ※ 道徳教育の理論と方法(小・中) 算数 算数科教育法 教育実習指導(小) 教育実習(小) A 教育実習(小) B 教育実習指導(中) 教育実習(中) A 教育実習(中) B 教育実習(中) B 学校インターンシップ(小) 教職実践演習(小・中) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	教授	板垣 信哉 (69) <平成31年4月> Ph.D 心理言語学(カナダ)
		英語リーディングⅠ 英語リーディングⅡ 英語コミュニケーションⅠ 外国語 外国語の指導法 児童英語
専	教授	小池 敏英 (67) <平成31年4月> 教育学博士
		心理・教育学概論 ※ 知的障害者の心理・生理・病理 肢体不自由者の心理・生理・病理 病弱者の心理・生理・病理 肢体不自由教育論Ⅰ 基礎実習(小中支援学校・実践研修) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	教授	田村 嘉勝 (69) <平成31年4月> 修士(文学)
		日本語表現法 国語 国語科教育法 国文学概論 国文学講義Ⅱ(近現代) 国文学演習Ⅱ(近現代) 国文学史Ⅱ(近現代) 近現代詩演習 国文学研究法 国語科教育法Ⅰ 国語科教育法Ⅱ 国語科教育法Ⅲ 国語科教育法Ⅳ 児童文学論 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	教授	小田嶋 充 (64) <平成31年4月> 体育学士
		基礎演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基礎演習Ⅱ(ライティングを含む) ウェルネス科学論 健康・スポーツⅠ(講義・実技) 健康・スポーツⅡ(講義・実技) 健康・スポーツⅢ(講義・実技) 心理・教育学概論 ※ スポーツ方法A(陸上競技・ソフトボール) スポーツ方法G(水泳) スポーツ方法H(スキー) スポーツ方法I(スキー) スポーツ方法学Ⅰ ※ スポーツ方法学Ⅱ ※ 生涯スポーツ論 スポーツ方法演習 ※ コミュニティスポーツ演習 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	教授	佐藤 佳彦 (62) <平成31年4月> 教育学士
		社会 社会科教育法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	三好 敏之 (59) <平成31年4月> 教育学修士	心理・教育学概論 ※ 肢体不自由教育論
専	教授	松本(谷) 真奈美 (54) <平成31年4月> 博士(文学)	日本の言語文化 基礎演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基礎演習Ⅱ(ライティングを含む) 心理・教育学概論 ※ 国文学講読Ⅰ(古典) 国文学演習Ⅰ(古典) 国文学史Ⅰ(古典) 基礎実習(小中支援学校・実践研修) 教職実践演習(小・中) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	准教授	福井 真司 (51) <平成31年4月> 博士(医学)	基礎演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基礎演習Ⅱ(ライティングを含む) 健康・スポーツⅠ(講義・実技) 健康・スポーツⅡ(講義・実技) 心理・教育学概論 ※ スポーツ方法Ⅰ(サッカー・ソフトテニス) スポーツ方法Ⅱ ※ スポーツ生理学 ※ スポーツ方法演習 ※ 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	准教授	相馬 亮 (43) <平成31年4月> 修士(教育学)	芸術論 基礎演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基礎演習Ⅱ(ライティングを含む) 心理・教育学概論 ※ 図画工作 図画工作科教育法 基礎実習(小中支援学校・実践研修) 教育実習指導(小) 教育実習指導(中) 教育実習(小) A 教育実習(小) B 教育実習(中) A 教育実習(中) B 学校インターンシップ(小) 教職実践演習(小・中) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	准教授	土田 定克 (43) <平成31年4月> コンサートピアニスト修士(ロシア)	基礎演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基礎演習Ⅱ(ライティングを含む) 音楽Ⅰ 音楽Ⅱ ピアノ伴奏法 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	准教授	金井 徹 (38) <平成31年4月> 修士(教育学)	教育原理(小・中) 教職概論(小・中) 教育制度(小・中) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	講師	佐々木健太郎 (35) <平成31年4月> 修士(教育学)	知的障害者教育論Ⅰ 知的障害者教育論Ⅱ LD等教育総論 教育実習指導(特支) 教育実習(特支)
専	助教	能田 昂 (26) <平成31年4月> 修士(教育学)	特別支援教育総論 病弱教育論
兼任	教授	東 義也 (57) <平成31年4月> 教育学修士	尚綱学 多世代交流論 ※
兼任	教授	佐藤 淳一 (59) <平成31年4月> 芸術学修士	音楽と表現 心理・教育学概論 ※ 合唱 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	三好 敏之 (60) <平成31年4月> 教育学修士	心理・教育学概論 ※ 肢体不自由教育論
専	教授	松本(谷) 真奈美 (54) <平成31年4月> 博士(文学)	日本の言語文化 基礎演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基礎演習Ⅱ(ライティングを含む) 心理・教育学概論 ※ 国文学講読Ⅰ(古典) 国文学特論 国文学演習Ⅰ(古典) 国文学史Ⅰ(古典) 基礎実習(小中支援学校・実践研修) 教職実践演習(小・中) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	准教授	福井 真司 (51) <平成31年4月> 博士(医学)	基礎演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基礎演習Ⅱ(ライティングを含む) 健康・スポーツⅠ(講義・実技) 健康・スポーツⅡ(講義・実技) 心理・教育学概論 ※ スポーツ方法Ⅰ(サッカー・ソフトテニス) スポーツ方法Ⅱ ※ スポーツ生理学 ※ スポーツ方法演習 ※ 地域スポーツ論 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	准教授	相馬 亮 (43) <平成31年4月> 修士(教育学)	芸術論 基礎演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基礎演習Ⅱ(ライティングを含む) 心理・教育学概論 ※ 図画工作 図画工作科教育法 基礎実習(小中支援学校・実践研修) 教育実習指導(小) 教育実習指導(中) 教育実習(小) A 教育実習(小) B 教育実習(中) A 教育実習(中) B 学校インターンシップ(小) 教職実践演習(小・中) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	准教授	土田 定克 (44) <平成31年4月> コンサートピアニスト修士(ロシア)	基礎演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基礎演習Ⅱ(ライティングを含む) 音楽Ⅰ 音楽Ⅱ ピアノ伴奏法 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	准教授	金井 徹 (38) <平成31年4月> 修士(教育学)	教育原理(小・中) 教職概論(小・中) 教育制度(小・中) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	講師	佐々木健太郎 (35) <平成31年4月> 修士(教育学)	知的障害者教育論Ⅰ 知的障害者教育論Ⅱ LD等教育総論 教育実習指導(特支) 教育実習(特支)
専	助教	能田 昂 (26) <平成31年4月> 修士(教育学)	特別支援教育総論 病弱教育論
兼任	教授	布木 和夫 (68) <平成31年4月> 医学博士	人体の構造と機能及び疾病
兼任	教授	東 義也 (57) <平成31年4月> 教育学修士	尚綱学 多世代交流論 ※
兼任	教授	佐藤 淳一 (59) <平成31年4月> 芸術学修士	音楽と表現 心理・教育学概論 ※ 合唱 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	三好 敏之 (61) <平成31年4月> 教育学修士	心理・教育学概論 ※ 肢体不自由教育論
専	教授	松本(谷) 真奈美 (55) <平成31年4月> 博士(文学)	日本の言語文化 基礎演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基礎演習Ⅱ(ライティングを含む) 心理・教育学概論 ※ 国文学講読Ⅰ(古典) 国文学特論 国文学演習Ⅰ(古典) 国文学史Ⅰ(古典) 基礎実習(小中支援学校・実践研修) 教職実践演習(小・中) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	准教授	福井 真司 (52) <平成31年4月> 博士(医学)	基礎演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基礎演習Ⅱ(ライティングを含む) 健康・スポーツⅠ(講義・実技) 健康・スポーツⅡ(講義・実技) 心理・教育学概論 ※ スポーツ方法Ⅰ(サッカー・ソフトテニス) スポーツ方法Ⅱ ※ スポーツ生理学 ※ スポーツ方法演習 ※ 地域スポーツ論 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	准教授	相馬 亮 (44) <平成31年4月> 修士(教育学)	芸術論 基礎演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基礎演習Ⅱ(ライティングを含む) 心理・教育学概論 ※ 図画工作 図画工作科教育法 基礎実習(小中支援学校・実践研修) 教育実習指導(小) 教育実習指導(中) 教育実習(小) A 教育実習(小) B 教育実習(中) A 教育実習(中) B 学校インターンシップ(小) 教職実践演習(小・中) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	准教授	土田 定克 (44) <平成31年4月> コンサートピアニスト修士(ロシア)	基礎演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基礎演習Ⅱ(ライティングを含む) 音楽Ⅰ 音楽Ⅱ ピアノ伴奏法 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	准教授	金井 徹 (39) <平成31年4月> 修士(教育学)	教育原理(小・中) 教職概論(小・中) 教育制度(小・中) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	講師	佐々木健太郎 (36) <平成31年4月> 修士(教育学)	知的障害者教育論Ⅰ 知的障害者教育論Ⅱ LD等教育総論 教育実習指導(特支) 教育実習(特支)
専	助教	能田 昂 (27) <平成31年4月> 修士(教育学)	特別支援教育総論 病弱教育論
兼任	教授	布木 和夫 (69) <平成31年4月> 医学博士	人体の構造と機能及び疾病
兼任	教授	東 義也 (58) <平成31年4月> 教育学修士	尚綱学 多世代交流論 ※
兼任	教授	佐藤 淳一 (60) <平成31年4月> 芸術学修士	音楽と表現 心理・教育学概論 ※ 合唱 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	三好 敏之 (62) <平成31年4月> 教育学修士	心理・教育学概論 ※ 肢体不自由教育論Ⅱ
専	教授	松本(谷) 真奈美 (56) <平成31年4月> 博士(文学)	日本の言語文化 基礎演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基礎演習Ⅱ(ライティングを含む) 心理・教育学概論 ※ 国文学講読Ⅰ(古典) 国文学特論 国文学演習Ⅰ(古典) 国文学史Ⅰ(古典) 基礎実習(小中支援学校・実践研修) 教職実践演習(小・中) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	准教授	福井 真司 (53) <平成31年4月> 博士(医学)	基礎演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基礎演習Ⅱ(ライティングを含む) 健康・スポーツⅠ(講義・実技) 健康・スポーツⅡ(講義・実技) 心理・教育学概論 ※ スポーツ方法Ⅰ(サッカー・ソフトテニス) スポーツ方法Ⅱ ※ スポーツ生理学 ※ スポーツ方法演習 ※ 地域スポーツ論 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	准教授	相馬 亮 (45) <平成31年4月> 修士(教育学)	芸術論 基礎演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基礎演習Ⅱ(ライティングを含む) 心理・教育学概論 ※ 図画工作 図画工作科教育法 基礎実習(小中支援学校・実践研修) 教育実習指導(小) 教育実習指導(中) 教育実習(小) A 教育実習(小) B 教育実習(中) A 教育実習(中) B 学校インターンシップ(小) 教職実践演習(小・中) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	教授	土田 定克 (45) <平成31年4月> コンサートピアニスト修士(ロシア)	基礎演習Ⅰ(情報リテラシーを含む) 基礎演習Ⅱ(ライティングを含む) 音楽Ⅰ 音楽Ⅱ ピアノ伴奏法 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	准教授	金井 徹 (40) <平成31年4月> 修士(教育学)	教育原理(小・中) 教職概論(小・中) 教育制度(小・中) 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
専	講師	佐々木健太郎 (37) <平成31年4月> 修士(教育学)	知的障害者教育論Ⅰ 知的障害者教育論Ⅱ LD等教育総論 教育実習指導(特支) 教育実習(特支)
専	助教	能田 昂 (28) <平成31年4月> 修士(教育学)	特別支援教育総論 病弱教育論
兼任	教授	布木 和夫 (70) <平成31年4月> 医学博士	人体の構造と機能及び疾病
兼任	教授	東 義也 (59) <平成31年4月> 教育学修士	尚綱学 多世代交流論 ※
兼任	教授	佐藤 淳一 (61) <平成31年4月> 芸術学修士	音楽と表現 心理・教育学概論 ※ 合唱 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	箭内 任 (55) <平成31年4月> 博士(情報科学)	哲学
兼任	教授	上村 静 (53) <平成31年4月> Doctor of Philosophy(イスラエル)	現代の倫理 世界の宗教と文化
兼任	教授	森田 明彦 (60) <平成31年4月> 博士(学術)	国際社会論 人権論
兼任	教授	千葉 正樹 (62) <平成31年4月> 博士(国際文化)	日本とアジアの歴史 地域文化論
兼任	教授	栗原(菊池) 由紀子 (46) <平成31年4月> 修士(法学)	法学概論(日本国憲法)
兼任	教授	内田 龍史 (42) <平成31年4月> 博士(文学)	共生社会論
兼任	教授	高橋 真 (62) <平成31年4月> 経済学博士	経済学
兼任	教授	杉座 秀親 (67) <平成31年4月> 文学修士	社会学入門
兼任	教授	行場 治朗 (65) <平成31年4月> 文学(博士)	心の科学
兼任	教授	久慈 るみ子 (62) <平成31年4月> 家政学修士	生活環境論
兼任	教授	中村 健一 (63) <平成31年4月> 教養学士	実践英語A(英語で学ぶ文化) 実践英語C(資格試験)
兼任	教授	木村 清 (63) <平成31年4月> 工学修士	情報処理演習 情報倫理 チャレンジポートフォリオI チャレンジポートフォリオII チャレンジポートフォリオIII
兼任	教授	松田 道雄 (58) <平成31年4月> 修士(教育学)	生涯学習論 多世代交流論 ※ 学校と地域連携(小・中)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	箭内 任 (55) <平成31年4月> 博士(情報科学)	哲学
兼任	教授	上村 静 (53) <平成31年4月> Doctor of Philosophy(イスラエル)	現代の倫理 世界の宗教と文化
兼任	教授	永澤 雄治 (57) <平成31年4月> 修士(国際文化)	国際社会論 人権論
兼任	教授	千葉 正樹 (62) <平成31年4月> 博士(国際文化)	日本とアジアの歴史 地域文化論
兼任	教授	栗原(菊池) 由紀子 (46) <平成31年4月> 修士(法学)	法学概論(日本国憲法)
兼任	准教授	高木 竜輔 (42) <平成31年4月> 修士(文学)	共生社会論
兼任	教授	高橋 真 (63) <平成31年4月> 経済学博士	経済学
兼任	教授	田中 重好 (67) <平成31年4月> 法学修士 博士(社会学)	社会学入門
兼任	教授	行場 治朗 (65) <平成31年4月> 文学(博士)	心の科学
兼任	教授	久慈 るみ子 (62) <平成31年4月> 家政学修士	生活環境論
兼任	教授	中村 健一 (63) <平成31年4月> 教養学士	実践英語A(英語で学ぶ文化) 実践英語C(資格試験)
兼任	教授	木村 清 (63) <平成31年4月> 工学修士	情報処理演習 情報倫理 チャレンジポートフォリオI チャレンジポートフォリオII チャレンジポートフォリオIII
兼任	教授	松田 道雄 (58) <平成31年4月> 修士(教育学)	生涯学習論 多世代交流論 ※ 学校と地域連携(小・中)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	箭内 任 (56) <平成31年4月> 博士(情報科学)	哲学
兼任	教授	上村 静 (54) <平成31年4月> Doctor of Philosophy(イスラエル)	現代の倫理 世界の宗教と文化
兼任	教授	永澤 雄治 (57) <平成31年4月> 修士(国際文化)	国際社会論 人権論
兼任	教授	千葉 正樹 (63) <平成31年4月> 博士(国際文化)	日本とアジアの歴史 地域文化論
兼任	教授	栗原(菊池) 由紀子 (47) <平成31年4月> 修士(法学)	法学概論(日本国憲法)
兼任	准教授	高木 竜輔 (43) <平成31年4月> 修士(文学)	共生社会論
兼任	教授	高橋 真 (64) <平成31年4月> 経済学博士	経済学
兼任	教授	田中 重好 (68) <平成31年4月> 法学修士 博士(社会学)	社会学入門
兼任	教授	行場 治朗 (66) <平成31年4月> 文学(博士)	心の科学
兼任	教授	久慈 るみ子 (63) <平成31年4月> 家政学修士	生活環境論
兼任	教授	中村 健一 (64) <平成31年4月> 教養学士	実践英語A(英語で学ぶ文化) 実践英語C(資格試験)
兼任	教授	木村 清 (64) <平成31年4月> 工学修士	情報処理演習 情報倫理 チャレンジポートフォリオI チャレンジポートフォリオII チャレンジポートフォリオIII
兼任	教授	松田 道雄 (59) <平成31年4月> 修士(教育学)	生涯学習論 多世代交流論 ※ 学校と地域連携(小・中)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	箭内 任 (57) <平成31年4月> 博士(情報科学)	哲学
兼任	教授	永澤 雄治 (58) <平成31年4月> 修士(国際文化)	国際社会論 人権論
兼任	教授	千葉 正樹 (64) <平成31年4月> 博士(国際文化)	日本とアジアの歴史 地域文化論
兼任	教授	栗原(菊池) 由紀子 (47) <平成31年4月> 修士(法学)	法学概論(日本国憲法)
兼任	教授	高橋 真 (65) <平成31年4月> 経済学博士	経済学
兼任	教授	田中 重好 (68) <平成31年4月> 法学修士 博士(社会学)	社会学入門
兼任	教授	行場 治朗 (67) <平成31年4月> 文学(博士)	心の科学
兼任	教授	久慈 るみ子 (64) <平成31年4月> 家政学修士	生活環境論
兼任	教授	中村 健一 (65) <平成31年4月> 教養学士	実践英語A(英語で学ぶ文化) 実践英語C(資格試験)
兼任	教授	長谷川 公一 (66) <令和2年4月> 博士(社会学)	共生社会論 社会学入門
兼任	教授	高橋 真 (65) <平成31年4月> 経済学博士	経済学
兼任	教授	田中 重好 (68) <平成31年4月> 法学修士 博士(社会学)	社会学入門
兼任	教授	行場 治朗 (67) <平成31年4月> 文学(博士)	心の科学
兼任	教授	久慈 るみ子 (64) <平成31年4月> 家政学修士	生活環境論
兼任	教授	中村 健一 (65) <平成31年4月> 教養学士	実践英語A(英語で学ぶ文化) 実践英語C(資格試験)
兼任	教授	松田 道雄 (60) <平成31年4月> 修士(教育学)	生涯学習論 多世代交流論 ※ 学校と地域連携(小・中)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	黄 梅英 (60) <平成31年4月> 博士(教育学)	キャリアデザインⅠ ※
兼任	教授	渡邊 千恵子 (55) <平成31年4月> 家政学修士	キャリアデザインⅠ ※ キャリアアップセミナー 家庭
兼任	教授	玉田 真紀 (59) <平成31年4月> 家政学修士	インターンシップ
兼任	教授	川端 壮康 (51) <平成31年4月> 修士(教育学)	心理・教育学概論 ※
兼任	教授	杉山 弘子 (62) <平成31年4月> 教育学修士	心理・教育学概論 ※
兼任	教授	水田 恵三 (61) <平成31年4月> 文学修士	多世代交流論 ※ 学校安全学(防犯と防災の心理学)
兼任	教授	目黒 恒夫 (64) <平成31年4月> 教育学修士	教育人間学
兼任	教授	小松 秀茂 (68) <平成31年4月> 教育学修士	教育心理学(小・中) 特別教育支援論(小・中)
兼任	教授	安田 勉 (67) <平成31年4月> 教育学修士	教育相談の理論と方法(小・中) 臨床心理学 社会的養護
兼任	教授	安藤 正樹 (60) <平成31年4月> 学士(教育学)	心理・教育学概論 ※ 体育 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
兼任	教授	秋月 高太郎 (55) <平成31年4月> 博士(情報科学)	言語論
兼任	准教授	今井 誠二 (58) <平成31年4月> 修士(文学)	日本近代史とキリスト教 海外インターンシップ
兼任	准教授	張 涛 (48) <平成31年4月> 博士(経済学)	キャリアアップセミナー
兼任	准教授	齊藤 敬 (47) <平成31年4月> 博士(工学)	生活と化学
兼任	准教授	設楽 レベッカ リン (61) <平成31年4月> Bachelor of Arts(米国)	英語コミュニケーションⅡ 実践英語B(英語プレゼンテーション)
兼任	准教授	内田 知宏 (36) <平成31年4月> 博士(教育学)	心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	池田 和浩 (39) <平成31年4月> 博士(教育学)	心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	小泉 嘉子 (45) <平成31年4月> 博士(教育学)	心理・教育学概論 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	黄 梅英 (60) <平成31年4月> 博士(教育学)	キャリアデザインⅠ ※
兼任	教授	渡邊 千恵子 (55) <平成31年4月> 家政学修士	キャリアデザインⅠ ※ キャリアアップセミナー 家庭
兼任	教授	玉田 真紀 (59) <平成31年4月> 家政学修士	インターンシップ
兼任	教授	川端 壮康 (51) <平成31年4月> 修士(教育学)	心理・教育学概論 ※
兼任	教授	杉山 弘子 (62) <平成31年4月> 教育学修士	心理・教育学概論 ※
兼任	教授	水田 恵三 (61) <平成31年4月> 文学修士	多世代交流論 ※ 学校安全学(防犯と防災の心理学)
兼任	教授	目黒 恒夫 (64) <平成31年4月> 教育学修士	教育人間学
兼任	教授	小松 秀茂 (68) <平成31年4月> 教育学修士	教育心理学(小・中) 特別教育支援論(小・中)
兼任	教授	安田 勉 (67) <平成31年4月> 教育学修士	教育相談の理論と方法(小・中) 臨床心理学 社会的養護
兼任	教授	安藤 正樹 (60) <平成31年4月> 学士(教育学)	心理・教育学概論 ※ 体育 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
兼任	教授	秋月 高太郎 (55) <平成31年4月> 博士(情報科学)	言語論
兼任	教授	今井 誠二 (59) <平成31年4月> 修士(文学)	日本近代史とキリスト教 海外インターンシップ
兼任	教授	張 涛 (48) <平成31年4月> 博士(経済学)	キャリアアップセミナー
兼任	教授	齊藤 敬 (47) <平成31年4月> 博士(工学)	生活と化学
兼任	准教授	設楽 レベッカ リン (61) <平成31年4月> Bachelor of Arts(米国)	英語コミュニケーションⅡ 実践英語B(英語プレゼンテーション)
兼任	准教授	内田 知宏 (36) <平成31年4月> 博士(教育学)	心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	池田 和浩 (39) <平成31年4月> 博士(教育学)	心理・教育学概論 ※
兼任	教授	小泉 嘉子 (46) <平成31年4月> 博士(教育学)	心理・教育学概論 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	黄 梅英 (61) <平成31年4月> 博士(教育学)	キャリアデザインⅠ ※
兼任	教授	渡邊 千恵子 (56) <平成31年4月> 家政学修士	キャリアデザインⅠ ※ キャリアアップセミナー 家庭
兼任	教授	玉田 真紀 (60) <平成31年4月> 家政学修士	インターンシップ
兼任	教授	川端 壮康 (52) <平成31年4月> 修士(教育学)	心理・教育学概論 ※
兼任	教授	杉山 弘子 (63) <平成31年4月> 教育学修士	心理・教育学概論 ※
兼任	教授	水田 恵三 (62) <平成31年4月> 文学修士	多世代交流論 ※ 学校安全学(防犯と防災の心理学)
兼任	教授	目黒 恒夫 (65) <平成31年4月> 教育学修士	教育人間学
兼任	教授	小松 秀茂 (69) <平成31年4月> 教育学修士	教育心理学(小・中) 特別教育支援論(小・中)
兼任	教授	安田 勉 (68) <平成31年4月> 教育学修士	教育相談の理論と方法(小・中) 臨床心理学 社会的養護
兼任	教授	安藤 正樹 (61) <平成31年4月> 学士(教育学)	心理・教育学概論 ※ 体育 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
兼任	教授	秋月 高太郎 (56) <平成31年4月> 博士(情報科学)	言語論
兼任	教授	今井 誠二 (60) <平成31年4月> 修士(文学)	日本近代史とキリスト教 海外インターンシップ
兼任	教授	張 涛 (49) <平成31年4月> 博士(経済学)	キャリアアップセミナー
兼任	教授	齊藤 敬 (48) <平成31年4月> 博士(工学)	生活と化学
兼任	准教授	設楽 レベッカ リン (62) <平成31年4月> Bachelor of Arts(米国)	英語コミュニケーションⅡ 実践英語B(英語プレゼンテーション)
兼任	准教授	内田 知宏 (37) <平成31年4月> 博士(教育学)	心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	池田 和浩 (40) <平成31年4月> 博士(教育学)	心理・教育学概論 ※
兼任	教授	小泉 嘉子 (47) <平成31年4月> 博士(教育学)	心理・教育学概論 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	黄 梅英 (62) <平成31年4月> 博士(教育学)	キャリアデザインⅠ ※
兼任	教授	渡邊 千恵子 (57) <平成31年4月> 家政学修士	キャリアデザインⅠ ※ キャリアアップセミナー 家庭
兼任	教授	玉田 真紀 (61) <平成31年4月> 家政学修士	インターンシップ キャリアアップセミナー
兼任	教授	川端 壮康 (53) <平成31年4月> 修士(教育学)	心理・教育学概論 ※
兼任	教授	水田 恵三 (63) <平成31年4月> 文学修士	多世代交流論 ※ 学校安全学(防犯と防災の心理学)
兼任	教授	目黒 恒夫 (66) <平成31年4月> 教育学修士	教育人間学
兼任	教授	小松 秀茂 (70) <平成31年4月> 教育学修士	教育心理学(小・中) 特別教育支援論(小・中)
兼任	教授	安田 勉 (69) <平成31年4月> 教育学修士	教育相談の理論と方法(小・中) 臨床心理学 社会的養護
兼任	教授	安藤 正樹 (62) <平成31年4月> 学士(教育学)	心理・教育学概論 ※ 体育 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
兼任	教授	秋月 高太郎 (57) <平成31年4月> 博士(情報科学)	言語論
兼任	教授	今井 誠二 (61) <平成31年4月> 修士(文学)	日本近代史とキリスト教 海外インターンシップ
兼任	教授	齊藤 敬 (49) <平成31年4月> 博士(工学)	生活と化学
兼任	准教授	設楽 レベッカ リン (63) <平成31年4月> Bachelor of Arts(米国)	英語コミュニケーションⅡ 実践英語B(英語プレゼンテーション)
兼任	准教授	内田 知宏 (38) <平成31年4月> 博士(教育学)	心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	池田 和浩 (41) <平成31年4月> 博士(教育学)	心理・教育学概論 ※
兼任	教授	小泉 嘉子 (48) <平成31年4月> 博士(教育学)	心理・教育学概論 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	前田 有秀 (46) <平成31年4月> 修士(福祉心理学)	心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	山崎 裕 (62) <平成31年4月> 博士(農学)	心理・教育学概論 ※ 理科教育法 子どもの自然環境教育 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
兼任	准教授	細矢 理奈 (43) <平成31年4月> 修士(栄養学)	スポーツ栄養学
兼任	准教授	呉 正培 (44) <平成31年4月> 博士(文学)	異文化理解
兼任	准教授	馬場(佐藤) たまき (45) <平成31年4月> 修士(教育学)	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 (小・中) ※
兼任	講師	Samuel Murchie (37) <平成31年4月> Master of Divinity(米国)	キリスト教概論 I キリスト教概論 II 国際交流演習 英語リスニング
兼任	講師	横井 涉央 (48) <平成31年4月> 博士(情報科学)	福祉社会論
兼任	講師	兎澤 聖 (42) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)	児童家庭福祉
兼任	講師	田所 義郎 (39) <平成31年4月> 修士(神学)	キリスト教概論 I キリスト教概論 II キリスト教演習
兼任	講師	畑 奈保美 (48) <平成31年4月> 博士(文学)	西洋の歴史
兼任	講師	酒井 宣昭 (39) <平成32年4月> 修士(文学)	地理学
兼任	講師	石澤 理如 (45) <平成31年4月> 修士(国際文化)	市民教育
兼任	講師	荒井 偉作 (50) <平成32年4月> 学士(教養) 学士(文学)	キリスト教と現代社会
兼任	講師	前田 美香 (57) <平成32年4月> 理学博士	生命の科学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	前田 有秀 (46) <平成31年4月> 修士(福祉心理学)	心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	山崎 裕 (62) <平成31年4月> 博士(農学)	心理・教育学概論 ※ 理科教育法 子どもの自然環境教育 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
兼任	准教授	細矢 理奈 (43) <平成31年4月> 修士(栄養学)	スポーツ栄養学
兼任	准教授	呉 正培 (44) <平成31年4月> 博士(文学)	異文化理解
兼任	准教授	馬場(佐藤) たまき (46) <平成31年4月> 修士(教育学)	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 (小・中) ※
兼任	講師	Samuel Murchie (37) <平成31年4月> Master of Divinity(米国)	キリスト教概論 I キリスト教概論 II 国際交流演習 英語リスニング
兼任	講師	横井 涉央 (49) <平成31年4月> 博士(情報科学)	福祉社会論
兼任	講師	兎澤 聖 (42) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)	児童家庭福祉
兼任	講師	田所 義郎 (39) <平成31年4月> 修士(神学)	キリスト教概論 I キリスト教概論 II キリスト教演習
兼任	講師	畑 奈保美 (49) <平成31年4月> 博士(文学)	西洋の歴史
兼任	講師	酒井 宣昭 (39) <令和2年4月> 修士(文学)	地理学
兼任	講師	石澤 理如 (45) <平成31年4月> 修士(国際文化)	市民教育
兼任	講師	荒井 偉作 (50) <令和2年4月> 学士(教養) 学士(文学)	キリスト教と現代社会
兼任	講師	前田 美香 (57) <令和2年4月> 理学博士	生命の科学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	前田 有秀 (47) <平成31年4月> 修士(福祉心理学)	心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	山崎 裕 (63) <平成31年4月> 博士(農学)	心理・教育学概論 ※ 理科教育法 子どもの自然環境教育 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
兼任	准教授	細矢 理奈 (44) <平成31年4月> 修士(栄養学)	スポーツ栄養学
兼任	准教授	呉 正培 (45) <平成31年4月> 博士(文学)	異文化理解
兼任	准教授	馬場(佐藤) たまき (47) <平成31年4月> 修士(教育学)	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 (小・中) ※
兼任	講師	Samuel Murchie (38) <平成31年4月> Master of Divinity(米国)	キリスト教概論 I キリスト教概論 II 国際交流演習 英語リスニング
兼任	講師	横井 涉央 (49) <平成31年4月> 博士(情報科学)	福祉社会論
兼任	講師	兎澤 聖 (43) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)	児童家庭福祉
兼任	講師	田所 義郎 (40) <平成31年4月> 修士(神学)	キリスト教概論 I キリスト教概論 II キリスト教演習
兼任	講師	森田 優子 (45) <令和2年4月> 博士(文学)	芸術論
兼任	講師	畑 奈保美 (49) <平成31年4月> 博士(文学)	西洋の歴史
兼任	講師	酒井 宣昭 (40) <令和2年4月> 修士(文学)	地理学
兼任	講師	石澤 理如 (46) <平成31年4月> 修士(国際文化)	市民教育
兼任	講師	荒井 偉作 (51) <令和2年4月> 学士(教養) 学士(文学)	キリスト教と現代社会
兼任	講師	前田 美香 (58) <令和2年4月> 理学博士	生命の科学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	前田 有秀 (48) <平成31年4月> 修士(福祉心理学)	心理・教育学概論 ※
兼任	准教授	山崎 裕 (64) <平成31年4月> 博士(農学)	心理・教育学概論 ※ 理科教育法 子どもの自然環境教育 学校教育学入門 学校教育学演習 卒業研究
兼任	准教授	細矢 理奈 (45) <平成31年4月> 修士(栄養学)	スポーツ栄養学
兼任	准教授	呉 正培 (46) <平成31年4月> 博士(文学)	異文化理解
兼任	准教授	馬場(佐藤) たまき (48) <平成31年4月> 修士(教育学)	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 (小・中) ※
兼任	准教授	野田 奈津実 (37) <平成31年4月> 修士(家政学)	健康と栄養
兼任	准教授	片山 統裕 (53) <令和3年4月> 博士(情報科学)	情報処理演習 情報倫理
兼任	講師	Samuel Murchie (39) <平成31年4月> Master of Divinity(米国)	キリスト教概論 I キリスト教概論 II 国際交流演習 英語リスニング
兼任	講師	横井 涉央 (50) <平成31年4月> 博士(情報科学)	福祉社会論
兼任	講師	兎澤 聖 (44) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)	児童家庭福祉
兼任	講師	寒河江 和樹 (31) <平成31年4月> 法学修士	法学概論(日本国憲法)
兼任	講師	田所 義郎 (41) <平成31年4月> 修士(神学)	キリスト教概論 I キリスト教概論 II キリスト教演習
兼任	講師	森田 優子 (46) <令和2年4月> 博士(文学)	芸術論
兼任	講師	畑 奈保美 (50) <平成31年4月> 博士(文学)	西洋の歴史
兼任	講師	酒井 宣昭 (41) <令和2年4月> 修士(文学)	地理学
兼任	講師	石澤 理如 (47) <平成31年4月> 修士(国際文化)	市民教育
兼任	講師	荒井 偉作 (52) <令和2年4月> 学士(教養) 学士(文学)	キリスト教と現代社会
兼任	講師	前田 美香 (59) <令和2年4月> 理学博士	生命の科学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	飯淵 由美 (65) ＜平成31年4月＞ 家政学士(管理栄養)
		健康と栄養
兼任	講師	佐藤 真理 (67) ＜平成31年4月＞ 学士(教育学)
		英語リーディングⅠ 英語コミュニケーションⅠ
兼任	講師	新田 貴之 (41) ＜平成31年4月＞ 博士(情報科学)
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	講師	村山 茂 (63) ＜平成31年4月＞ 文学修士
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	講師	張 基喜 (49) ＜平成31年4月＞ 博士(文学)
		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ
兼任	講師	富里 京子 (62) ＜平成31年4月＞ 修士(社会福祉学) 修士(学習心理情報学)
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	堀田 智子 (45) ＜平成32年4月＞ 博士(国際文化)
		日本語と日本事情Ⅰ 日本語と日本事情Ⅱ
兼任	講師	初山 高仁 (45) ＜平成31年4月＞ 博士(国際文化)
		情報処理演習
兼任	講師	岡井 稔 (57) ＜平成32年4月＞ 学士(産業社会学)
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	川田 真喜子 (51) ＜平成32年4月＞ 学士(文学)
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	瀬尾 千恵美 (54) ＜平成32年4月＞ 短期大学
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	浦澤 みよ子 (52) ＜平成32年4月＞ 学士(事業計画)
		海外インターンシップ
兼任	講師	寺島 英弥 (62) ＜平成31年4月＞ 学士(法学)
		メディアリテラシー
兼任	講師	天笠 茂 (68) ＜平成32年4月＞ 教育学博士
		教育課程論(小・中) ※
兼任	講師	狩野 浩二 (54) ＜平成32年4月＞ 博士(教育学)
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法(小・中) ※ 教育の方法と技術(小・中) ※
兼任	講師	神谷 拓 (44) ＜平成32年4月＞ 博士(教育学)
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法(小・中) ※
兼任	講師	安達 一寿 (55) ＜平成32年4月＞ 博士(教育学)
		教育の方法と技術(小・中) ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	飯淵 由美 (65) ＜平成31年4月＞ 家政学士(管理栄養)
		健康と栄養
兼任	講師	佐藤 真理 (68) ＜平成31年4月＞ 学士(教育学)
		英語リーディングⅠ 英語コミュニケーションⅠ
兼任	講師	新田 貴之 (41) ＜平成31年4月＞ 博士(情報科学)
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	講師	村山 茂 (63) ＜平成31年4月＞ 文学修士
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	講師	張 基喜 (49) ＜平成31年4月＞ 博士(文学)
		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ
兼任	講師	富里 京子 (62) ＜平成31年4月＞ 修士(社会福祉学) 修士(学習心理情報学)
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	堀田 智子 (45) ＜令和2年4月＞ 博士(国際文化)
		日本語と日本事情Ⅰ 日本語と日本事情Ⅱ
兼任	講師	初山 高仁 (45) ＜平成31年4月＞ 博士(国際文化)
		情報処理演習
兼任	講師	岡井 稔 (57) ＜令和2年4月＞ 学士(産業社会学)
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	川田 真喜子 (51) ＜令和2年4月＞ 学士(文学)
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	瀬尾 千恵美 (54) ＜令和2年4月＞ 短期大学
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	浦澤 みよ子 (52) ＜令和2年4月＞ 学士(事業計画)
		海外インターンシップ
兼任	講師	寺島 英弥 (63) ＜平成31年4月＞ 学士(法学)
		メディアリテラシー
兼任	講師	天笠 茂 (69) ＜平成32年4月＞ 教育学博士
		教育課程論(小・中) ※
兼任	講師	狩野 浩二 (54) ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法(小・中) ※ 教育の方法と技術(小・中) ※
兼任	講師	神谷 拓 (44) ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法(小・中) ※
兼任	講師	安達 一寿 (55) ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		教育の方法と技術(小・中) ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	飯淵 由美 (66) ＜平成31年4月＞ 家政学士(管理栄養)
		健康と栄養
兼任	講師	羽鳥 康裕 (35) ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		AI社会とデータサイエンス
兼任	講師	佐藤 真理 (69) ＜平成31年4月＞ 学士(教育学)
		英語リーディングⅠ 英語コミュニケーションⅠ
兼任	講師	新田 貴之 (42) ＜平成31年4月＞ 博士(情報科学)
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	講師	村山 茂 (64) ＜平成31年4月＞ 文学修士
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	講師	張 基喜 (50) ＜平成31年4月＞ 博士(文学)
		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ
兼任	講師	富里 京子 (63) ＜平成31年4月＞ 修士(社会福祉学) 修士(学習心理情報学)
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	堀田 智子 (46) ＜令和2年4月＞ 博士(国際文化)
		日本語と日本事情Ⅰ 日本語と日本事情Ⅱ
兼任	講師	初山 高仁 (46) ＜平成31年4月＞ 博士(国際文化)
		情報処理演習
兼任	講師	岡井 稔 (58) ＜令和2年4月＞ 学士(産業社会学)
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	川田 真喜子 (52) ＜令和2年4月＞ 学士(文学)
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	瀬尾 千恵美 (55) ＜令和2年4月＞ 短期大学
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	寺島 英弥 (63) ＜平成31年4月＞ 学士(法学)
		メディアリテラシー
兼任	講師	天笠 茂 (70) ＜平成32年4月＞ 教育学博士
		教育課程論(小・中) ※
兼任	講師	狩野 浩二 (55) ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法(小・中) ※ 教育の方法と技術(小・中) ※
兼任	講師	安達 一寿 (56) ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		教育の方法と技術(小・中) ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	羽鳥 康裕 (36) ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		AI社会とデータサイエンス
兼任	講師	佐藤 真理 (70) ＜平成31年4月＞ 学士(教育学)
		英語リーディングⅠ 英語コミュニケーションⅠ
兼任	講師	新田 貴之 (43) ＜平成31年4月＞ 博士(情報科学)
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	講師	村山 茂 (65) ＜平成31年4月＞ 文学修士
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	講師	張 基喜 (51) ＜平成31年4月＞ 博士(文学)
		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ
兼任	講師	富里 京子 (64) ＜平成31年4月＞ 修士(社会福祉学) 修士(学習心理情報学)
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	堀田 智子 (47) ＜令和2年4月＞ 博士(国際文化)
		日本語と日本事情Ⅰ 日本語と日本事情Ⅱ
兼任	講師	初山 高仁 (47) ＜平成31年4月＞ 博士(国際文化)
		情報処理演習
兼任	講師	川田 真喜子 (53) ＜令和2年4月＞ 学士(文学)
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	瀬尾 千恵美 (56) ＜令和2年4月＞ 短期大学
		キャリアデザインⅡ
兼任	講師	寺島 英弥 (64) ＜平成31年4月＞ 学士(法学)
		メディアリテラシー
兼任	講師	天笠 茂 (70) ＜平成32年4月＞ 教育学博士
		教育課程論(小・中) ※
兼任	講師	狩野 浩二 (56) ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法(小・中) ※ 教育の方法と技術(小・中) ※
兼任	講師	安達 一寿 (57) ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		教育の方法と技術(小・中) ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	会沢 信彦 (53) ＜平成33年4月＞ 教育学修士	生徒・進路指導の理論と方法(小・中) ※
兼任	講師	伊藤 順子 (68) ＜平成33年4月＞ 学士(体育学)	生徒・進路指導の理論と方法(小・中) ※
兼任	講師	松本 晴子 (62) ＜平成33年4月＞ 博士(教育学)	音楽科教育法
兼任	講師	高木 直 (71) ＜平成33年4月＞ 学士(家政学)	家庭科教育法
兼任	講師	菅家 礼子 (62) ＜平成33年4月＞ 体育修士	体育科教育法 保健体育科指導法Ⅰ 保健体育科指導法Ⅱ 保健体育科指導法Ⅲ 保健体育科指導法Ⅳ
兼任	講師	佐藤 幹夫 (68) ＜平成34年4月＞ 博士(教育学)	教育制度
兼任	講師	大木 一夫 (52) ＜平成31年4月＞ 文学修士	国語学概論 国語音声文体論 国文法論 国語史論
兼任	講師	田村 恵子 (72) ＜平成31年4月＞ 高校	書道
兼任	講師	古川 靖志 (56) ＜平成31年4月＞ 学士(体育学)	スポーツ方法B(バレーボール・バスケットボール) スポーツ方法H(スキー)
兼任	講師	林 直樹 (48) ＜平成32年4月＞ 修士(体育学)	スポーツ方法C(バドミントン・卓球)
兼任	講師	川口 鉄二 (62) ＜平成32年4月＞ 体育学修士	スポーツ方法E(器械運動・ダンス)
兼任	講師	齋藤 浩二 (61) ＜平成32年4月＞ 体育学修士	スポーツ方法F(武道)※
兼任	講師	平間 哲雄 (63) ＜平成32年4月＞ 教育学修士	スポーツ方法F(武道)※
兼任	講師	高橋 徹 (32) ＜平成32年4月＞ 博士(体育科学)	スポーツ原理
兼任	講師	藪 耕太郎 (39) ＜平成33年4月＞ 博士(社会学)	スポーツ史
兼任	講師	永田 秀隆 (50) ＜平成32年4月＞ 体育学修士	スポーツ経営管理学
兼任	講師	丸山 富雄 (70) ＜平成32年4月＞ 体育学修士	スポーツ社会学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	会沢 信彦 (53) ＜令和3年4月＞ 教育学修士	生徒・進路指導の理論と方法(小・中) ※
兼任	講師	伊藤 順子 (68) ＜令和3年4月＞ 学士(体育学)	生徒・進路指導の理論と方法(小・中) ※
兼任	講師	松本 晴子 (62) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)	音楽科教育法
兼任	講師	高木 直 (71) ＜令和3年4月＞ 学士(家政学)	家庭科教育法
兼任	講師	菅家 礼子 (62) ＜令和3年4月＞ 体育修士	体育科教育法 保健体育科指導法Ⅰ 保健体育科指導法Ⅱ 保健体育科指導法Ⅲ 保健体育科指導法Ⅳ
兼任	講師	大木 一夫 (52) ＜平成31年4月＞ 文学修士	国語学概論 国語音声文体論 国文法論 国語史論
兼任	講師	田村 恵子 (72) ＜平成31年4月＞ 高校	書道Ⅰ・Ⅱ
兼任	講師	古川 靖志 (56) ＜平成31年4月＞ 学士(体育学)	スポーツ方法B(バレーボール・バスケットボール) スポーツ方法H(スキー)
兼任	講師	林 直樹 (48) ＜令和2年4月＞ 修士(体育学)	スポーツ方法C(バドミントン・卓球)
兼任	講師	川口 鉄二 (62) ＜令和2年4月＞ 体育学修士	スポーツ方法E(器械運動・ダンス)
兼任	講師	齋藤 浩二 (61) ＜令和2年4月＞ 体育学修士	スポーツ方法F(武道)※
兼任	講師	平間 哲雄 (63) ＜令和2年4月＞ 教育学修士	スポーツ方法F(武道)※
兼任	講師	高橋 徹 (32) ＜令和2年4月＞ 博士(体育科学)	スポーツ原理
兼任	講師	藪 耕太郎 (39) ＜令和3年4月＞ 博士(社会学)	スポーツ史
兼任	講師	永田 秀隆 (50) ＜令和2年4月＞ 体育学修士	スポーツ経営管理学
兼任	講師	丸山 富雄 (70) ＜令和2年4月＞ 体育学修士	スポーツ社会学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	会沢 信彦 (54) ＜令和3年4月＞ 教育学修士	生徒・進路指導の理論と方法(小・中) ※
兼任	講師	伊藤 順子 (69) ＜令和3年4月＞ 学士(体育学)	生徒・進路指導の理論と方法(小・中) ※
兼任	講師	松本 晴子 (63) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)	音楽科教育法
兼任	講師	高木 直 (72) ＜令和3年4月＞ 学士(家政学)	家庭科教育法
兼任	講師	菅家 礼子 (63) ＜令和3年4月＞ 体育修士	体育科教育法 保健体育科指導法Ⅰ 保健体育科指導法Ⅱ 保健体育科指導法Ⅲ 保健体育科指導法Ⅳ
兼任	講師	大木 一夫 (53) ＜平成31年4月＞ 文学修士	国語学概論 国語音声文体論 国文法論 国語史論
兼任	講師	田村 恵子 (73) ＜平成31年4月＞ 高校	書道Ⅰ・Ⅱ
兼任	講師	古川 靖志 (57) ＜平成31年4月＞ 学士(体育学)	スポーツ方法B(バレーボール・バスケットボール) スポーツ方法H(スキー)
兼任	講師	林 直樹 (49) ＜令和2年4月＞ 修士(体育学)	スポーツ方法C(バドミントン・卓球)
兼任	講師	川口 鉄二 (62) ＜令和2年4月＞ 体育学修士	スポーツ方法E(器械運動・ダンス)
兼任	講師	齋藤 浩二 (62) ＜令和2年4月＞ 体育学修士	スポーツ方法F(武道)※
兼任	講師	平間 哲雄 (64) ＜令和2年4月＞ 教育学修士	スポーツ方法F(武道)※
兼任	講師	高橋 徹 (33) ＜令和2年4月＞ 博士(体育科学)	スポーツ原理
兼任	講師	藪 耕太郎 (40) ＜令和3年4月＞ 博士(社会学)	スポーツ史
兼任	講師	永田 秀隆 (51) ＜令和2年4月＞ 体育学修士	スポーツ経営管理学
兼任	講師	丸山 富雄 (71) ＜令和2年4月＞ 体育学修士	スポーツ社会学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	会沢 信彦 (55) ＜令和3年4月＞ 教育学修士	生徒・進路指導の理論と方法(小・中) ※
兼任	講師	伊藤 順子 (70) ＜令和3年4月＞ 学士(体育学)	生徒・進路指導の理論と方法(小・中) ※
兼任	講師	松本 晴子 (64) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)	音楽科教育法
兼任	講師	高木 直 (73) ＜令和3年4月＞ 学士(家政学)	家庭科教育法
兼任	講師	菅家 礼子 (64) ＜令和3年4月＞ 体育修士	体育科教育法 保健体育科指導法Ⅰ 保健体育科指導法Ⅱ 保健体育科指導法Ⅲ 保健体育科指導法Ⅳ
兼任	講師	大木 一夫 (54) ＜平成31年4月＞ 文学修士	国語学概論 国語音声文体論 国文法論 国語史論
兼任	講師	津川 えりか (60) ＜令和3年4月＞ 学士(経営学)	書道Ⅰ・Ⅱ
兼任	講師	古川 靖志 (58) ＜平成31年4月＞ 学士(体育学)	スポーツ方法B(バレーボール・バスケットボール) スポーツ方法H(スキー)
兼任	講師	林 直樹 (50) ＜令和2年4月＞ 修士(体育学)	スポーツ方法C(バドミントン・卓球)
兼任	講師	川口 鉄二 (63) ＜令和2年4月＞ 体育学修士	スポーツ方法E(器械運動・ダンス)
兼任	講師	齋藤 浩二 (63) ＜令和2年4月＞ 体育学修士	スポーツ方法F(武道)※
兼任	講師	平間 哲雄 (65) ＜令和2年4月＞ 教育学修士	スポーツ方法F(武道)※
兼任	講師	高橋 徹 (34) ＜令和2年4月＞ 博士(体育科学)	スポーツ原理
兼任	講師	藪 耕太郎 (41) ＜令和3年4月＞ 博士(社会学)	スポーツ史
兼任	講師	永田 秀隆 (52) ＜令和2年4月＞ 体育学修士	スポーツ経営管理学
兼任	講師	丸山 富雄 (72) ＜令和2年4月＞ 体育学修士	スポーツ社会学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	高井 秀明 (36) ＜平成32年4月＞ 博士(体育科学)
		スポーツ心理学
兼任	講師	粉川 妙子 (67) ＜平成31年4月＞ 教育学修士
		学校保健
兼任	講師	西川 慶 (38) ＜平成31年4月＞ 音楽学士
		オーケストラ(総合音楽)
兼任	講師	勝田 亮 (52) ＜平成32年4月＞ 法学士
		子どもの人権と教育
兼任	講師	小泉 紀子 (48) ＜平成34年4月＞ 修士(文学)
		世界の子ども
兼任	講師	永井 伸幸 (44) ＜平成33年4月＞ 修士(心身障害学)
		視覚障害教育総論
兼任	講師	澤 隆史 (52) ＜平成33年4月＞ 修士(教育学)
		聴覚障害教育論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	高井 秀明 (36) ＜令和2年4月＞ 博士(体育科学)
		スポーツ心理学
兼任	講師	粉川 妙子 (67) ＜平成31年4月＞ 教育学修士
		学校保健
兼任	講師	佐藤 正男 (67) ＜平成31年4月＞ 体育学士
		コンディショニング方法演習
兼任	講師	西川 慶 (38) ＜平成31年4月＞ 音楽学士
		オーケストラ(総合音楽)
兼任	講師	勝田 亮 (52) ＜令和2年4月＞ 法学士
		子どもの人権と教育
兼任	講師	小泉 紀子 (48) ＜令和4年4月＞ 修士(文学)
		世界の子ども
兼任	講師	永井 伸幸 (44) ＜令和3年4月＞ 修士(心身障害学)
		視覚障害教育総論
兼任	講師	澤 隆史 (52) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		聴覚障害教育論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	高井 秀明 (37) ＜令和2年4月＞ 博士(体育科学)
		スポーツ心理学
兼任	講師	菱沼 ゆう (68) ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		学校保健
兼任	講師	佐藤 正男 (68) ＜平成31年4月＞ 体育学士
		コンディショニング方法演習
兼任	講師	持田 眞 (61) ＜令和2年4月＞ 芸術学士
		オーケストラ(総合音楽)
兼任	講師	勝田 亮 (53) ＜令和2年4月＞ 法学士
		子どもの人権と教育
兼任	講師	小泉 紀子 (49) ＜令和4年4月＞ 修士(文学)
		世界の子ども
兼任	講師	永井 伸幸 (45) ＜令和3年4月＞ 修士(心身障害学)
		視覚障害教育総論
兼任	講師	澤 隆史 (53) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		聴覚障害教育論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	高井 秀明 (38) ＜令和2年4月＞ 博士(体育科学)
		スポーツ心理学
兼任	講師	菱沼 ゆう (69) ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		学校保健
兼任	講師	佐藤 正男 (69) ＜平成31年4月＞ 体育学士
		コンディショニング方法演習
兼任	講師	持田 眞 (62) ＜令和2年4月＞ 芸術学士
		オーケストラ(総合音楽)
兼任	講師	勝田 亮 (54) ＜令和2年4月＞ 法学士
		子どもの人権と教育
兼任	講師	小泉 紀子 (50) ＜令和4年4月＞ 修士(文学)
		世界の子ども
兼任	講師	永井 伸幸 (46) ＜令和3年4月＞ 修士(心身障害学)
		視覚障害教育総論
兼任	講師	澤 隆史 (54) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		聴覚障害教育論

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 - ・ その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

・専任で就任予定の三好敏之教授が心理学類の専任に就任のため兼担となる。

【令和2年度】

「該当なし」

【令和3年度】

・土田定克准教授が教授に職位変更「教員審査省略」

【令和4年度】

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
5	3
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
10	4	1	1	16	0	10	3	1	1	15	0
(10)	(4)	(1)	(1)	(16)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
6	2	1	1	10	0	9	2	1	1	13	0
(△4)	(△2)	(0)	(0)	(△5)	(0)	(△1)	(△2)	(0)	(0)	(△3)	(0)

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
教授・准教授 67 講師 64 歳	5	2
	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{10}{16} = \boxed{62.5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{5}{15} = \boxed{33.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		該当なし					
合計（D）					後任補充状況の集計（E）		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし					
合計（F）					後任補充状況の集計（G）		
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D) + (F)			後任補充状況の集計(E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{16} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
合計			後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

特になし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和元年)	完成年度前に、定年規定に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めると共に、教員組織編制の将来構想について検討すること。	留意事項 完成年次における専任教員は30歳代1人、40歳代3人、50歳代4人、60歳代6人、70歳代2人であり、今後の採用人事については、30歳～40歳代の若手教員を積極的に採用し、組織の活性化を図ると共にバランスのとれた年齢構成になるように計画的に行っていく。	履行中 引き続き、退職者の補充については、研究業績も考慮しながら40歳代以下の教員を中心に公募、補充をしていく。
設置計画履行状況調査時 (令和元年)	入学定員超過の改善に努めること。(心理・教育学群学校教育学類)	指摘事項(改善) 入学者管理を徹底すると共に学生の受入れ方針を明確化し、入試要項、ホームページ等を通じ、求める学生像を明示した上で改善に努める。	履行済 入学試験制度と入学手続きの動向(データ)等を考慮し、入学手続き者を定員内に収めるように努めている。
設置計画履行状況調査時 (令和2年)	入学定員超過の改善に努めること。(心理・教育学群心理学類)	指摘事項(改善) 各入試区分における合否判定についてここ最近の入学手続き状況を考慮し、より一層慎重に行う。	履行中 入試区分別募集人員をここ最近の志願状況、入学手続き状況に合ったものに変更する。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<心理・教育学群 学校教育学類 >

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
「該当なし」	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学の教員のファカルティ・ディベロプメント（FD）を推進するために、「尚綱学院大学FD・SD委員会規程」により、教学担当副学長を委員長とした委員会を中心にFD研修会を実施している。一方、授業の内容及び方法の改善を向上させるための調査研究、施策の立案と実施を支援し、その充実を図ることを目的とした「教育開発推進委員会」は、研修会のテーマや内容などについても立案、提言を行い、研修会の企画・立案・実施に深く関与している。両委員会の委員長はいずれも教学担当副学長であり、両委員会が連携し中心となってFDの推進を実施する体制となっている。また、「本学の不断の教育改善」と「具体的な社会貢献」を目的に、尚綱学院大学総合人間科学研究機構（機構長：学長）を開設し、共同研究プロジェクトによる研究・調査活動や研究会、市民公開講座、講演会等を行い教育研究の質向上に努めている。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

教育開発推進委員会は、月1回実施し、教学担当副学長を委員長として、教務部長、教務課長、教育研究支援課長、その他委員長が必要と認める教員複数名で構成されている。（教育開発推進委員会規程）

c 委員会の審議事項等

- (1) 大学教育に全般にわたる新しい教育システムの研究開発
- (2) 全学カリキュラム改革、教養教育、高大連携、FD、リメディアル教育、導入教育、授業評価の研究開発ならびにこれらに基づく提言及び推進
- (3) 教育開発・改善に必要とされる運営委員会及びワーキンググループの検討と設置
- (4) 教育課程の編成方針及び調整
- (5) 教育課程その他の教育プログラムの改善
- (6) 本学における教養教育を含む教育課程に関する中期目標・中期計画

② 実施状況

a 実施内容

2020年度は、「教育開発推進委員会」等と「FD・SD委員会」が連携して研修会を開催。

・非対面型授業方法についての研修会（2020年4月8日、9日開催）

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、非対面授業の実施に向け、①非対面型授業方法について、②授業動画作成の工夫、③Campusmate-jを使った授業支援方法についての研修。

・非対面型授業方法についての研修会Part2（2020年4月15日開催）

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、非対面授業の実施に向け、①Campusmate-jを使った授業支援方法、②PowerPointを使った授業動画作成の手順についてについての研修。

・非対面型授業方法についての研修会Part3（2020年4月17日開催）

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、非対面授業の実施に向け、①Zoomの使用方法について、②非対面型（遠隔）授業の具体的なプランについて研修。

・非対面型授業方法についての研修会Part4（2020年4月21日開催）

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、非対面授業の実施に向け、① OneDriveの使用方法についての研修。

・非対面型授業に関するFD研修会（2020年8月24日開催）

前期実施した授業について、①非対面型授業の事例発表（学内教員3件）、②非対面型授業アンケートの結果（学生アンケート、教員アンケート）についての研修

・後期授業実施に向けたFD研修会（2020年9月15日開催）

新型コロナウイルス感染症が終息しない状況を踏まえ、①後期の授業運営についての説明、②新しく導入するCoursePower（LMS）操作研修を実施し、対面授業と非対面授業が混在するハイブリッド授業についての理解と、LMSを活用した学習管理と学生サポートについての研修。

・非対面型授業基礎研修（2020年9月15日開催）

新型コロナウイルス感染症が終息しない状況を踏まえ、非対面授業を展開するうえでのツールとなる①Zoomの使い方、②OneDriveへのデータ保存方法、③PowerPoint活用について理解を深め考えるための研修。

・教学マネジメント指針に関するFD研修会（2020年10月22日開催）

教学マネジメントの在り方、特に学習成果の見える化について理解を深め考えるための研修。

・AI・データサイエンス教育に関するFD研修会（2020年10月22日開催）

AI・データサイエンス教育を担当する教員に向け、講演を通して理解を深め考えるための研修。

・2021年度シラバスおよびCoursePowerに関するFD研修会（2020年11月25日開催）

2021年度のシラバスの準備にあたり、学生が理解しやすくするため、基本的な記載内容、方法を統一するため2021年度シラバス作成、および本格的運用が開始されたCoursePowerの利用法について実例を交えて理解を深め考えるための研修。

・著作権、授業目的公衆送信補償金に関するFD研修会（2021年2月25日開催）

非対面授業における授業資料等の作成で問題となる著作権について、①著作権法及び授業等における著作権利用と授業目的公衆送信補償金制度の概要について理解を深め考えるための研修。

・学生支援体制構築にむけて支援のあり方を考えるFD研修会（2021年2月25日開催）

発達障害のある学生への必要な支援の在り方について理解を深め考えるための研修。

・2021年度授業担当者FD研修会（2021年3月10日開催）

尚綱学院大学の全授業担当者を対象とし、授業に関する共通理解を深め、教育効果を高めるため、①尚綱学院大学の取り組みについて、②授業への取り組みについてのお願ひ、③学生と接する際の留意事項、④2021年度授業運営について、⑤SPレーダーの集計結果と今後についての5つのテーマについて理解を深め考えるための研修。

・LGBDQ+に関する理解および支援の在り方を考えるFD研修会（2021年3月12日開催）

LGBDQ+についての理解を深めるとともに、必要な支援の在り方について考えるための研修。

b 実施方法

・非対面型授業方法についての研修会（2020年4月8日、9日開催）

学内教員が解説、質疑に答える研修を対面で実施した。

・非対面型授業方法についての研修会Part2（2020年4月15日開催）

学内教員が解説、質疑に答える研修を対面で実施した。

・非対面型授業方法についての研修会Part3（2020年4月17日開催）

学内教員が解説、質疑に答える研修を対面及び非対面（Zoom）で実施した。

・非対面型授業方法についての研修会Part4（2020年4月21日開催）

学内教職員が解説、質疑に答える研修を対面及び非対面（Zoom）で実施した。

・非対面型授業に関するFD研修会（2020年8月24日開催）

学内教員3件の事例紹介とアンケート結果等の説明と質疑応答を非対面（Zoom）で実施した。

・後期授業実施に向けたFD研修会（2020年9月15日開催）

学内教職員、並びにCoursePowerの導入元業者による解説と質疑応答を非対面（Zoom）で実施した。

・非対面型授業基礎研修（2020年9月15日開催）

学内教職員による説明と質疑応答を対面型実施した。

・教学マネジメント指針に関するFD研修会（2020年10月22日開催）

講師に大森昭生氏を迎え、「誰のための教学マネジメントか」と題した講演を頂いた後、質疑応答を行った。（Zoomでの実施。一部対面）

・AI・データサイエンス教育に関するFD研修会（2020年10月22日開催）

現代社会の動向、Society5.0に向けた社会、AI及びその影響、データ分析などを扱う教員を主な対象とし、講師に高谷将宏氏を招き、「AIを通して広がる学びとDX」について講演を頂いた後、質疑応答を行った。（対面とZoomでの実施）

・2021年度シラバスおよびCoursePowerに関するFD研修会（2020年11月25日開催）

学内教員による解説と質疑応答を非対面（Zoom）で実施した。

・著作権、授業目的公衆送信補償金に関するFD研修会（2021年2月25日開催）

本学職員による解説と質疑応答を非対面（Zoom）で実施した。

・学生支援体制構築にむけて支援のあり方を考えるFD研修会（2021年2月25日開催）

講師に池田忠義氏を招き「発達障害のある学生への対応」について講演を頂いた後、質疑応答を行った。（Zoomでの実施）

・2021年度授業担当者FD研修会（2021年3月10日開催）

尚綱学院大学の全授業担当者を対象とし、5つのテーマについて学内教職員による説明と質疑を行った。（Zoomでの実施）

・LGDBQ+に関する理解および支援の在り方を考えるFD研修会（2021年3月12日開催）
講師として勝又栄政 氏を招き、「LGDBQ+に関する基礎知識」について講演を頂いた後、質疑応答を行った。（Zoomでの実施）

* 非対面型（Zoom）で実施したFDは、レコーディングして後からでも視聴できるようにした。

C 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・非対面型授業方法についての研修会（2020年4月8日、9日開催）
教員 94名の出席（両日参加ありのため、延べ参加人数）
- ・非対面型授業方法についての研修会Part2（2020年4月15日開催）
教員 61名の出席
- ・非対面型授業方法についての研修会Part3（2020年4月17日開催）
教員 56名の出席
- ・非対面型授業方法についての研修会Part4（2020年4月21日開催）
（出席者の確認なし）
- ・非対面型授業に関するFD研修会（2020年8月24日開催）
教員 64名の出席
- ・後期授業実施に向けたFD研修会（2020年9月15日開催）
教員 56名の出席
- ・非対面型授業基礎研修（2020年9月15日開催）
教員 5名の出席
- ・教学マネジメント指針に関するFD研修会（2020年10月22日開催）
教員 8名の出席（教務部関連教員のみFD）
- ・AI・データサイエンス教育に関するFD研修会（2020年10月22日開催）
教員 18名の出席
- ・2021年度シラバスおよびCoursePowerに関するFD研修会（2020年11月25日開催）
教員 59名の出席
- ・著作権、授業目的公衆送信補償金に関するFD研修会（2021年2月25日開催）
教員 78名の出席
- ・学生支援体制構築にむけて支援のあり方を考えるFD研修会（2021年2月25日開催）
教員 66名の出席
- ・2021年度授業担当者FD研修会（2021年3月10日開催）
教員 84名の出席
- ・LGDBQ+に関する理解および支援の在り方を考えるFD研修会（2021年3月12日開催）
教員 72名の出席

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

「該当なし」

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）
- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
- c 委員会の審議事項等
- d その他

② 審議状況

- a 審議した内容

- b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

- c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自己点検及び自己評価を行い、その結果を公表することを尚綱学院大学学則第2条に規定している。その実施方法や体制等については、「尚綱学院大学自己点検・評価委員会規程」に定められており、学長を委員長とし、大学の自己点検・評価とともに2年毎に実施している。自己点検・評価の項目は、日本高等教育評価機構の定める基準と大学の使命・目的に基づいて独自に設定した基準により評価している。

＜日本高等教育評価機構が定める基準＞

- 基準1 使命・目的等
- 基準2 学修と教授
- 基準3 経営・管理と財務
- 基準4 自己点検・評価

＜大学の使命・目的に基づいて独自に設定した基準＞

- 基準A 研究活動
- 基準B 地域貢献・国際交流

これらの基準に関して、エビデンスにもとづいた自己点検・評価を実現するために、2016年4月からIR委員会（2019年度からIR推進部門専門委員会に名称変更）を設置し、基本データや学生アンケートなど現状把握に必要なデータをFACT BOOKに集約し、各種の改善に努めている。その結果は自己点検・評価報告書にまとめ、大学のウェブサイトに掲載している。

大学機関別認証評価では、2017（平成29）年度に財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受け、2018（平成30）年3月7日付けで、「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしている」と認定された。

この他、自己点検・評価活動の客観性を保ち、教育研究水準の向上を図るため、他大学の教員、産業界、自治体関係者等の有識者による外部評価委員会を設置し、自己点検・評価報告書をもとに評価をもらい、その意見を改善活動に反映させている。

2019年度から管理運営体制が変更となり、「自己点検・評価委員会」から「内部質保証委員会」に変更となりこれまでの基準等の見直しを図りながらあらためて進めて行く予定である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

時期 未定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・未定

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和3年 6月 30日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注） ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。